

市民意識調査  
結果報告書

平成26年12月

稲城市



はじめに

稲城市は、現在、第四次長期総合計画に基づき、「緑につつまれ友愛に満ちた市民のまち稲城」の実現に向け、福祉や教育、環境、都市基盤整備など、様々な施策に取り組んでおります。

また、日頃より、市政運営においては、「市政への提案」をはじめ、市民の皆さんと市長が語り合う「タウンミーティング」など、市民の皆さんからいただいたご意見やご要望を施策に反映していくことが大切であると考えております。

今回、市民意識調査は、こうした広聴事業の一つとして、市政に対するニーズや満足度と、その変化を把握するために実施しました。

本書は、今回の調査結果を取りまとめたものです。今後の市政運営や計画策定の基礎資料として活用させていただくとともに、市民の皆さんへ行政に対する理解や関心を深めていただきたく、ここに報告書として公表いたします。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました市民の皆さんに心からお礼を申し上げます。

平成26年12月

稲城市長 高橋 勝浩



# 目 次

<b>第1章 調査設計</b> .....	1
1. 調査実施の目的 .....	3
2. 調査手法 .....	3
3. 回収状況 .....	3
4. 調査項目 .....	3
5. 報告書の見かた .....	4
<b>第2章 調査回答者の属性</b> .....	5
<b>第3章 調査結果の詳細</b> .....	12
1. 稲城市の住みやすさについて .....	13
(1) 稲城市の住みやすさ .....	13
(2) 今後の居留意向 .....	16
(3) 住み続けたい理由 .....	19
(4) 転出したい理由 .....	22
2. 稲城市での暮らしやすさの満足度について .....	23
(1) 保健・医療・福祉の満足度 .....	23
(2) 教育・文化の満足度 .....	27
(3) 商工業・観光・農林業の満足度 .....	31
(4) 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度 .....	35
(5) 市政運営の満足度 .....	39
3. 稲城市のまちづくりの方向について .....	43
(1) 市の将来像のイメージ .....	43
(2) 進めるべきまちづくり .....	46
4. 今後の施策等について .....	49
(1) 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策 .....	49
(2) 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス .....	52
(3) 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス .....	55
(4) 学校教育について力を入れるべき施策 .....	58
(5) 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス .....	61
(6) 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと .....	64
(7) 都市基盤について力を入れるべきこと .....	67
(8) 生活環境について力を入れるべきこと .....	70
(9) 防災や防犯について力を入れるべきこと .....	73
(10) 近所づきあいの程度 .....	76
(11) 地域や組織への参加意向 .....	79

(12) 行政施策への関心度	82
(13) 市民と行政との協働によるまちづくり	85
(14) 「広報いなぎ」の精読度	88
(15) 「広報いなぎ」の紙面に期待すること	91
(16) 「広報いなぎ」を見ない理由	94
(17) 市のホームページの閲覧状況	95
(18) 公式ホームページをみる媒体	98
(19) 行政活動への参加方法	100
(20) 参加したくない・できない理由	103
5. 自由記入	105

第4章 調査票	109
---------	-----

# 第1章 調査設計





## 1. 調査実施の目的

今回、平成23年度を計画初年度とする「第四次長期総合計画」の中間期を迎えるにあたり、市民の生活形態の現状、施策に対する満足度等を把握し、今後の市政資料とするため実施した。

## 2. 調査手法

- (1) 調査地域：稲城市全域
- (2) 調査対象：市内在住の16歳以上の男女
- (3) 対象者数：2,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）※男女共同参画に関する実態調査と同時に実施
- (6) 調査期間：平成26年7月14日～平成26年7月31日

## 3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	2,000	
回収数	738	36.9%
有効回収数	736	36.8%

## 4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性 (F1～F8) (2) 稲城市の住みやすさについて (問1～問2-2) (3) 稲城市での暮らしやすさの満足度について (問3～問7) (4) 稲城市のまちづくりの方向について (問8～問9) (5) 今後の施策等について (問10～問25-1) ◎ 自由意見

## 5. 報告書の見かた

- (1) 基数となる実数n (number of cases) は設問に対する回答者数である。
- (2) 回答はすべて百分率 (%) で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答を求める質問の回答については、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (4) 図表中の「-」は質問や選択肢への回答者がいないことを表している。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 分析の軸とした調査回答者の属性（年齢別、居住地域別など）でnが少ないもの（20人未満を目安）は、分析の対象から外している。
- (7) 質問における選択肢を統合し、【 】を用いて記述している場合がある。

例

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を統合して【住みやすい】

- (8) 表の色分け表記について、下記のとおりとする。

属性内での1位： **XX.X**      属性内での2位： **XX.X**

- (9) 割合の表記については、下記のとおりとする。

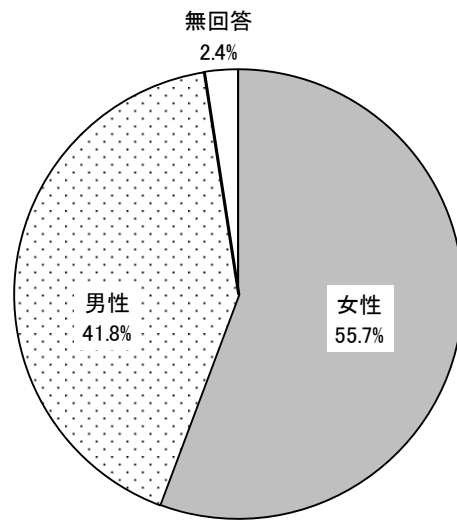
例：40%台

表記	約4割（4割）	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱（5割）
範囲	40.1～40.9% (40.0%)	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9% (50.0%)

## 第2章 調査回答者の属性

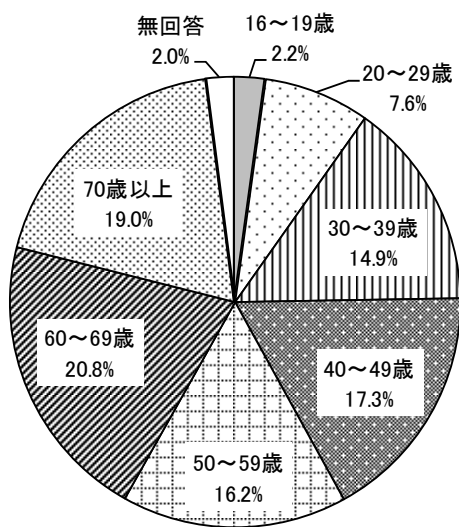


## 1. 性別



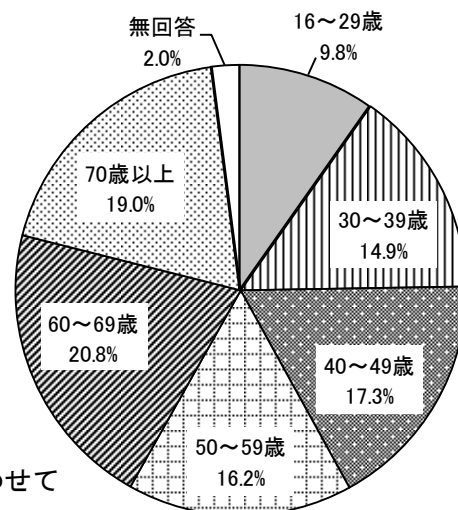
(n=736)

## 2. 年齢



(n=736)

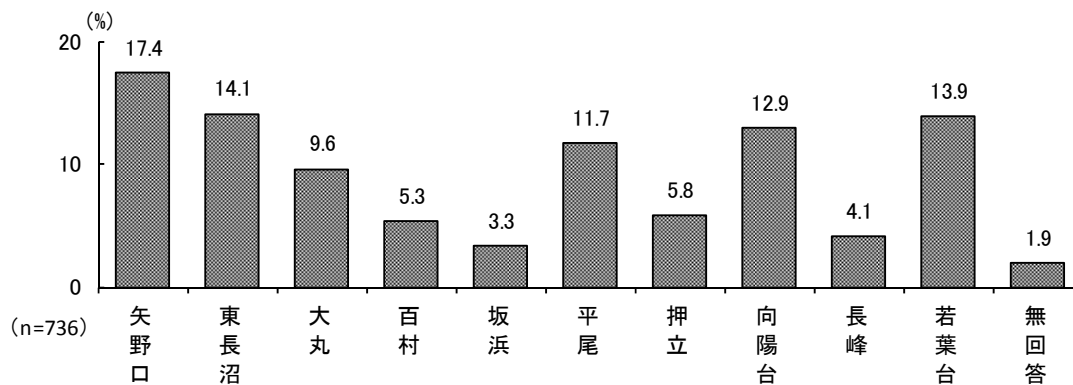
《 再計 》



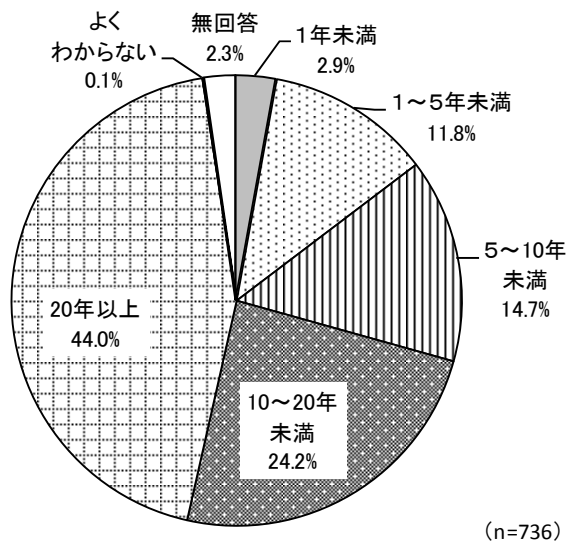
(n=736)

※「第3章調査結果の詳細」で使用する年齢別の表やグラフでは、“16~19歳”と“20~29歳”を合わせて“16~29歳”としている。

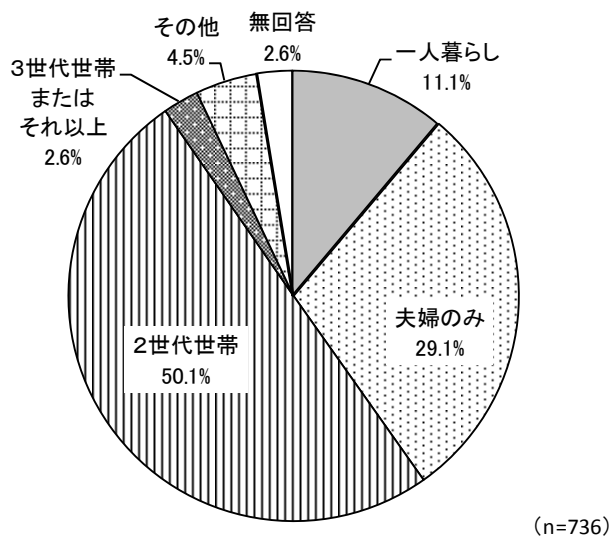
### 3. 居住地域



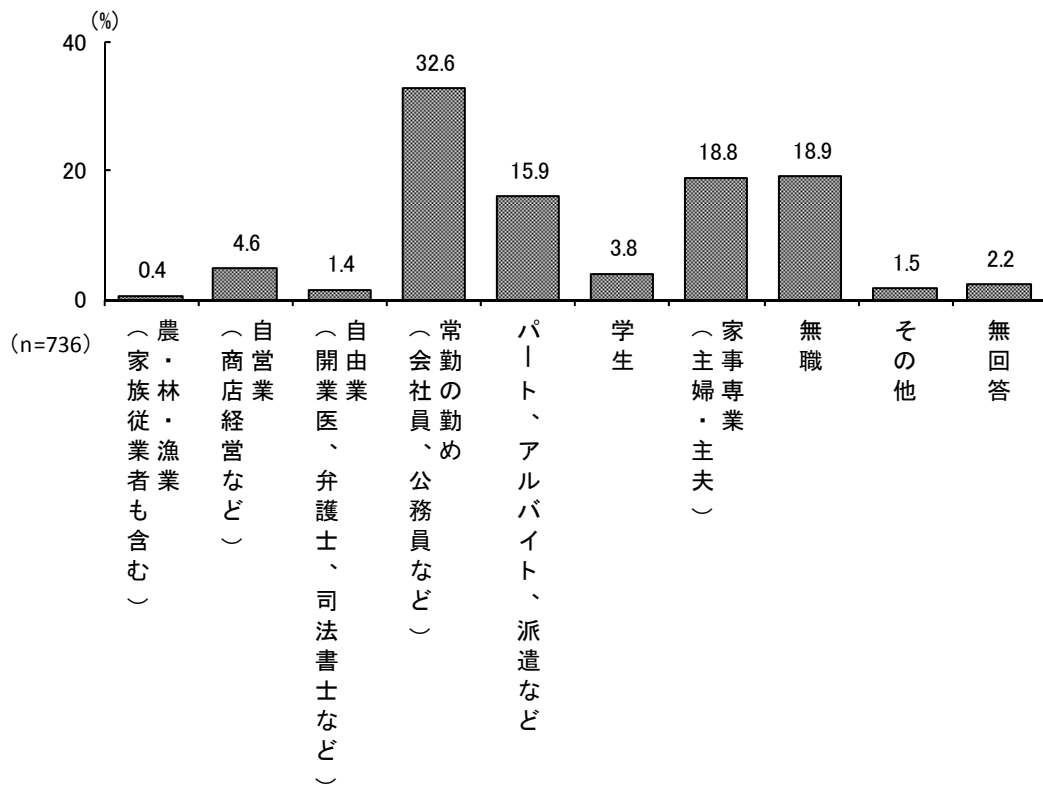
### 4. 居住年数



### 5. 世帯構成

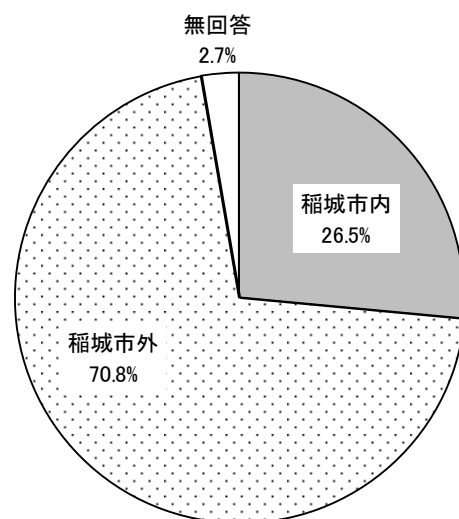


## 6. 職業



## 7. 仕事場

※「農・林・漁業」、「自営業」、「自由業」、「常勤の勤め」、「パート、アルバイト、派遣など」と回答した人への限定質問



(n=404)





## 第3章 調査結果の詳細



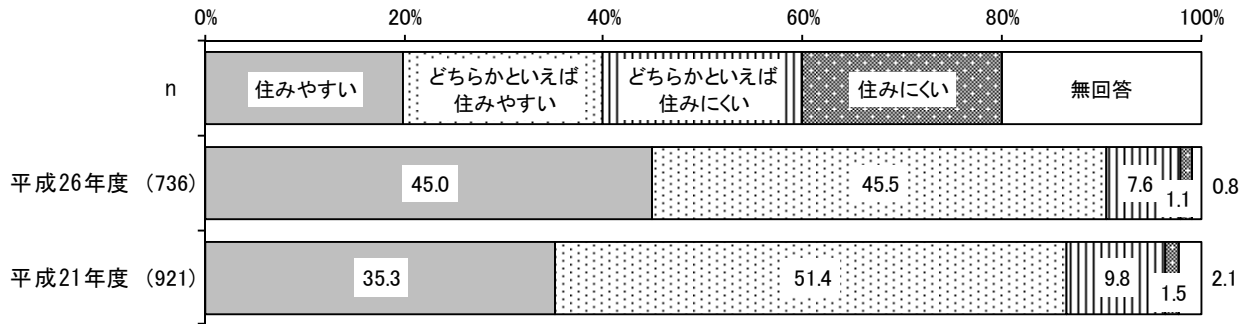
# 1. 稲城市の住みやすさについて

## (1) 稲城市の住みやすさ

◇【住みやすい】が約9割

問1 あなたは、稲城市を住みやすいところだと思いますか。(○は1つ)

図 1-1 稲城市の住みやすさ

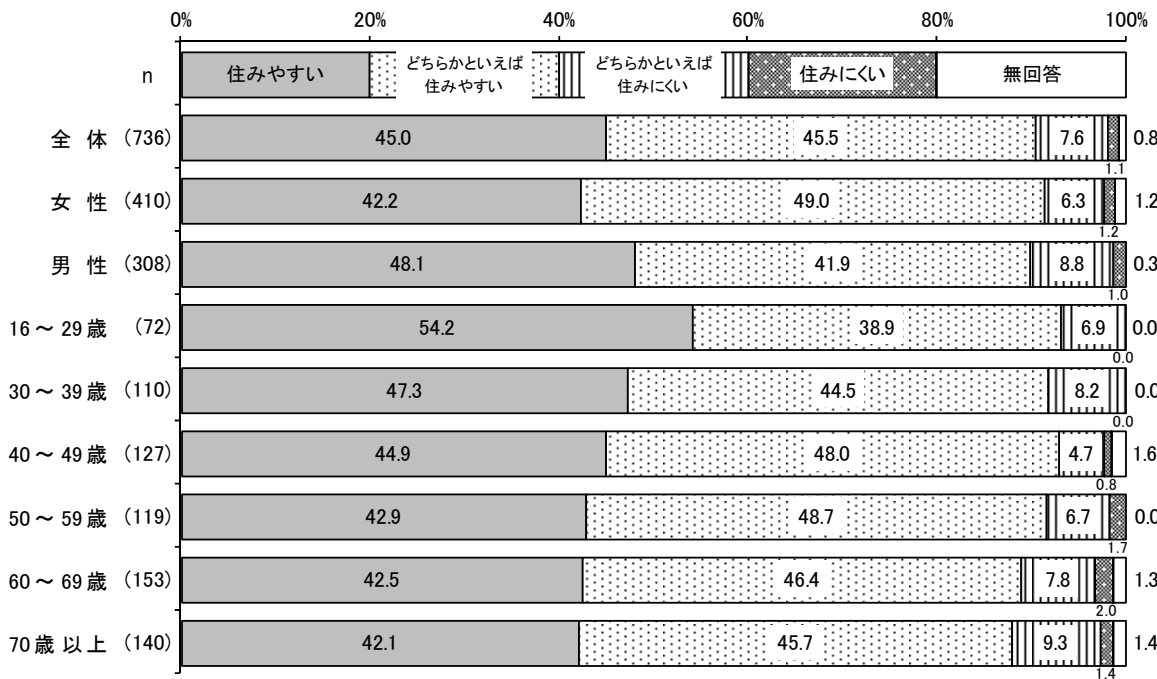


稲城市の住みやすさについては、「どちらかといえば住みやすい」(45.5%)、「住みやすい」(45.0%)が多くなっている。「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」を合わせた【住みやすい】(90.5%)は約9割となっている。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(7.6%)と「住みにくい」(1.1%)を合わせた【住みにくい】(8.7%)は1割未満である。

前回調査と比較すると、【住みやすい】は3.8ポイント増加している。(図 1-1)

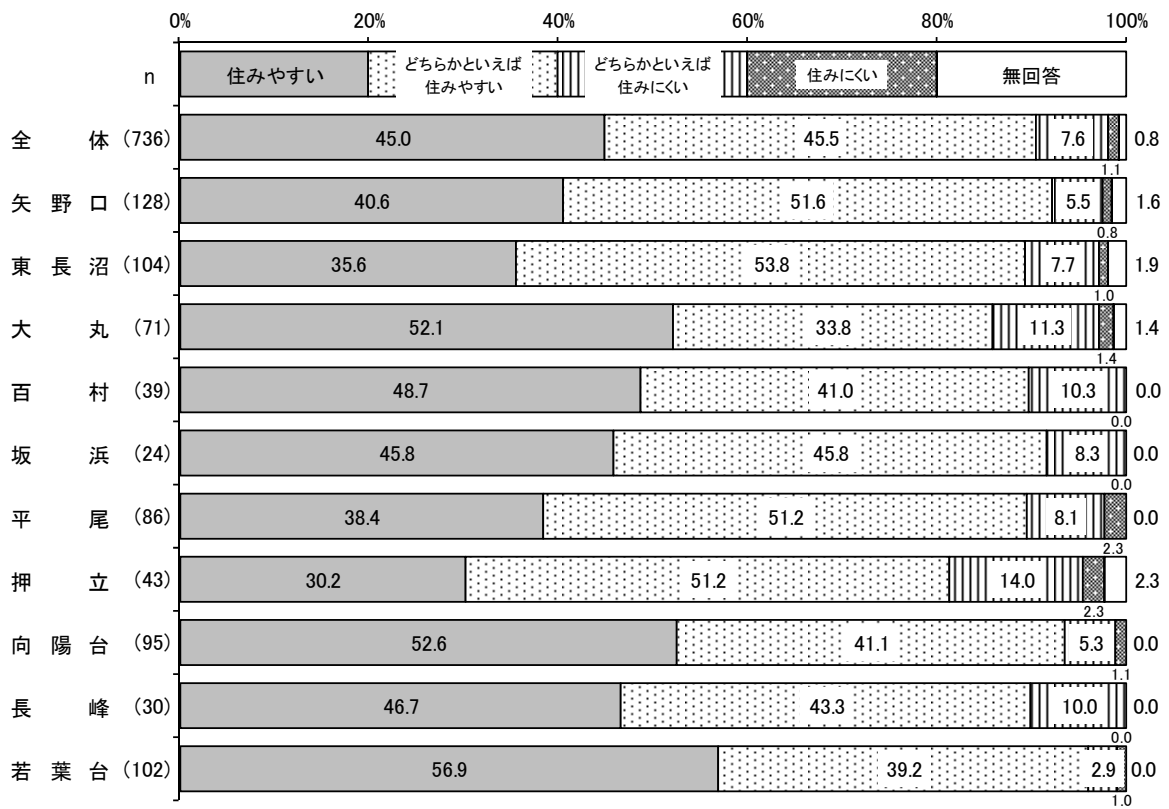
図 1-1-1 稲城市の住みやすさ－性別・年齢別



性別で見ると、女性は「どちらかといえば住みやすい」が多く、男性は「住みやすい」が多くなっている。【住みやすい】は、男女ともに9割以上となっている。

年齢別で見ると、【住みやすい】は16～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で9割強、60～69歳、70歳以上で9割近くとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 稲城市の住みやすさ－居住地域別



居住地域別でみると、【住みやすい】は矢野口、坂浜、向陽台、長峰、若葉台で9割以上となっている。しかし、【住みやすい】は押立で8割強と他の居住地域と比較して最も低くなっている。

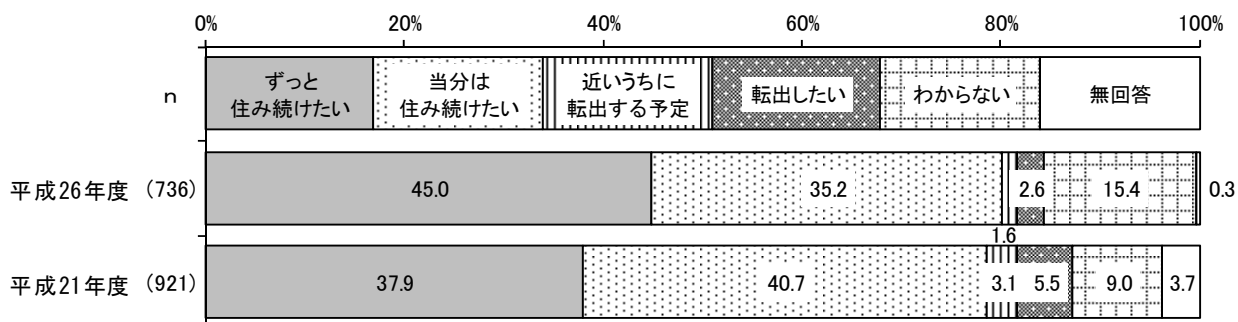
(図 1-1-2)

## (2) 今後の居留意向

◇【居住希望】が約8割

問2 あなたは、これからもずっと稲城市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図1-2 今後の居留意向

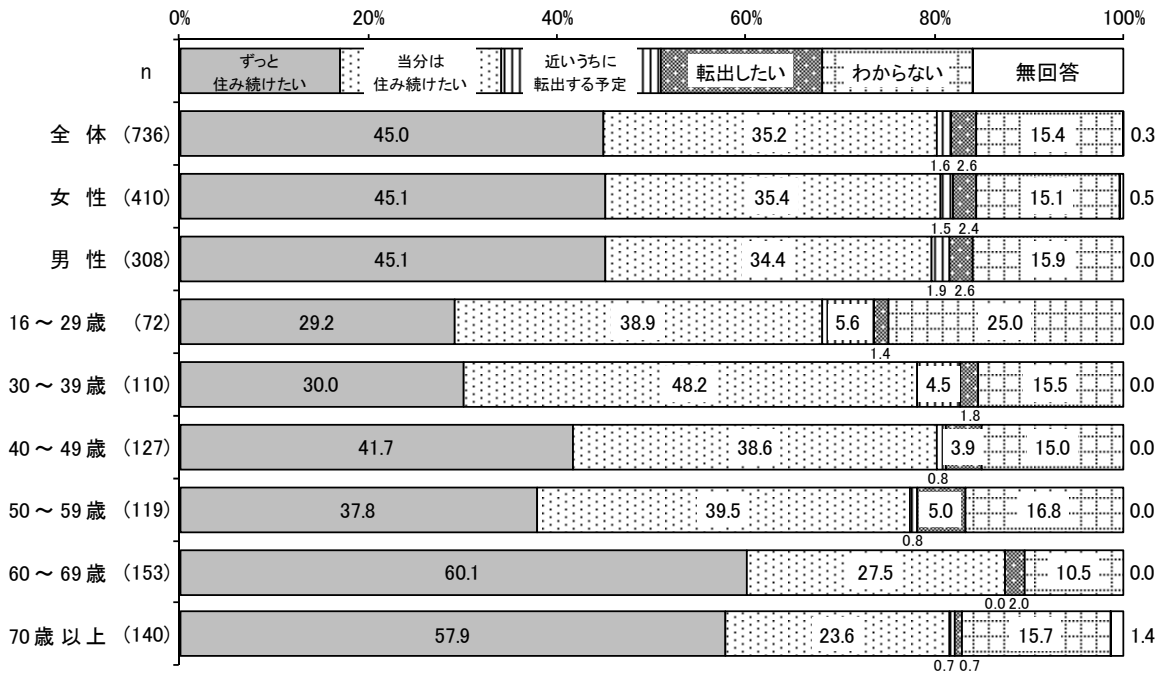


今後の居留意向については、「ずっと住み続けたい」(45.0%)が最も多くなっている。次いで、「当分は住み続けたい」(35.2%)、「転出したい」(2.6%)、「近いうちに転出する予定」(1.6%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた【居住希望】(80.2%)は約8割となっている。

一方、「近いうちに転出する予定」(1.6%)と「転出したい」(2.6%)を合わせた【転出希望】(4.2%)は少ない。

前回調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は7.1ポイント増加し、【居住希望】についても1.6ポイント増加している。(図1-2)

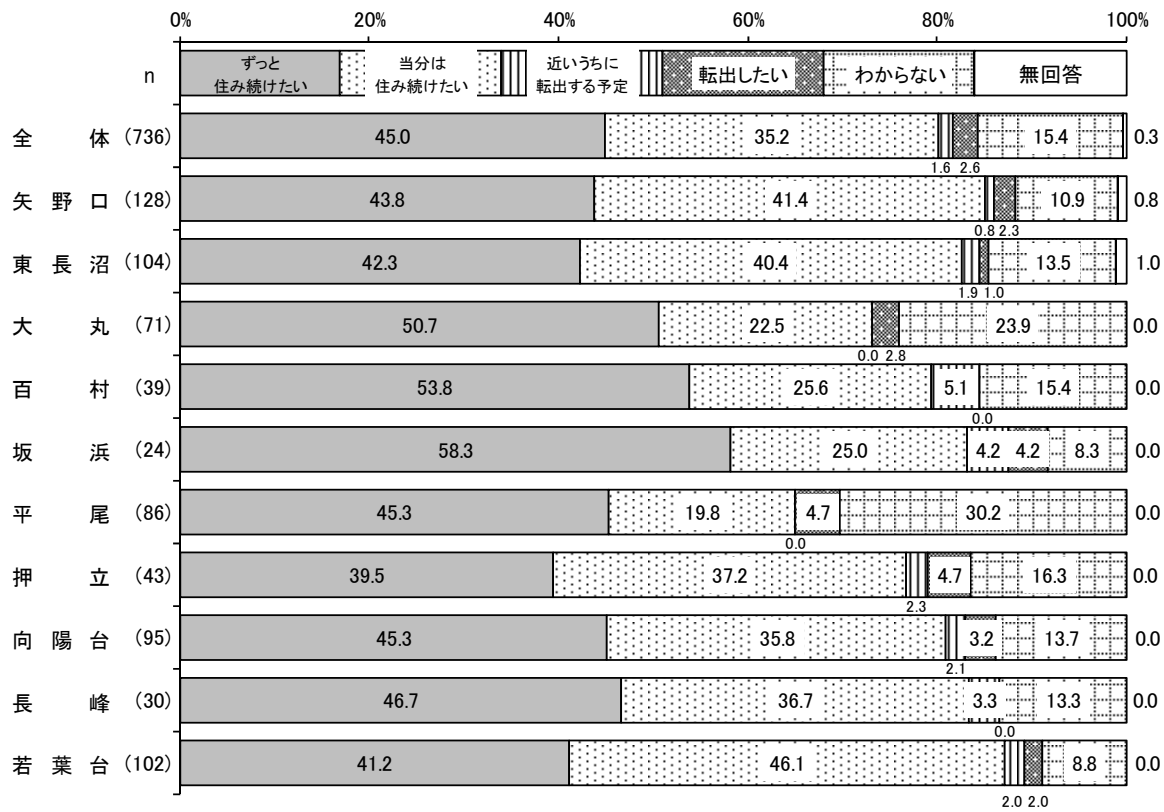
図 1-2-1 今後の居留意向－性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに「ずっと住みたい」が4割台半ばと多く、【居住希望】は、男女ともに8割前後となっている。

年齢別で見ると、【居住希望】は40～49歳、60～69歳、70歳以上で8割以上と多くなっているが、16～29歳では7割以下となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 今後の居留意向－居住地域別



居住地域別でみると、【居住希望】は矢野口、東長沼、坂浜、向陽台、長峰、若葉台で8割以上と多くなっている。しかし、【居住希望】は平尾で6割台半ばと他の居住地域と比較して最も少なくなっている。(図1-2-2)

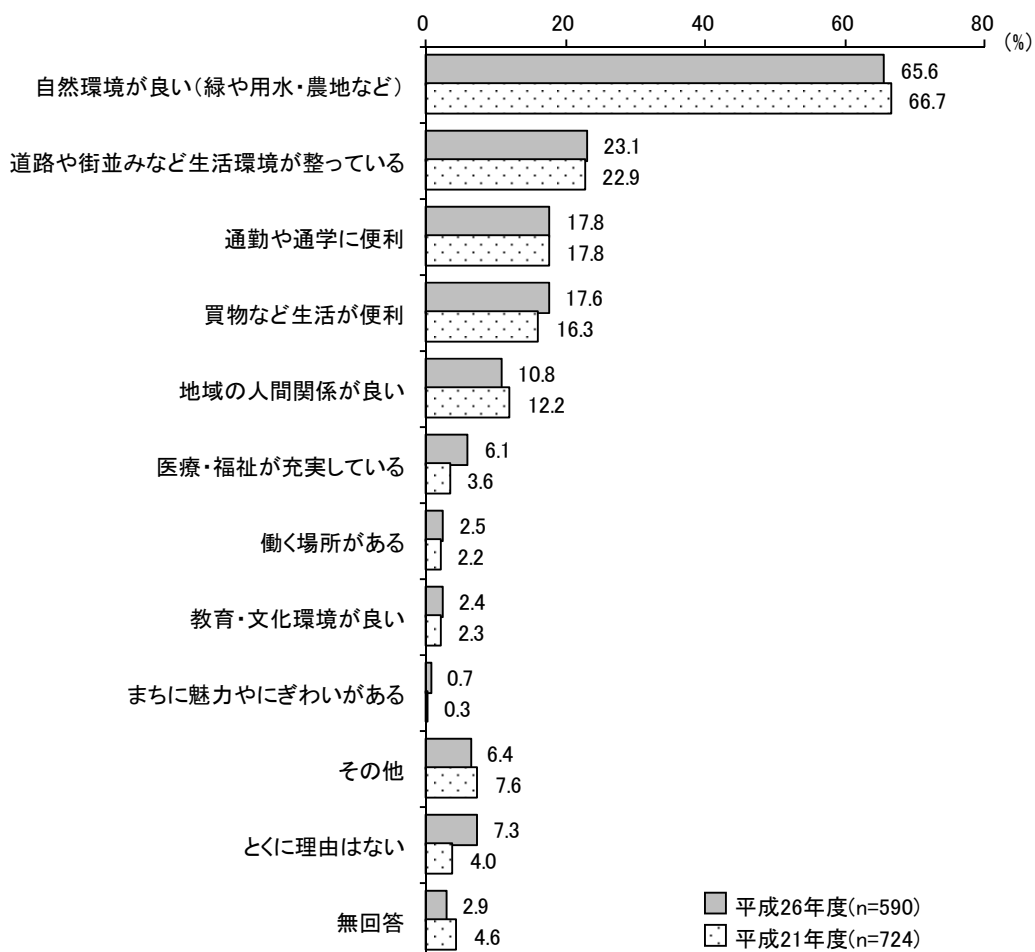


### (3) 住みたい理由

◇「自然環境が良い」が6割台半ば

問2-1 (問2で「ずっと住みたい」「当分は住みたい」とお答えの方に)  
住みたい理由は何ですか。(〇は2つまで)

図1-3 住みたい理由



住みたい理由については、「自然環境が良い(緑や用水・農地など)」(65.6%)が最も多く、次いで、「道路や街並みなど生活環境が整っている」(23.1%)、「通勤や通学に便利」(17.8%)、「買物など生活が便利」(17.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「自然環境が良い(緑や用水・農地など)」はわずかに減少しているが、全体的に変化はみられない。(図1-3)

図 1-3-1 住み続けたい理由－性別・年齢別

		(%)											
	調査数 (n)	自然環境が良い	道路や街並みなど生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	あまに魅力やにぎわいがある	その他	とくに理由はない	無回答
全体	590	65.6	23.1	17.8	2.5	2.4	17.6	6.1	10.8	0.7	6.4	7.3	2.9
女性	330	65.5	22.1	19.7	0.9	1.2	20.3	6.7	8.8	0.3	7.9	7.9	3.0
男性	245	64.5	23.7	15.1	4.9	4.1	14.3	5.3	13.5	1.2	4.9	6.9	2.4
16～29歳	49	57.1	26.5	34.7	-	-	12.2	8.2	2.0	4.1	16.3	8.2	-
30～39歳	86	57.0	14.0	27.9	1.2	3.5	19.8	2.3	11.6	-	5.8	10.5	3.5
40～49歳	102	66.7	27.5	22.5	3.9	4.9	17.6	2.9	3.9	-	7.8	4.9	3.9
50～59歳	92	67.4	35.9	28.3	3.3	2.2	16.3	4.3	10.9	-	3.3	1.1	3.3
60～69歳	134	70.1	17.9	7.5	3.0	1.5	20.9	6.0	14.9	-	5.2	7.5	3.7
70歳以上	114	64.9	18.4	2.6	2.6	1.8	15.8	13.2	14.9	1.8	6.1	12.3	1.8

性別で見ると、男女ともに「自然環境が良い」が6割台半ばと多くなっている。また、女性は「買物など生活が便利」が6.0ポイント、「通勤や通学に便利」が4.6ポイント男性よりもそれぞれ高く、男性は「地域の人間関係が良い」が4.7ポイント、「働く場所がある」が4.0ポイント女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢において「自然環境が良い」が5割以上と多くなっている。

(図 1-3-1)

図 1-3-2 住み続けたい理由－居住地域別

		(%)											
	調査数 (n)	自然環境が良い	道路や街並みなど生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	あまに魅力やにぎわいがある	その他	とくに理由はない	無回答
全 体	590	65.6	23.1	17.8	2.5	2.4	17.6	6.1	10.8	0.7	6.4	7.3	2.9
矢 野 口	109	56.0	8.3	29.4	5.5	-	25.7	8.3	5.5	-	5.5	6.4	6.4
東 長 沼	86	59.3	9.3	25.6	2.3	-	12.8	9.3	12.8	-	5.8	15.1	-
大 丸	52	61.5	7.7	28.8	1.9	-	11.5	9.6	7.7	1.9	3.8	9.6	7.7
百 村	31	71.0	19.4	35.5	-	6.5	12.9	3.2	6.5	-	12.9	-	3.2
坂 浜	20	80.0	10.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	10.0	-	5.0	20.0	-
平 尾	56	57.1	1.8	12.5	1.8	3.6	35.7	3.6	26.8	3.6	10.7	5.4	-
押 立	33	69.7	9.1	6.1	9.1	6.1	6.1	6.1	24.2	-	6.1	12.1	3.0
向 陽 台	77	77.9	48.1	7.8	-	1.3	9.1	5.2	6.5	1.3	11.7	2.6	1.3
長 峰	25	88.0	60.0	-	4.0	8.0	4.0	-	12.0	-	4.0	-	-
若 葉 台	89	64.0	51.7	6.7	-	4.5	24.7	4.5	6.7	-	2.2	5.6	3.4

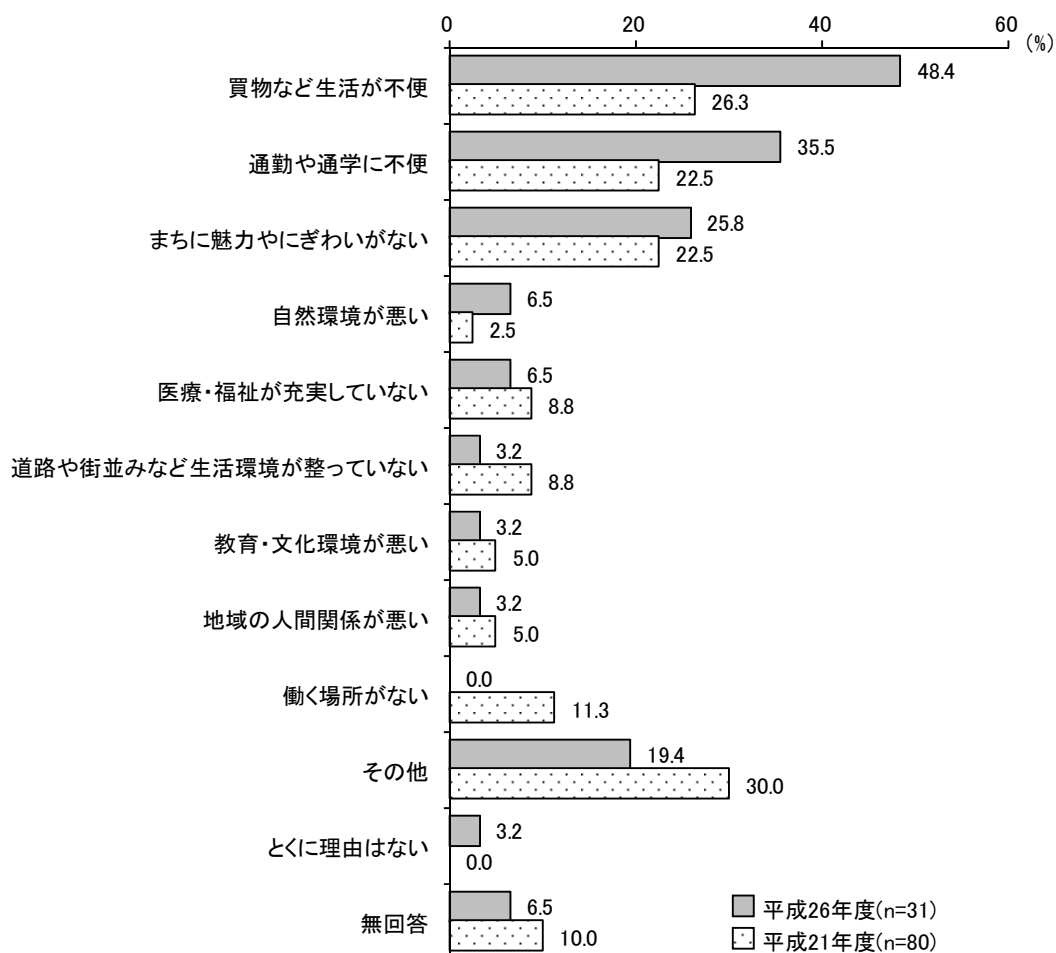
居住地域別でみると、すべての地域において「自然環境が良い」が5割以上と多く、特に坂浜、長峰では8割以上となっている。他に、「道路や街並みなど生活環境が整っている」は向陽台、長峰、若葉台で4割以上、「通勤や通学に便利」は百村で3割台半ば、「買物など生活が便利」は平尾で3割台半ば、「地域の人間関係が良い」は平尾、押立で2割以上と、他の地域と比較して多くなっている。(図1-3-2)

#### (4) 転出したい理由

◇「買物など生活が不便」が5割近く

問2-2 (問2で「近いうちに転出する予定」「転出したい」とお答えの方に)  
 転出したい理由は何ですか。(〇は2つまで)

図 1-4 転出したい理由



転出したい理由については、「買物など生活が不便」(48.4%)が最も多く、次いで、「通勤や通学に不便」(35.5%)、「まちに魅力やにぎわいが無い」(25.8%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「買物など生活が不便」は22.1ポイント、「通勤や通学に不便」は13.0ポイント増加している。(図 1-4)

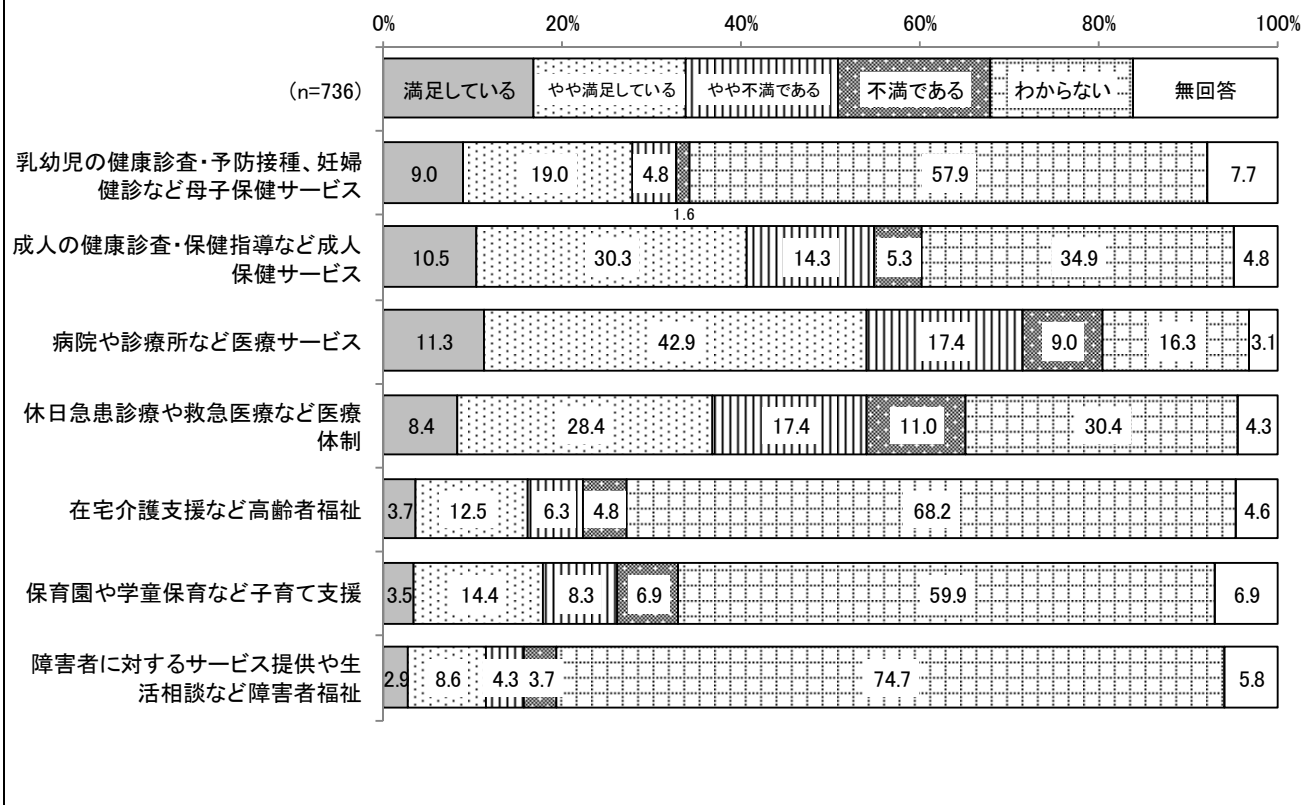
## 2. 稲城市での暮らしやすさの満足度について

### (1) 保健・医療・福祉の満足度

◇ “病院や診療所など医療サービス” は、【満足している】が5割台半ば

問3 あなたは、保健・医療・福祉の施策やサービスに関する次の項目について満足していますか。ア)～キ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-1 保健・医療・福祉の満足度



保健・医療・福祉の施策やサービスの満足度については、「やや満足している」は“病院や診療所など医療サービス” (42.9%) で最も多くなっている。「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】は、“病院や診療所など医療サービス” (54.2%)、 “成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス” (40.8%) で多くなっている。

「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】は、“休日急患診療や救急医療など医療体制” (28.4%)、 “病院や診療所など医療サービス” (26.4%) で3割近くとなっている。

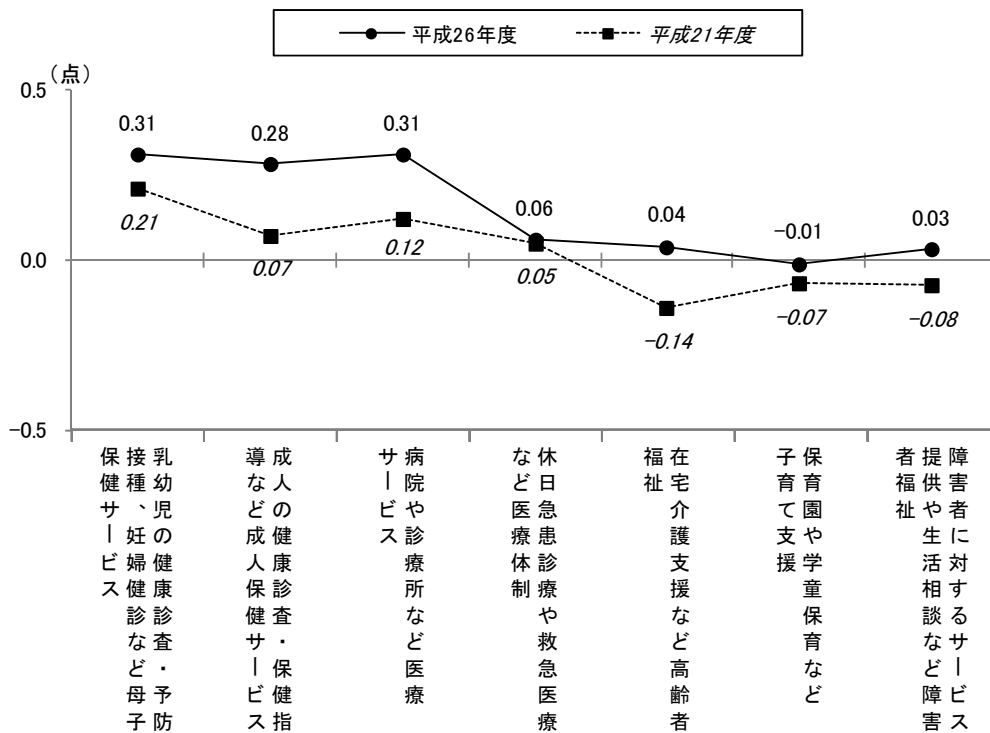
(図2-1)

図2-1-1 保健・医療・福祉の満足度（評価点）－経年比較

<算出方法>

「満足している」を+2点、「やや満足している」を+1点、「やや不満である」を-1点、「不満である」を-2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は+2点から-2点の間で表される。満足度が高いものは+、低いものは-に得点が分布される。



前回調査と比較すると、すべての項目において評価点が高くなっている。特に“成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス”は+0.21点、“病院や診療所など医療サービス”は+0.19点、“在宅介護支援など高齢者福祉”は+0.18点となっている。(図2-1-1)

図2-1-2 保健・医療・福祉の満足度（評価点）－性別・年齢別

(点)

	保健サービス 乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健康診査など母子保健サービス	成人の健康診査・保健指導	病院や診療所など医療サービス	休日急患診療や救急医療など医療体制	在宅介護支援など高齢者福祉	保育園や学童保育など子育て支援	障害者に対する生活相談など障害者福祉
全体	0.31	0.28	0.31	0.06	0.04	-0.01	0.03
女性	0.30	0.26	0.30	0.02	0.03	-0.06	0.02
男性	0.34	0.30	0.32	0.14	0.08	0.08	0.04
16～29歳	0.14	0.08	0.54	0.17	0.04	-0.06	0.10
30～39歳	0.46	-0.06	0.24	0.00	0.09	-0.19	0.04
40～49歳	0.38	0.10	0.14	-0.06	-0.06	-0.10	0.00
50～59歳	0.32	0.07	0.00	-0.13	-0.05	0.06	-0.09
60～69歳	0.20	0.58	0.38	0.23	0.06	0.04	0.10
70歳以上	0.36	0.71	0.62	0.22	0.22	0.22	0.05

性別で見ると、すべての項目において男性の評価点が女性よりも高くなっている。特に“保育園や学童保育など子育て支援”は+0.14点、“休日急患診療や救急医療など医療体制”は+0.12点、男性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、“乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健康診査など母子保健サービス”は30～39歳で高く、“休日急患診療や救急医療など医療体制”は60～69歳で高く、“障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉”は16～29歳と60～69歳で高くなっている。他の項目は70歳以上で高くなっている。(図2-1-2)

図 2-1-3 保健・医療・福祉の満足度（評価点）－居住地域別

	保健サービス 乳幼児の健康診 査・母子防	成人の健康診 査・保健指	病院や診療所 など医療	休日急患診療 や救急医療	在宅介護支 援など高齢者	子育て支援 や学童保育	障害者に対する 生活相談など
全体	0.31	0.28	0.31	0.06	0.04	-0.01	0.03
矢野口	0.27	0.14	0.10	-0.04	0.00	-0.12	0.00
東長沼	0.38	0.24	0.31	0.03	0.02	-0.14	-0.05
大丸	0.63	0.36	0.27	-0.03	-0.01	0.11	0.14
百村	0.32	0.46	0.56	-0.03	0.03	-0.03	-0.05
坂浜	0.43	-0.04	0.26	0.22	0.09	0.22	-0.13
平尾	0.15	0.54	0.25	0.12	0.04	0.09	0.05
押立	0.37	0.51	0.73	0.08	0.14	-0.06	0.08
向陽台	0.20	0.19	0.31	0.23	-0.03	0.00	0.02
長峰	0.32	0.45	0.45	0.07	0.04	0.07	0.14
若葉台	0.28	0.16	0.35	0.13	0.23	0.07	0.08

居住地域別でみると、“乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス”は大丸で、“成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス”は平尾で、“病院や診療所など医療サービス”は押立で高くなっている。(図 2-1-3)

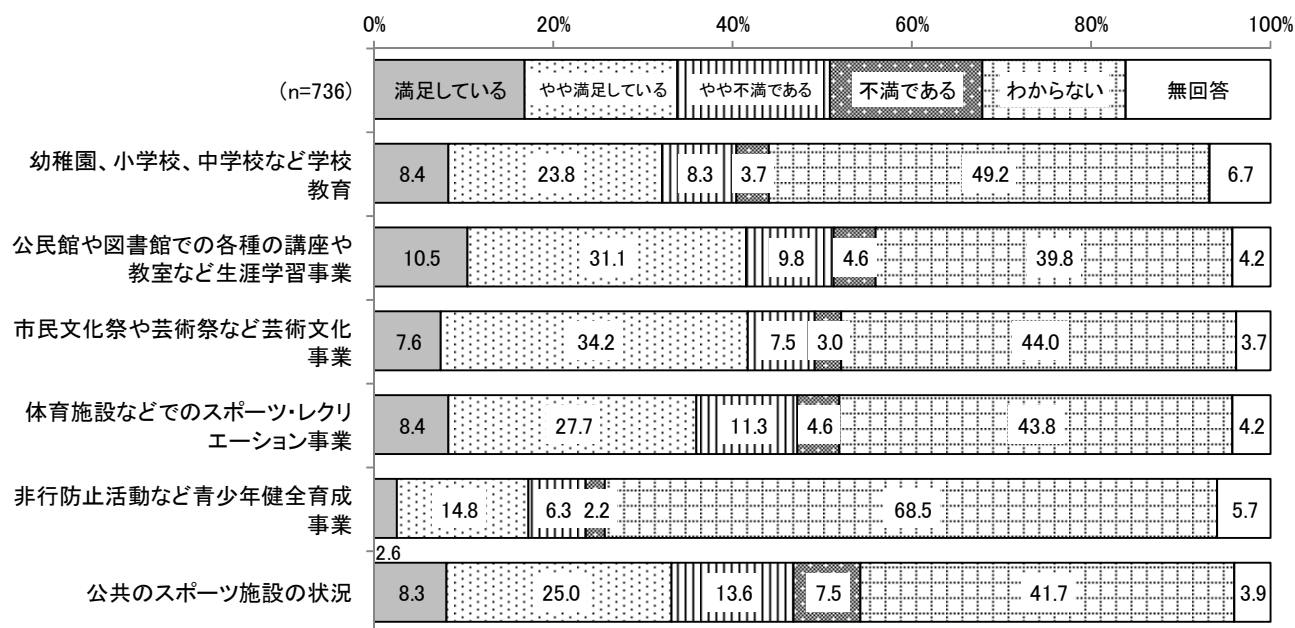


## (2) 教育・文化の満足度

◇ “公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”と“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”は、【満足している】が4割強

問4 あなたは、教育・文化の施策やサービスに関する次の項目について満足していますか。  
ア)～カ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-2 教育・文化の満足度



教育・文化の施策やサービスの満足度については、「わからない」を除いて、「やや満足している」が“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”（34.2%）、“公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”（31.1%）で多く、【満足している】は、“公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”（41.6%）、“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”（41.8%）で多くなっている。

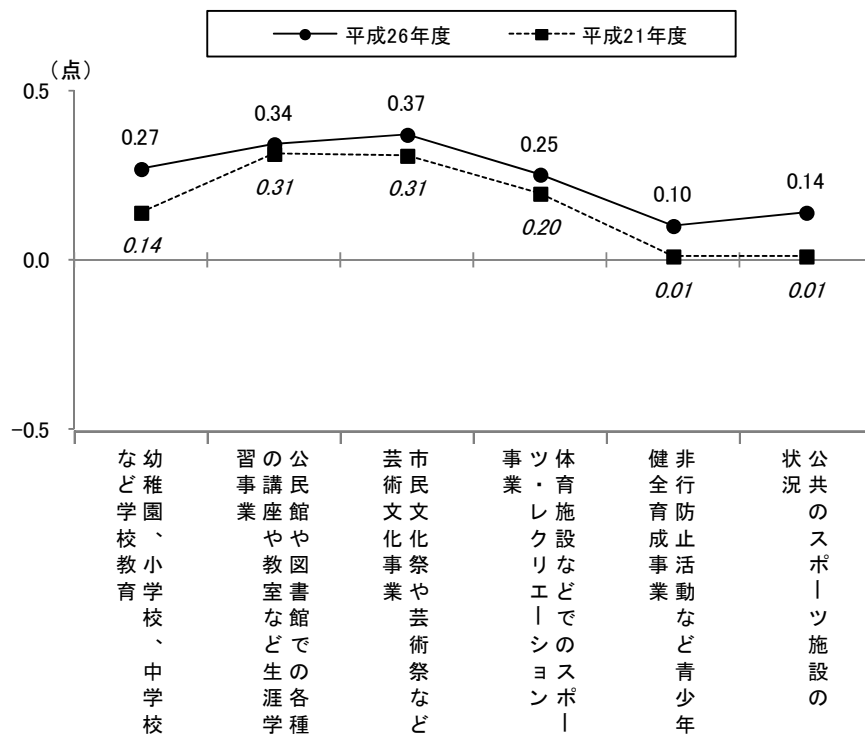
【不満である】は、“公共のスポーツ施設の状況”（21.1%）で多くなっている。（図2-2）

図 2-2-1 教育・文化の満足度（評価点）－経年比較

<算出方法>

「満足している」を＋2点、「やや満足している」を＋1点、「やや不満である」を－1点、「不満である」を－2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は＋2点から－2点の間で表される。満足度が高いものは＋、低いものは－に得点が分布される。



前回調査と比較すると、すべての項目において評価点が高くなっている。特に“幼稚園、小学校、中学校など学校教育”と“公共のスポーツ施設の状況”はともに＋0.13点となっている。

(図 2-2-1)

図2-2-2 教育・文化の満足度（評価点）－性別・年齢別

	幼稚園、小学校、中学校など学校教育	公民館や図書館や教室など生涯学習事業	市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業	体育施設などでのスポーツ事業	非行防止活動など青少年健全育成事業	公共のスポーツ施設の状況
全体	0.27	0.34	0.37	0.25	0.10	0.14
女性	0.28	0.34	0.45	0.30	0.13	0.21
男性	0.26	0.38	0.28	0.20	0.07	0.06
16～29歳	0.54	0.32	0.54	0.27	0.18	0.28
30～39歳	0.24	0.35	0.19	0.20	0.08	0.25
40～49歳	0.17	0.33	0.33	0.34	0.09	0.19
50～59歳	0.32	0.23	0.28	0.12	0.09	-0.01
60～69歳	0.16	0.32	0.40	0.21	0.11	0.03
70歳以上	0.35	0.57	0.56	0.37	0.09	0.19

性別で見ると、“公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”を除くすべての項目において女性の評価点が男性よりも高くなっている。特に“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”は女性の方が+0.17点高くなっている。

年齢別で見ると、“幼稚園、小学校、中学校など学校教育”は16～29歳で、“公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”と“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”は70歳以上で高くなっている。(図2-2-2)

図2-2-3 教育・文化の満足度（評価点）－居住地域別

(%)

	幼稚園、小学校、中学校など学校教育	公民館や図書館での生涯学習講座や教室など	市民文化祭や芸術祭など	スポーツ・レクリエーション事業	体育施設などでのスポーツ	健全育成事業	非行防止活動など青少年	公共のスポーツ施設の状況
全体	0.27	0.34	0.37	0.25	0.10	0.10	0.14	
矢野口	0.18	0.23	0.27	0.10	0.15	0.15	0.00	
東長沼	0.17	0.29	0.25	0.23	-0.01	-0.01	0.09	
大丸	0.32	0.61	0.60	0.26	0.15	0.15	0.20	
百村	0.37	0.62	0.33	0.44	0.08	0.08	0.38	
坂浜	0.22	0.25	0.38	0.13	0.00	0.00	0.35	
平尾	0.13	0.05	0.25	-0.05	-0.03	-0.03	-0.37	
押立	0.29	0.50	0.55	0.16	0.08	0.08	0.14	
向陽台	0.26	0.61	0.49	0.51	0.17	0.17	0.42	
長峰	0.29	0.36	0.61	0.54	0.21	0.21	0.21	
若葉台	0.55	0.28	0.35	0.37	0.18	0.18	0.32	

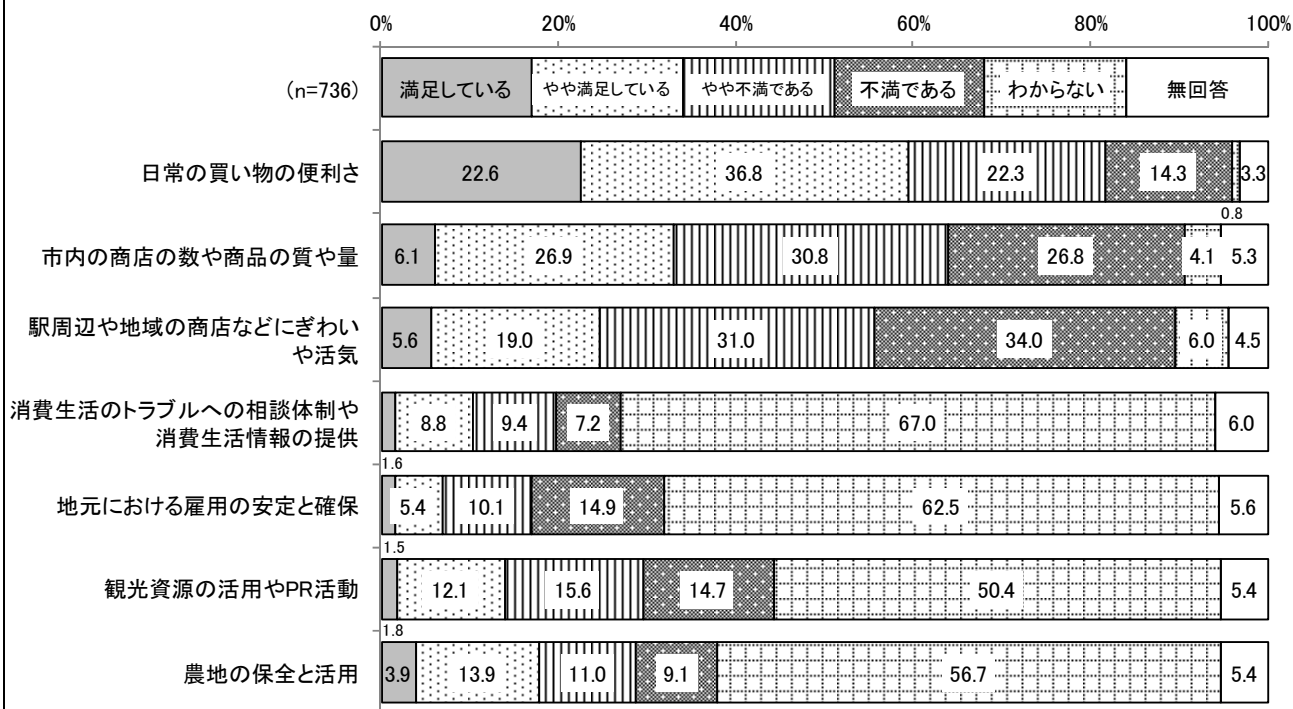
居住地域別でみると、“幼稚園、小学校、中学校など学校教育”は若葉台で、“公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業”は大丸、百村、向陽台で、“市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業”は大丸、長峰で、“体育施設などでのスポーツ・レクリエーション事業”は向陽台、長峰で高くなっている。(図2-2-3)

### (3) 商工業・観光・農林業の満足度

◇ “日常の買い物の便利さ” は、【満足している】が6割弱

問5 あなたは、商工業・観光・農林業の施策に関する次の項目について満足していますか。  
ア)～キ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-3 商工業・観光・農林業の満足度



商工業・観光・農林業の施策の満足度については、「わからない」を除いて、「やや満足している」は“日常の買い物の便利さ”(36.8%)で最も多くなっている。【満足している】は、“日常の買い物の便利さ”(59.4%)で最も多くなっている。

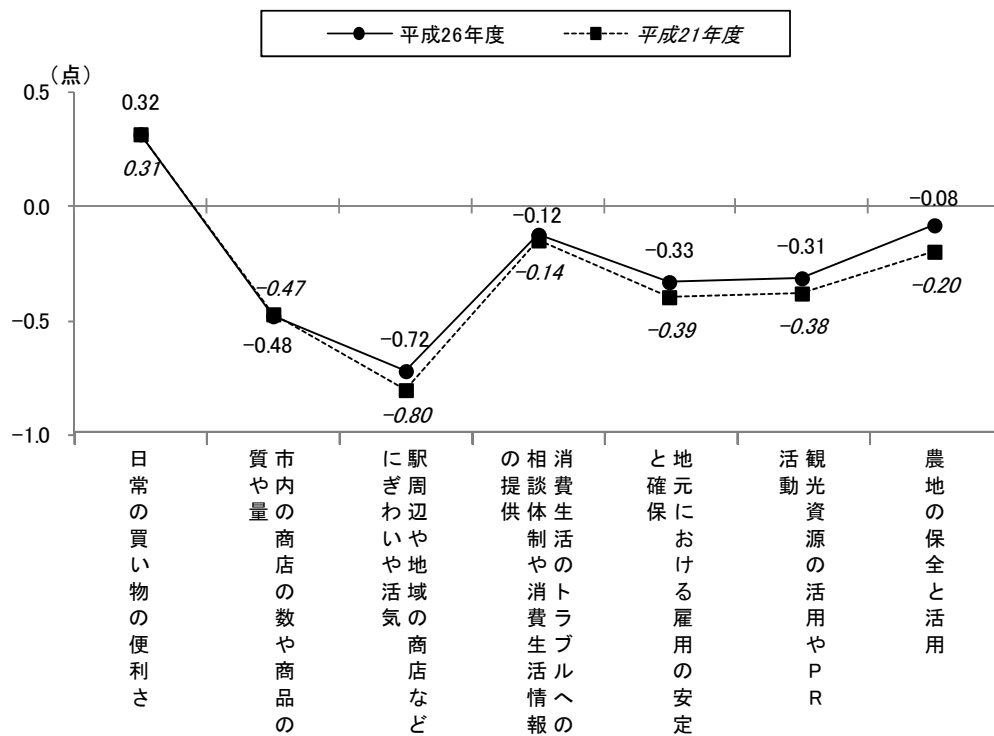
【不満である】は、“駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気”(65.0%)、“市内の商店の数や商品の質や量”(57.6%)で多くなっている。(図2-3)

図2-3-1 商工業・観光・農林業の満足度（評価点）－経年比較

＜算出方法＞

「満足している」を＋2点、「やや満足している」を＋1点、「やや不満である」を－1点、「不満である」を－2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は＋2点から－2点の間で表される。満足度が高いものは＋、低いものは－に得点が分布される。



前回調査と比較すると、“市内の商店の数や商品の質や量”を除く項目において評価点が高くなっている。特に“農地の保全と活用”は＋0.12点となっている。(図2-3-1)

図 2-3-2 商工業・観光・農林業の満足度（評価点）－性別・年齢別

(点)

	日常の 買い物の 便利さ	市内の 商店の 数や商品 の	駅周辺 や地域の 活気	相談体制 や生活情 報の	消費生活 のトラブ ルへの	地元にお ける雇 用の安 定	観光資 源の活 用やP R	農地 の保 全と 活 用
全 体	0.32	-0.48	-0.72	-0.12	-0.33	-0.31	-0.08	
女 性	0.34	-0.45	-0.70	-0.10	-0.28	-0.17	0.03	
男 性	0.34	-0.49	-0.76	-0.14	-0.40	-0.47	-0.20	
16 ～ 29 歳	0.50	-0.06	-0.40	0.01	0.01	0.04	0.16	
30 ～ 39 歳	0.33	-0.48	-0.62	0.02	-0.36	-0.19	0.10	
40 ～ 49 歳	0.28	-0.52	-0.73	-0.17	-0.33	-0.29	-0.04	
50 ～ 59 歳	0.32	-0.68	-0.94	-0.17	-0.57	-0.33	-0.13	
60 ～ 69 歳	0.23	-0.56	-0.75	-0.16	-0.31	-0.39	-0.23	
70 歳 以上	0.42	-0.34	-0.74	-0.17	-0.31	-0.49	-0.16	

性別で見ると、男女ともに“日常の買い物の便利さ”は評価点がプラスとなっているが、女性の“農地の保全と活用”を除く他の項目ではマイナスとなっている。女性の評価点は男性よりもおおむね高く、特に“観光資源の活用やPR活動”は+0.30点高くなっている。

年齢別で見ると、“消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供”を除く項目において16～29歳で高くなっている。(図 2-3-2)

図2-3-3 商工業・観光・農林業の満足度（評価点）－居住地域別

(%)

	日常の 買い物の 便利さ	市内の 商店の 数や商品 の質や量	駅周辺 や地域 の商店 などに ぎわい や活気	消費生 活のト ラブル への 相談体 制や消 費生活 情報 の提供	地元 にお ける 雇用 の安 定 と確 保	観光 資源 の活 用や P R	農地 の保 全と 活用
全 体	0.32	-0.48	-0.72	-0.12	-0.33	-0.31	-0.08
矢 野 口	0.86	-0.20	-0.96	-0.07	-0.25	-0.28	-0.13
東 長 沼	-0.03	-0.68	-0.98	-0.24	-0.52	-0.40	-0.22
大 丸	0.03	-0.71	-1.16	-0.30	-0.41	-0.45	-0.03
百 村	0.14	-0.45	-0.89	-0.08	-0.38	-0.14	-0.03
坂 浜	0.38	-0.22	-0.38	-0.24	-0.33	-0.52	-0.22
平 尾	0.18	-0.79	-0.53	-0.18	-0.38	-0.35	-0.13
押 立	-0.17	-0.67	-1.08	-0.26	-0.29	-0.45	-0.15
向 陽 台	0.11	-0.64	-1.03	0.03	-0.38	-0.27	-0.07
長 峰	-0.10	-0.45	-0.17	0.17	-0.07	0.00	-0.10
若 葉 台	0.99	-0.02	0.21	-0.02	-0.19	-0.16	0.21

居住地域別でみると、“日常の買い物の便利さ”は大丸、百村、坂浜、平尾、向陽台、若葉台で、“農地の保全と活用”は若葉台で、“消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供”は向陽台と長峰で、“駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気”は若葉台でプラスの評価点となっている。  
(図2-3-3)

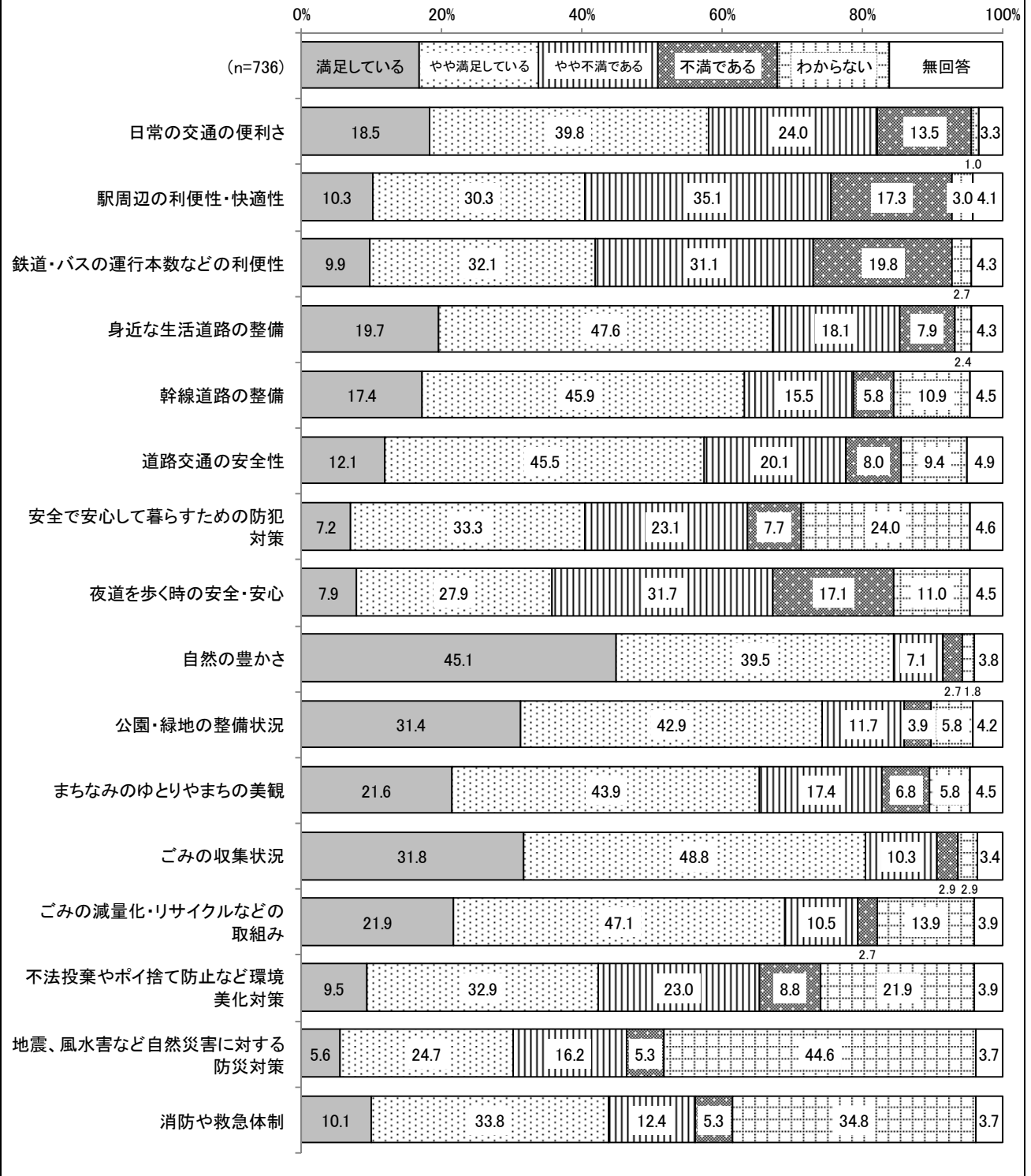


(4) 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度

◇ “自然の豊かさ” は、【満足している】が8割台半ば

問6 あなたは、都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する次の項目について満足していますか。ア)～タ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-4 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度



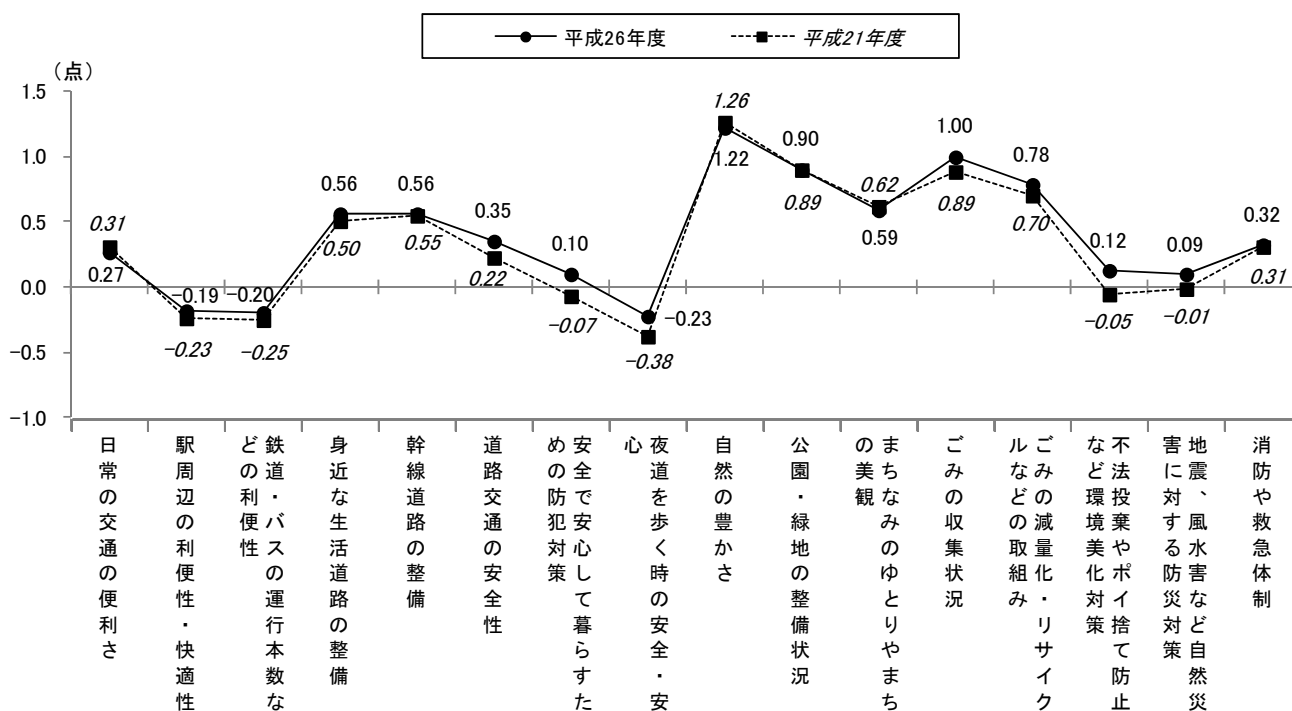
都市基盤・生活環境・防災防犯の施策の満足度については、「満足している」は“自然の豊かさ”（45.1%）で最も多くなっている。「やや満足している」は“ごみの収集状況”（48.8%）、“身近な生活道路の整備”（47.6%）、“ごみの減量化・リサイクルなどの取組み”（47.1%）で多くなっている。【満足している】は、“自然の豊かさ”（84.6%）、“ごみの収集状況”（80.6%）で多くなっている。【不満である】は、“駅周辺の利便性・快適性”（52.4%）、“鉄道・バスの運行本数などの利便性”（50.9%）で多くなっている。（図2-4）

図2-4-1 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度（評価点）－経年比較

<算出方法>

「満足している」を+2点、「やや満足している」を+1点、「やや不満である」を-1点、「不満である」を-2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は+2点から-2点の間で表される。満足度が高いものは+、低いものは-に得点が分布される。



前回調査と比較すると、“日常の交通の便利さ”、“自然の豊かさ”、“まちなみのゆとりやまちの美観”を除く項目において評価点が高くなっている。特に“安全で安心して暮らすための防犯対策”と“不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策”は+0.17点、“夜道を歩く時の安全・安心”は+0.15点となっている。（図2-4-1）

図2-4-2 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度（評価点）－性別・年齢別

	日常の交通の 利便さ	駅周辺の利便性・ 快適性	鉄道・バスの 運行本数な ど	身近な生活道路の 整備	幹線道路の 整備	道路交通の 安全性	安全で安心して 暮らすための 防犯対策	夜道を歩く時の 安全・安心	自然の豊かさ	公園・緑地の 整備状況	まちなみのゆとり やまちなみの美観	ごみの収集状況	ごみの減量化・リ サイクル	不法投棄やポイ捨 て防止など環境美 化対策	地震、風水害など 自然災害に対する 防災対策	消防や救急体制
全 体	0.27	-0.19	-0.20	0.56	0.56	0.35	0.10	-0.23	1.22	0.90	0.59	1.00	0.78	0.12	0.09	0.32
女 性	0.25	-0.15	-0.20	0.55	0.57	0.41	0.15	-0.28	1.31	1.00	0.71	1.02	0.86	0.26	0.17	0.32
男 性	0.31	-0.25	-0.18	0.54	0.57	0.28	0.05	-0.16	1.09	0.77	0.41	0.97	0.68	-0.04	0.04	0.34
16～29歳	0.32	0.04	-0.10	0.87	0.76	0.58	0.36	0.16	1.27	0.96	0.87	0.77	0.70	0.49	0.21	0.42
30～39歳	0.34	-0.19	-0.28	0.59	0.64	0.35	-0.01	-0.19	1.39	0.88	0.70	0.98	0.72	0.14	0.06	0.15
40～49歳	0.08	-0.37	-0.37	0.54	0.64	0.36	0.02	-0.28	1.22	0.98	0.76	0.88	0.68	0.43	0.20	0.23
50～59歳	0.08	-0.30	-0.18	0.45	0.40	0.40	0.08	-0.42	1.22	0.87	0.47	0.81	0.72	0.14	0.11	0.24
60～69歳	0.49	-0.10	-0.06	0.44	0.56	0.22	0.18	-0.20	1.16	0.83	0.47	1.17	0.92	-0.03	0.08	0.40
70歳以上	0.32	-0.15	-0.17	0.55	0.46	0.32	0.05	-0.27	1.09	0.90	0.39	1.25	0.90	-0.19	0.03	0.53

性別で見ると、男女ともに評価点が高いものは“自然の豊かさ”、“公園・緑地の整備状況”、“ごみの収集状況”となっている。男女差があるものでは“まちなみのゆとりやまちなみの美観”、“不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策”で女性の方が+0.30点高くなっている。

年齢別で見ると、16～29歳では“身近な生活道路の整備”、“幹線道路の整備”、“道路交通の安全性”、“夜道を歩く時の安全・安心”の道路に関する項目や、“安全で安心して暮らすための防犯対策”、“地震、風水害など自然災害に対する防災対策”の防災・防犯に関する項目、“公園・緑地の整備状況”、“まちなみのゆとりやまちなみの美観”、“不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策”の環境美化に関する項目について評価が高くなっている。（図2-4-2）

図2-4-3 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度（評価点）－居住地域別

(%)

	日常の交通の 利便さ	駅 周辺 の 利 便 性 ・ 快 適 性	鉄 道 ・ バ ス の 運 行 本 数 な ど の 利 便 性	身 近 な 生 活 道 路 の 整 備	幹 線 道 路 の 整 備	道 路 交 通 の 安 全 性	安 全 で 安 心 し て 暮 ら す た め の 防 犯 対 策	心 夜 道 を 歩 く 時 の 安 全 ・ 安 心	自 然 の 豊 か さ	公 園 ・ 緑 地 の 整 備 状 況	ま ち な み の ゆ と り や ま ち の 美 観	ご み の 取 集 状 況	ご み な ど の 減 量 化 ・ リ サ イ ク ル	不 法 投 棄 や ポ イ 捨 て 防 止 な ど 環 境 美 化 対 策	地 震 、 風 水 害 な ど 自 然 災 害 に 対 する 防 災 対 策	消 防 や 救 急 体 制
全 体	0.27	-0.19	-0.20	0.56	0.56	0.35	0.10	-0.23	1.22	0.90	0.59	1.00	0.78	0.12	0.09	0.32
矢 野 口	0.63	-0.30	-0.33	0.40	0.63	0.35	0.04	-0.20	1.03	0.45	0.25	0.90	0.60	-0.06	0.03	0.40
東 長 沼	0.43	-0.22	-0.21	0.40	0.60	0.04	-0.16	-0.43	1.01	0.70	0.13	0.88	0.80	-0.11	-0.06	0.44
大 丸	0.67	-0.50	0.09	0.46	0.73	0.18	0.09	-0.38	1.23	0.96	0.26	1.13	0.94	0.20	0.23	0.54
百 村	0.29	-0.34	0.19	0.43	0.47	0.50	0.05	-0.37	1.24	0.87	0.38	0.87	0.87	0.32	0.05	0.26
坂 浜	-0.04	-0.25	-0.52	-0.13	-0.04	-0.48	0.09	-0.63	1.35	0.87	0.57	1.29	0.83	0.00	0.04	0.46
平 尾	0.10	0.06	-0.15	0.14	0.05	0.03	-0.32	-0.41	0.93	0.59	0.34	0.93	0.58	-0.15	-0.12	-0.11
押 立	0.18	-0.33	-0.40	0.46	0.59	0.08	0.05	-0.38	1.21	0.79	0.15	1.08	0.90	0.00	0.08	0.35
向 陽 台	-0.17	-0.74	-0.33	0.84	0.67	0.74	0.33	-0.18	1.55	1.39	1.27	1.02	0.92	0.40	0.20	0.42
長 峰	-0.13	0.10	-0.46	1.07	0.76	0.72	0.62	0.21	1.57	1.38	1.28	0.97	0.69	0.41	0.34	0.24
若 葉 台	0.19	0.49	-0.04	1.09	0.74	0.81	0.48	0.22	1.45	1.34	1.31	1.17	0.88	0.44	0.38	0.27

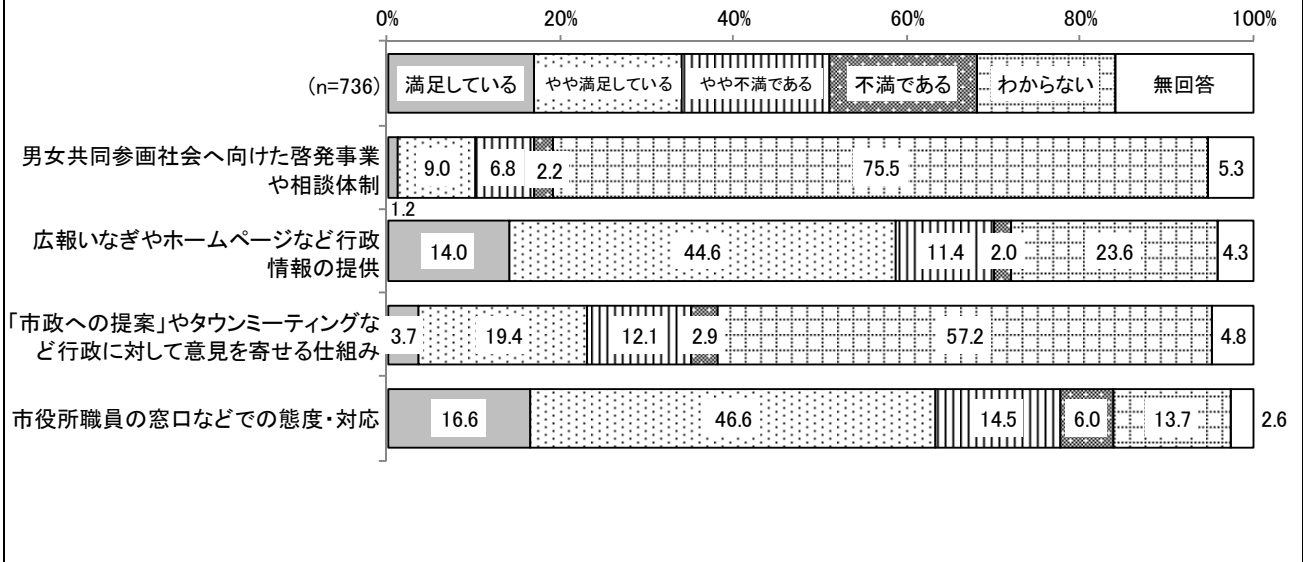
居住地域別でみると、“駅周辺の利便性・快適性”は若葉台で、“鉄道・バスの運行本数などの利便性”は百村で評価点が高くなっている。“夜道を歩く時の安全・安心”は長峰、若葉台で高くなっている。(図2-4-3)

(5) 市政運営の満足度

◇ “市役所職員の窓口などでの態度・対応”は、【満足している】が6割強

問7 あなたは、市政運営に関する次の項目について満足していますか。ア)～エ)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

図2-5 市政運営の満足度



市政運営の満足度については、「わからない」を除いて、「やや満足している」は“市役所職員の窓口などでの態度・対応”（46.6%），“広報いなぎやホームページなど行政情報の提供”（44.6%）で多くなっている。【満足している】は、“市役所職員の窓口などでの態度・対応”（63.2%）で最も多くなっている。

【不満である】は、“市役所職員の窓口などでの態度・対応”（20.5%）で約2割を占めている。

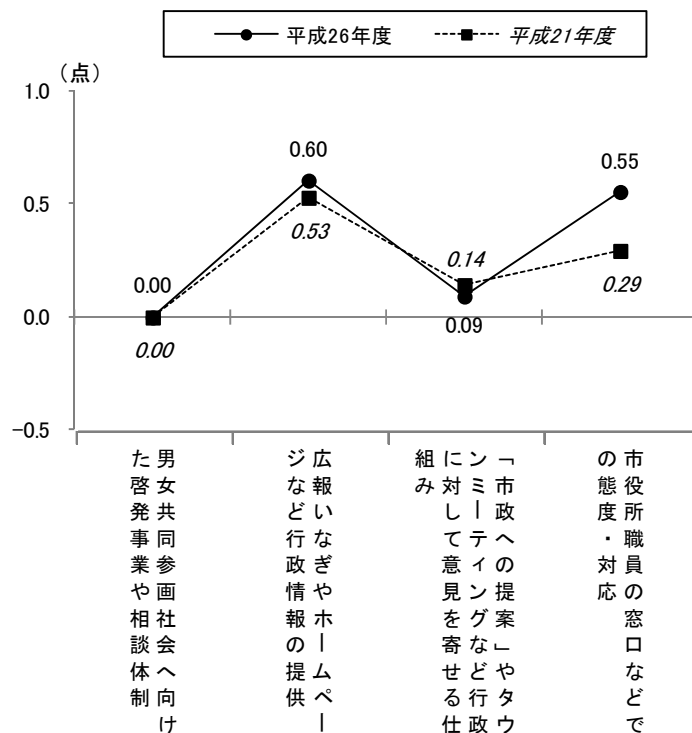
(図2-5)

図 2-5-1 市政運営の満足度（評価点）－経年比較

<算出方法>

「満足している」を+2点、「やや満足している」を+1点、「やや不満である」を-1点、「不満である」を-2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は+2点から-2点の間で表される。満足度が高いものは+、低いものは-に得点が分布される。



前回調査と比較すると、“「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み”は減少している。“男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制”は変化がみられない。“市役所職員の窓口などでの態度・対応”は+0.26点、“広報いなぎやホームページなど行政情報の提供”は+0.07点となっている。(図 2-5-1)

図 2-5-2 市政運営の満足度（評価点）－性別・年齢別

(点)

	た男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制	広報いなぎやホームページなど行政情報の提供	組にン「市役所職員の窓口などでの態度・対応」	にミ「市役所職員の窓口などでの態度・対応」	「市役所職員の窓口などでの態度・対応」
全 体	0.00	0.60	0.09	0.09	0.55
女 性	0.01	0.66	0.13	0.13	0.56
男 性	0.02	0.52	0.06	0.06	0.55
16 ～ 29 歳	0.03	0.41	0.07	0.07	0.38
30 ～ 39 歳	0.03	0.72	0.14	0.14	0.56
40 ～ 49 歳	0.05	0.70	0.19	0.19	0.55
50 ～ 59 歳	-0.03	0.45	-0.03	-0.03	0.34
60 ～ 69 歳	0.00	0.59	0.07	0.07	0.64
70 歳 以上	0.01	0.64	0.14	0.14	0.70

性別で見ると、“男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制”を除く項目において女性の評価点が男性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、“広報いなぎやホームページなど行政情報の提供”は30～39歳、40～49歳で高く、“市役所職員の窓口などでの態度・対応”は70歳以上で高くなっている。(図 2-5-2)

図 2-5-3 市政運営の満足度（評価点）－居住地域別

(%)

	た男 啓女 発共 事同 業参 や画 相社 談会 体へ 制向 け	ジ 報 い な ぎ や ホ ー ム ペ ー ジ	組 に ミ ー シ ン の 組 織 に 対 し て 意 見 を 寄 せ る 仕 事	「市 政 へ の 提 案 」 や 「タ ウ ン シ ン グ 」 な ど の 行 政	の 市 役 所 職 員 の 窓 口 な ど で の 態 度 ・ 対 応
全 体	0.00	0.60	0.09	0.55	
矢 野 口	0.05	0.63	0.02	0.45	
東 長 沼	-0.10	0.70	0.13	0.49	
大 丸	0.00	0.72	0.16	0.81	
百 村	-0.11	0.42	0.00	0.58	
坂 浜	-0.09	0.52	0.04	0.58	
平 尾	-0.04	0.46	0.06	0.39	
押 立	0.18	0.79	0.28	0.71	
向 陽 台	0.00	0.51	0.08	0.60	
長 峰	0.14	0.66	-0.03	0.62	
若 葉 台	0.10	0.55	0.17	0.55	

居住地域別でみると、“広報いなぎやホームページなど行政情報の提供”は東長沼、大丸、押立で高く、“市役所職員の窓口などでの態度・対応”は大丸で高くなっている。(図 2-5-3)



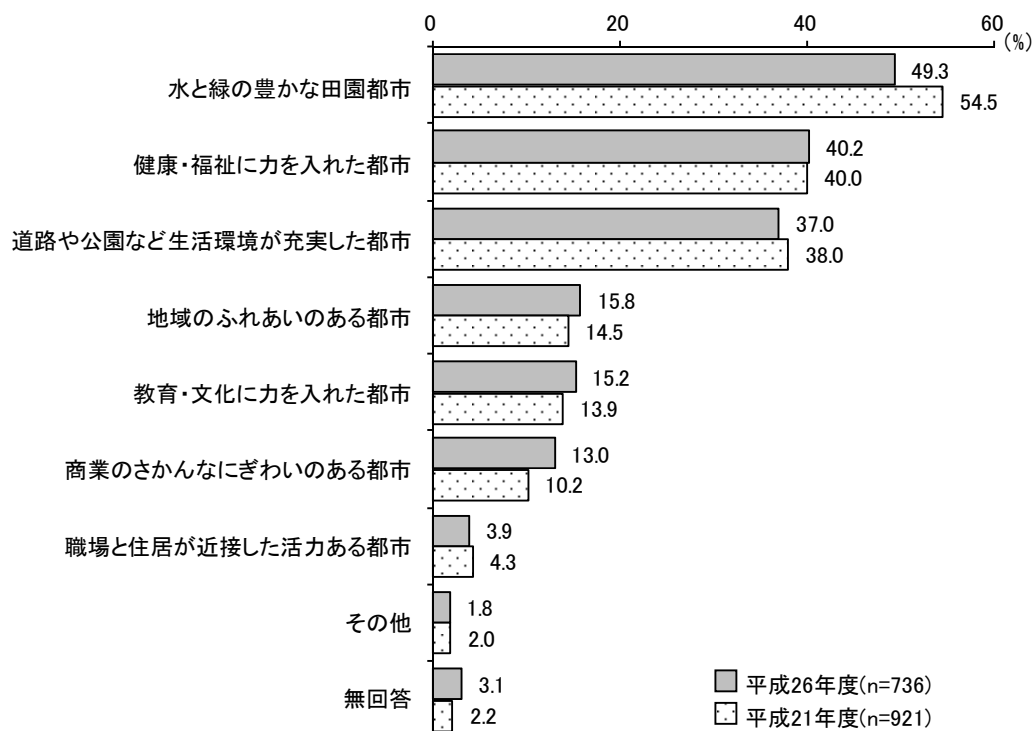
### 3. 稲城市のまちづくりの方向について

#### (1) 市の将来像のイメージ

◇「水と緑の豊かな田園都市」が5割弱

問8 市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。(〇は2つまで)

図3-1 市の将来像のイメージ



市の将来像のイメージについては、「水と緑の豊かな田園都市」(49.3%)が最も多く、次いで、「健康・福祉に力を入れた都市」(40.2%)、「道路や公園など生活環境が充実した都市」(37.0%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「水と緑の豊かな田園都市」は5.2ポイント減少しているが、他の項目では大きな変化はみられない。(図3-1)

図 3-1-1 市の将来像のイメージ-性別・年齢別

		(%)									
	調査数 (n)	水と緑の豊かな田園都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	都市教育・文化に力を入れた	商業のさかんなぎわいのある都市	健康・福祉に力を入れた都市	地域のふれあいのある都市	職場と住居が近接した活	力ある都市	その他	無回答
全体	736	49.3	37.0	15.2	13.0	40.2	15.8	3.9	1.8	3.1	
女性	410	47.1	35.1	14.6	14.6	46.3	14.6	2.7	1.7	2.4	
男性	308	51.9	38.3	15.6	11.7	32.5	17.9	5.8	1.9	3.9	
16～29歳	72	56.9	48.6	11.1	9.7	27.8	16.7	5.6	-	4.2	
30～39歳	110	49.1	42.7	20.9	14.5	32.7	14.5	1.8	0.9	1.8	
40～49歳	127	50.4	37.0	15.7	14.2	23.6	16.5	3.9	3.1	5.5	
50～59歳	119	49.6	44.5	15.1	10.9	37.0	13.4	6.7	1.7	3.4	
60～69歳	153	45.1	29.4	10.5	13.7	54.2	17.0	3.3	2.0	2.6	
70歳以上	140	47.9	25.7	17.9	15.0	55.7	17.1	3.6	2.1	2.1	

性別で見ると、男女ともに「水と緑の豊かな田園都市」が最も多く、男性の方が女性よりも4.8ポイント高くなっている。次いで、女性は「健康・福祉に力を入れた都市」が多く、男性よりも13.8ポイント高く、男性は「道路や公園など生活環境が充実した都市」が女性よりも3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「水と緑の豊かな田園都市」は16～29歳、40～49歳で5割以上、「健康・福祉に力を入れた都市」は60～69歳、70歳以上で5割台半ばと多くなっている。また、「道路や公園など生活環境が充実した都市」は16～29歳、30～39歳、50～59歳で4割以上となっている。(図 3-1-1)

図3-1-2 市の将来像のイメージ—居住地域別

(%)

	調査数 (n)	水と緑の豊かな田園都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	都市教育・文化に力を入れた都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	健康・福祉に力を入れた都市	地域のふれあいのある都市	職場と住居が近接した活ある都市	その他	無回答
全体	736	49.3	37.0	15.2	13.0	40.2	15.8	3.9	1.8	3.1
矢野口	128	56.3	30.5	14.1	10.9	50.0	13.3	2.3	0.8	2.3
東長沼	104	50.0	33.7	16.3	19.2	39.4	16.3	2.9	1.0	2.9
大丸	71	45.1	29.6	11.3	26.8	31.0	29.6	5.6	-	-
百村	39	48.7	25.6	12.8	20.5	41.0	12.8	5.1	7.7	5.1
坂浜	24	50.0	33.3	12.5	12.5	41.7	12.5	4.2	4.2	-
平尾	86	43.0	30.2	11.6	11.6	52.3	14.0	7.0	3.5	2.3
押立	43	37.2	30.2	18.6	14.0	37.2	16.3	7.0	4.7	7.0
向陽台	95	55.8	35.8	16.8	5.3	34.7	14.7	3.2	2.1	6.3
長峰	30	63.3	46.7	13.3	3.3	33.3	13.3	6.7	-	3.3
若葉台	102	42.2	61.8	20.6	9.8	33.3	14.7	2.0	-	2.9

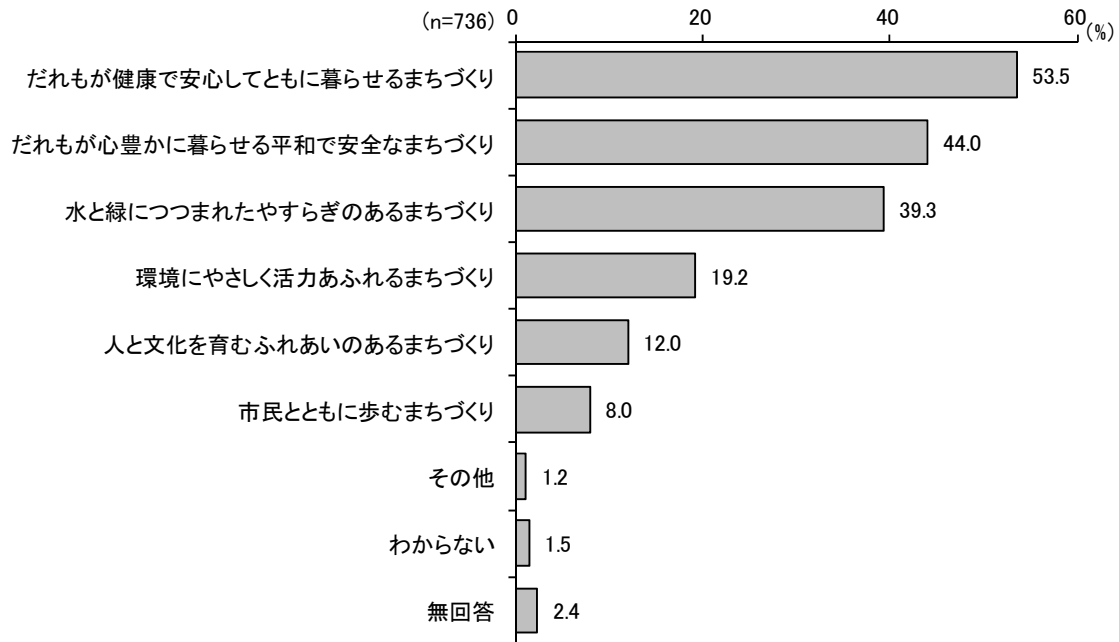
居住地域別でみると、「水と緑の豊かな田園都市」は長峰で、「道路や公園など生活環境が充実した都市」は若葉台で6割強と多くなっている。また、「健康・福祉に力を入れた都市」は矢野口、平尾で5割以上と多くなっている。「地域のふれあいのある都市」は大丸で3割弱と他の地域と比較して多くなっている。(図3-1-2)

## (2) 進めるべきまちづくり

◇「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」が5割強

問9 稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。  
(○は2つまで)

図3-2 進めるべきまちづくり



進めるべきまちづくりについては、「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」(53.5%)が最も多くなっている。次いで、「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」(44.0%)、「水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり」(39.3%)などの順となっている。(図3-2)

図3-2-1 進めるべきまちづくり—性別・年齢別

		(%)								
	調査数 (n)	りともだれもが健康で安心して暮らせるまちづくり	の人と文化を育むふれあい	りだれもが心豊かに暮らす平和で安全なまちづくり	れ環境にやさしく活力あふれるまちづくり	ら水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり	く市民とともに歩むまちづくり	その他	わからない	無回答
全 体	736	53.5	12.0	44.0	19.2	39.3	8.0	1.2	1.5	2.4
女 性	410	57.8	10.0	48.8	19.0	34.1	8.3	1.0	1.2	2.0
男 性	308	47.7	14.6	38.6	19.5	46.1	7.5	1.6	1.9	2.9
16～29歳	72	51.4	9.7	43.1	19.4	44.4	5.6	1.4	1.4	4.2
30～39歳	110	43.6	12.7	48.2	19.1	47.3	4.5	0.9	-	2.7
40～49歳	127	41.7	14.2	45.7	19.7	39.4	7.9	0.8	0.8	4.7
50～59歳	119	53.8	15.1	40.3	26.9	37.8	5.0	1.7	0.8	1.7
60～69歳	153	56.2	6.5	48.4	14.4	42.5	8.5	1.3	2.6	1.3
70歳以上	140	70.0	13.6	39.3	17.9	27.9	13.6	1.4	2.9	1.4

性別で見ると、男女ともに「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」が最も多く、女性の方が男性よりも10.1ポイント高くなっている。次いで、女性は「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」が多く、男性よりも10.2ポイント高く、男性は「水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり」が多く、女性よりも12.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」は16～29歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上で5割以上と多く、特に70歳以上では7割となっている。また、「水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり」は16～29歳、30～39歳、60～69歳で4割以上となっている。「環境にやさしく活力あふれるまちづくり」は50～59歳で3割近くと他の年齢と比較して多くなっている。

(図3-2-1)

図3-2-2 進めるべきまちづくり－居住地域別

		(%)									
	調査数 (n)	だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり	人と文化を育むふれあいのまちづくり	だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり	環境にやさしく活力あふれるまちづくり	水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり	市民とともに歩むまちづくり	その他	わからない	無回答	
全 体	736	53.5	12.0	44.0	19.2	39.3	8.0	1.2	1.5	2.4	
矢 野 口	128	57.0	10.9	38.3	17.2	43.0	7.8	1.6	1.6	3.1	
東 長 沼	104	61.5	5.8	48.1	19.2	42.3	3.8	1.9	-	1.0	
大 丸	71	59.2	9.9	47.9	16.9	40.8	8.5	-	2.8	-	
百 村	39	48.7	10.3	43.6	12.8	38.5	12.8	2.6	5.1	5.1	
坂 浜	24	50.0	4.2	45.8	12.5	45.8	-	4.2	4.2	-	
平 尾	86	55.8	12.8	43.0	23.3	30.2	7.0	1.2	2.3	2.3	
押 立	43	58.1	14.0	27.9	25.6	32.6	11.6	-	4.7	2.3	
向 陽 台	95	48.4	9.5	46.3	22.1	34.7	9.5	1.1	-	6.3	
長 峰	30	33.3	23.3	43.3	13.3	63.3	10.0	3.3	-	-	
若 葉 台	102	47.1	20.6	51.0	20.6	36.3	9.8	-	-	2.0	

居住地域別でみると、長峰を除く地域において「だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」が4割以上と多くなっている。「水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり」は長峰で6割強と他の地域と比較して多くなっている。また、「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」は若葉台で5割強と他の地域と比較して多くなっている。(図3-2-2)

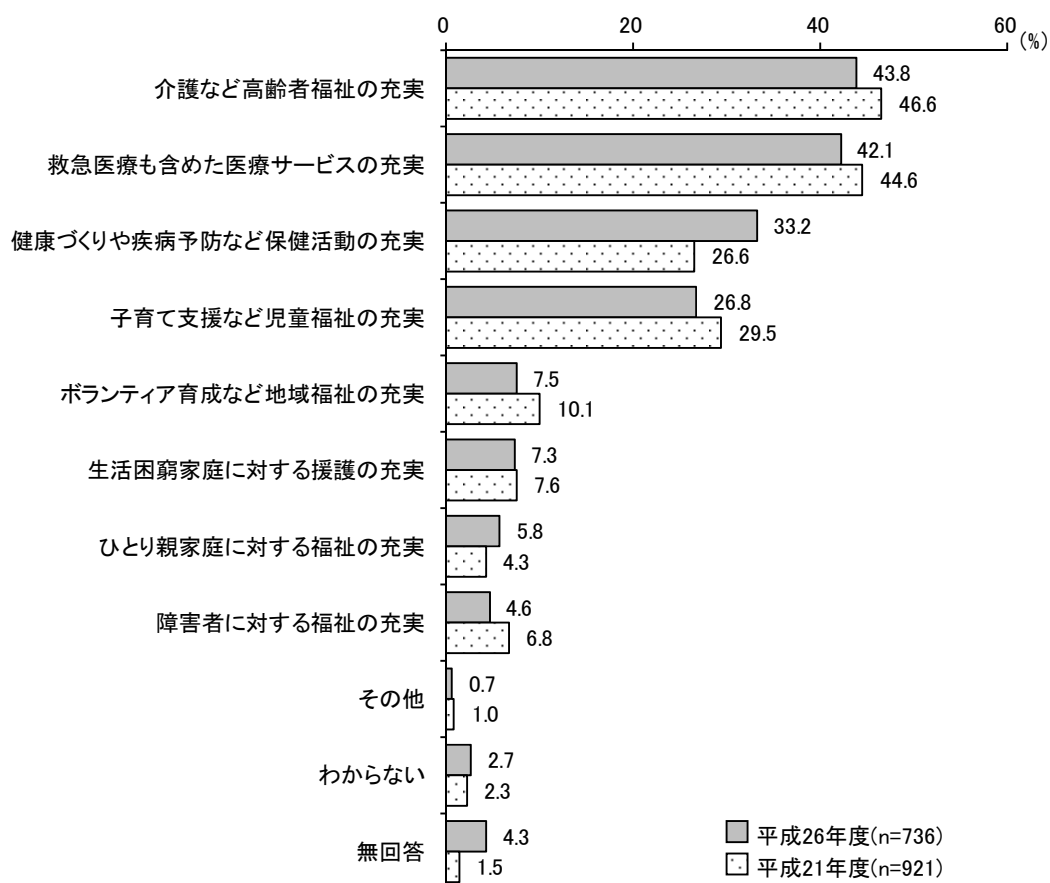
## 4. 今後の施策等について

### (1) 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策

◇「介護など高齢者福祉の充実」と「救急医療も含めた医療サービスの充実」が4割強

問10 健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-1 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策



健康・医療・福祉の分野で力を入れるべき施策については、「介護など高齢者福祉の充実」(43.8%)と「救急医療も含めた医療サービスの充実」(42.1%)が多くなっている。次いで、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」(33.2%)、「子育て支援など児童福祉の充実」(26.8%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」は6.6ポイント増加している。(図4-1)

図4-1-1 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策－性別・年齢別

		(%)											
	調査数 (n)	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	介護など高齢者福祉の充実	障害者に対する福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	域福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	生活困窮家庭に対する援助の充実	その他	わからない	無回答
全体	736	33.2	42.1	43.8	4.6	26.8	5.8	7.5	7.3	0.7	2.7	4.3	
女性	410	34.9	43.4	44.4	4.4	26.1	4.6	7.1	6.8	0.5	1.7	4.6	
男性	308	30.8	40.6	41.6	4.9	27.9	7.8	7.8	8.1	1.0	4.2	3.9	
16～29歳	72	34.7	41.7	30.6	4.2	34.7	9.7	2.8	6.9	-	11.1	2.8	
30～39歳	110	30.9	41.8	26.4	-	57.3	7.3	5.5	4.5	0.9	2.7	2.7	
40～49歳	127	30.7	50.4	37.0	4.7	32.3	4.7	7.9	5.5	0.8	1.6	3.1	
50～59歳	119	35.3	49.6	46.2	4.2	10.9	5.0	5.9	10.1	0.8	1.7	5.9	
60～69歳	153	35.3	32.7	53.6	3.3	18.3	5.2	9.2	9.2	1.3	2.0	5.9	
70歳以上	140	32.9	37.9	54.3	10.7	16.4	5.7	10.0	7.1	-	1.4	5.0	

性別でみると、男女ともに「介護など高齢者福祉の充実」が最も多く、次いで、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が多くなっている。どちらも女性の方が男性よりも2.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「子育て支援など児童福祉の充実」は30～39歳で6割近く、「救急医療も含めた医療サービスの充実」は40～49歳で約5割、「介護など高齢者福祉の充実」は60～69歳、70歳以上で5割以上と多くなっている。(図4-1-1)



図4-1-2 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策－居住地域別

		(%)											
	調査数 (n)	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	介護など高齢者福祉の充実	障害者に対する福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	域福祉の充実	ボランティア育成など地域の充実	生活困窮家庭に対する支援の充実	その他	わからない	無回答
全体	736	33.2	42.1	43.8	4.6	26.8	5.8	7.5	7.3	0.7	2.7	4.3	
矢野口	128	35.9	43.0	39.1	4.7	28.9	5.5	6.3	1.6	0.8	4.7	7.8	
東長沼	104	28.8	51.0	45.2	2.9	29.8	8.7	5.8	8.7	1.0	1.9	1.9	
大丸	71	26.8	39.4	49.3	4.2	35.2	8.5	5.6	7.0	-	4.2	-	
百村	39	25.6	43.6	41.0	7.7	15.4	7.7	5.1	10.3	-	7.7	7.7	
坂浜	24	45.8	16.7	33.3	8.3	29.2	4.2	12.5	-	4.2	4.2	4.2	
平尾	86	27.9	39.5	44.2	4.7	22.1	9.3	9.3	15.1	1.2	-	4.7	
押立	43	27.9	41.9	41.9	7.0	18.6	7.0	7.0	14.0	-	2.3	2.3	
向陽台	95	43.2	37.9	48.4	4.2	26.3	4.2	5.3	8.4	-	1.1	3.2	
長峰	30	30.0	30.0	40.0	3.3	30.0	-	10.0	3.3	3.3	6.7	10.0	
若葉台	102	37.3	48.0	41.2	4.9	25.5	2.0	10.8	4.9	-	1.0	4.9	

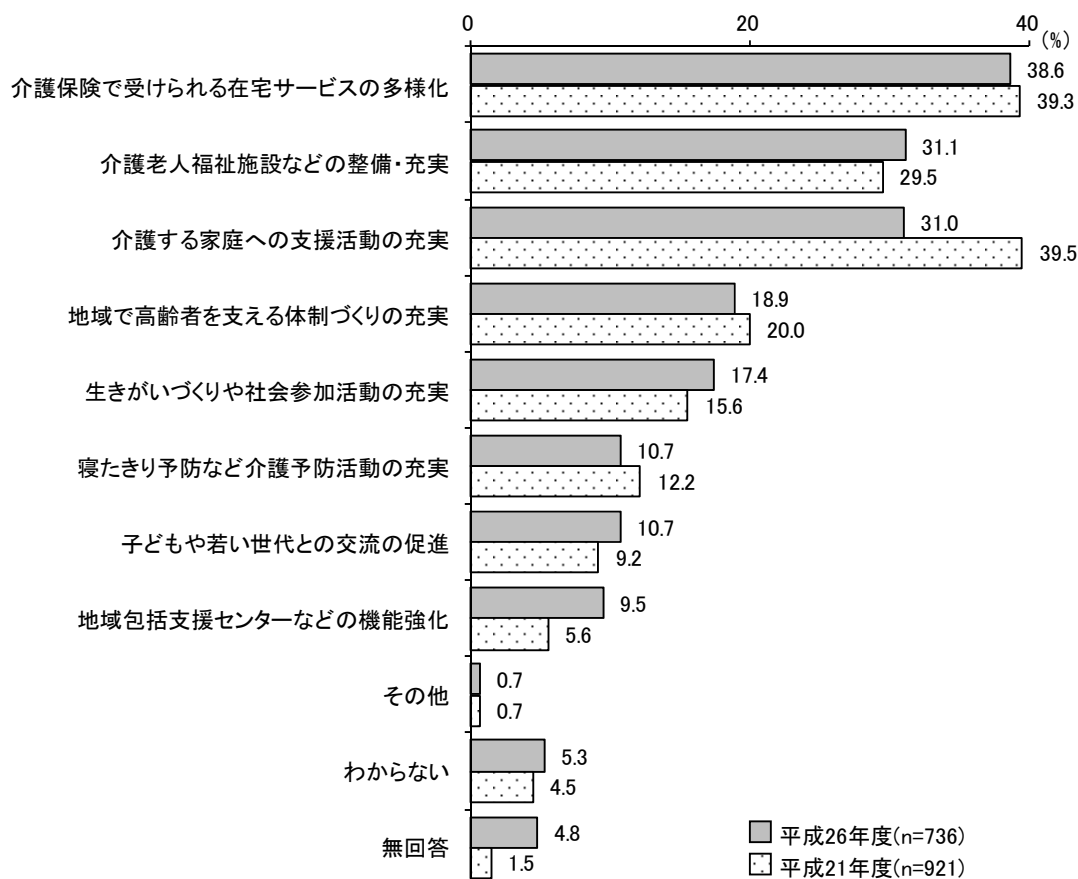
居住地域別でみると、「救急医療も含めた医療サービスの充実」は東長沼で5割強と他の地域と比較して多く、坂浜の3倍以上となっている。「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」は坂浜、向陽台で4割以上と多くなっている。また、「子育て支援など児童福祉の充実」は大丸、長峰で3割以上と他の地域と比較して多くなっている。(図4-1-2)

(2) 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス

◇「介護保険で受けられる在宅サービスの多様化」が4割近く

問11 高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-2 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス



高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービスについては、「介護保険で受けられる在宅サービスの多様化」(38.6%)が最も多くなっている。次いで、「介護老人福祉施設などの整備・充実」(31.1%)、「介護する家庭への支援活動の充実」(31.0%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「介護する家庭への支援活動の充実」は8.5ポイント減少している。一方、「地域包括支援センターなどの機能強化」は3.9ポイント増加している。(図4-2)

図4-2-1 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス－性別・年齢別

		(%)										
	調査数 (n)	介護保険で受けられる在宅サービスの多様化	介護老人福祉施設などの整備・充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	介護する家庭への支援活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	地域の包括支援センターなどの機能強化	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体	736	38.6	31.1	10.7	31.0	17.4	18.9	9.5	10.7	0.7	5.3	4.8
女性	410	40.0	31.2	11.2	32.2	16.1	17.3	8.5	9.3	0.5	4.9	5.6
男性	308	36.0	30.5	10.1	29.9	19.5	21.1	9.7	13.3	1.0	5.8	3.6
16～29歳	72	22.2	19.4	12.5	22.2	27.8	11.1	9.7	16.7	-	22.2	2.8
30～39歳	110	35.5	18.2	9.1	33.6	23.6	20.9	7.3	20.0	0.9	6.4	2.7
40～49歳	127	40.2	24.4	17.3	33.9	15.7	13.4	8.7	12.6	1.6	8.7	4.7
50～59歳	119	40.3	40.3	10.1	32.8	16.8	16.8	8.4	10.1	0.8	0.8	5.0
60～69歳	153	37.9	37.3	8.5	29.4	16.3	26.1	7.2	6.5	0.7	0.7	7.2
70歳以上	140	45.7	38.6	7.9	30.7	10.7	20.7	12.9	5.0	-	2.1	5.0

性別でみると、男女ともに「介護保険で受けられる在宅サービスの多様化」が最も多く、女性の方が男性よりも4.0ポイント高くなっている。次いで、女性は「介護する家庭への支援活動の充実」が多く、男性は「介護老人福祉施設などの整備・充実」が多くなっている。

年齢別でみると、「介護老人福祉施設などの整備・充実」は50～59歳で約4割と多くなっている。「生きがいづくりや社会参加活動の充実」16～29歳、30～39歳で2割以上、「地域で高齢者を支える体制づくりの充実」は30～39歳、60～69歳、70歳以上で2割以上と他の年齢と比較して多くなっている。(図4-2-1)

図 4-2-2 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス－居住地域別

(%)													
	調査数 (n)	介護保険で受けられる在宅サービスの多様化	介護老人福祉施設などの整備・充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	介護する家庭への支援活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	地域の機能強化	地域の包括支援センターなど	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体	736	38.6	31.1	10.7	31.0	17.4	18.9	9.5	10.7	0.7	5.3	4.8	
矢野口	128	36.7	28.9	10.9	28.1	18.8	20.3	7.8	13.3	-	4.7	8.6	
東長沼	104	44.2	34.6	3.8	35.6	14.4	22.1	12.5	12.5	1.0	4.8	1.9	
大丸	71	39.4	26.8	11.3	35.2	16.9	26.8	4.2	12.7	-	9.9	-	
百村	39	43.6	15.4	20.5	28.2	20.5	12.8	7.7	7.7	-	10.3	7.7	
坂浜	24	50.0	25.0	-	37.5	16.7	16.7	4.2	12.5	4.2	-	8.3	
平尾	86	39.5	26.7	18.6	22.1	17.4	22.1	11.6	7.0	1.2	-	7.0	
押立	43	37.2	30.2	2.3	32.6	11.6	18.6	7.0	14.0	-	11.6	2.3	
向陽台	95	37.9	41.1	10.5	32.6	17.9	13.7	10.5	9.5	1.1	5.3	2.1	
長峰	30	33.3	33.3	6.7	33.3	13.3	10.0	6.7	10.0	3.3	6.7	10.0	
若葉台	102	29.4	34.3	13.7	31.4	21.6	16.7	9.8	9.8	-	4.9	4.9	

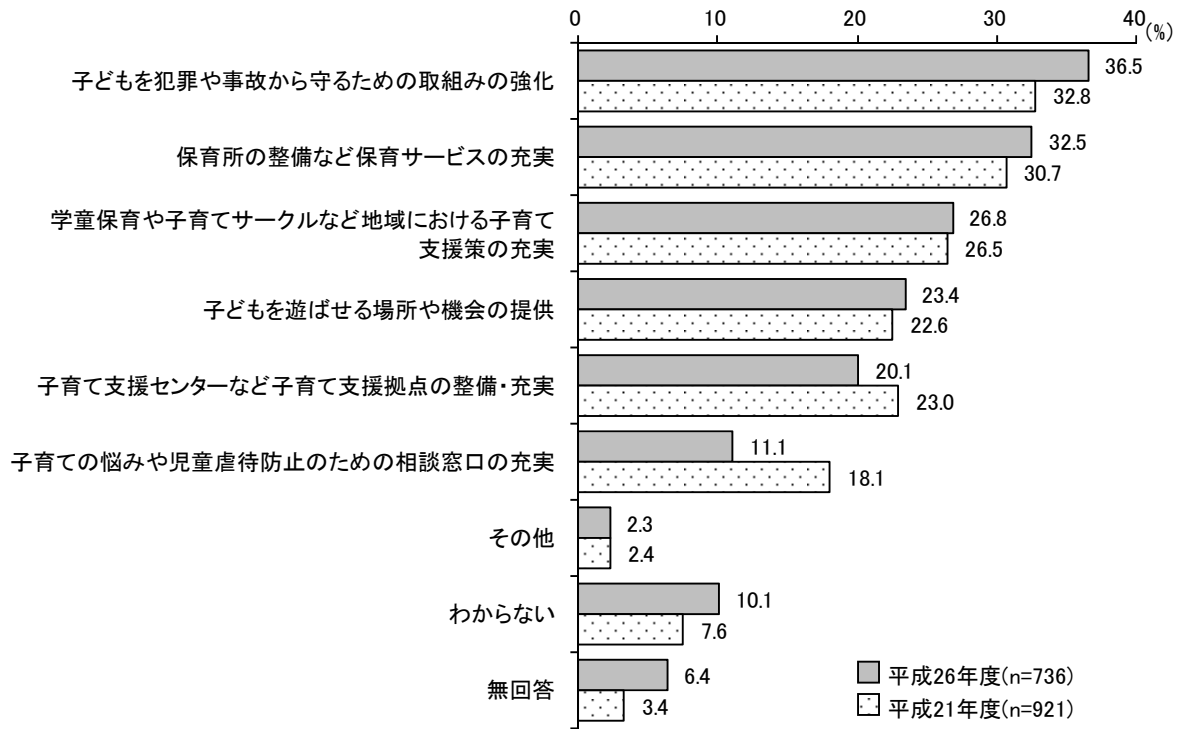
居住地域別でみると、「介護保険で受けられる在宅サービスの多様化」は坂浜で5割と多くなっている。「介護老人福祉施設などの整備・充実」は向陽台で4割強と多くなっている。また、「寝たきり予防など介護予防活動の充実」は百村で約2割と他の地域と比較して多くなっている。(図4-2-2)

(3) 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス

◇「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が4割近く

問12 子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-3 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス



子育て支援について力を入れるべき施策やサービスについては、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」(36.5%)が最も多くなっている。次いで、「保育所の整備など保育サービスの充実」(32.5%)、「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」(26.8%)、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」(23.4%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」は3.7ポイント増加している。一方、「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」は7.0ポイント減少となっている。(図4-3)

図4-3-1 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス－性別・年齢別

		(%)											
	調査数 (n)	子育て支援拠点の整備・充実	子育て支援センターの充実	児童地域における子育て	学童保育や子育てサークル	児童虐待の相談窓口の充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための取り組みの充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもの遊ばせる場所や機会の提供	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全体	736	20.1	26.8	11.1	32.5	23.4	36.5	2.3	10.1	6.4			
女性	410	18.5	25.6	12.4	29.0	22.7	41.0	1.2	11.0	6.8			
男性	308	21.8	28.6	9.7	35.7	25.3	30.5	3.9	8.8	5.8			
16～29歳	72	15.3	26.4	12.5	43.1	27.8	27.8	-	15.3	2.8			
30～39歳	110	16.4	29.1	10.0	41.8	34.5	37.3	2.7	6.4	2.7			
40～49歳	127	17.3	27.6	11.0	25.2	37.8	39.4	3.9	8.7	3.9			
50～59歳	119	20.2	27.7	12.6	36.1	17.6	30.3	3.4	8.4	5.9			
60～69歳	153	17.6	30.1	10.5	26.8	15.7	39.9	1.3	11.1	11.8			
70歳以上	140	30.0	20.0	12.1	26.4	14.3	39.3	2.1	11.4	8.6			

性別でみると、女性は「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が多く、男性よりも10.5ポイント高くなっている。男性は「保育所の整備など保育サービスの充実」が多く、女性よりも6.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」は40～49歳、60～69歳、70歳以上で4割強と多くなっている。「保育所の整備など保育サービスの充実」は16～29歳、30～39歳で4割強と多くなっている。また、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」は30～39歳、40～49歳で3割以上となっている。(図4-3-1)

図4-3-2 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス－居住地域別

		(%)											
	調査数 (n)	子育て支援拠点の整備など	子育て支援センターなど	学童保育や子育てサークル	児童の地域における子育て	学童保育や子育てサークル	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て	児童の地域における子育て
全体	736	20.1	26.8	11.1	32.5	23.4	36.5	2.3	10.1	6.4			
矢野口	128	18.8	24.2	7.8	31.3	25.8	29.7	2.3	14.1	10.2			
東長沼	104	18.3	20.2	9.6	31.7	26.9	55.8	2.9	8.7	3.8			
大丸	71	23.9	25.4	15.5	38.0	15.5	39.4	-	16.9	2.8			
百村	39	23.1	25.6	5.1	28.2	35.9	30.8	-	12.8	7.7			
坂浜	24	12.5	29.2	8.3	16.7	45.8	29.2	16.7	4.2	8.3			
平尾	86	20.9	19.8	14.0	25.6	14.0	39.5	1.2	12.8	10.5			
押立	43	14.0	23.3	23.3	16.3	32.6	39.5	-	18.6	2.3			
向陽台	95	23.2	37.9	10.5	45.3	15.8	27.4	2.1	4.2	4.2			
長峰	30	10.0	23.3	10.0	36.7	26.7	43.3	6.7	-	10.0			
若葉台	102	22.5	35.3	11.8	31.4	24.5	29.4	2.0	4.9	5.9			

居住地域別でみると、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」は東長沼で5割台半ばと多くなっている。「保育所の整備など保育サービスの充実」は向陽台で4割台半ば、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」は坂浜で4割台半ばとなっている。「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」は向陽台、若葉台で3割台半ば以上と他の地域と比較して多くなっている。

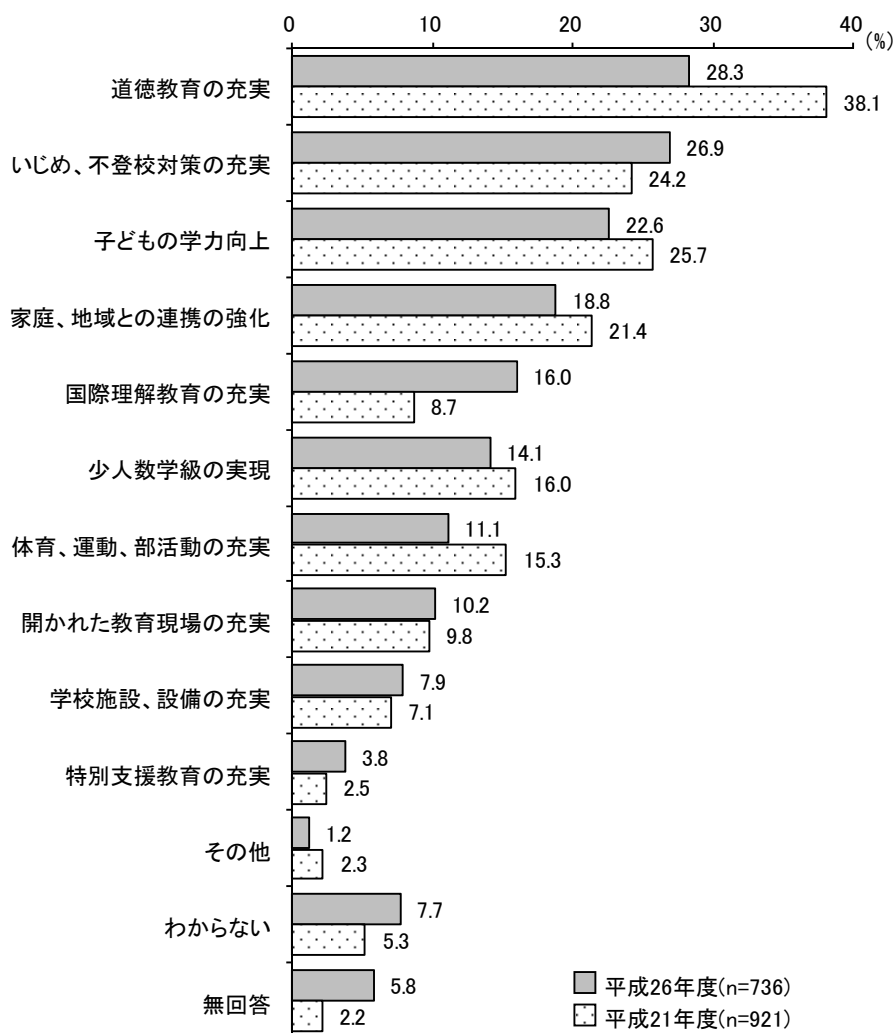
(図4-3-2)

(4) 学校教育について力を入れるべき施策

◇「道徳教育の充実」が3割近く

問13 学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

図4-4 学校教育について力を入れるべき施策



学校教育について力を入れるべき施策については、「道徳教育の充実」(28.3%)が最も多くなっている。次いで、「いじめ、不登校対策の充実」(26.9%)、「子どもの学力向上」(22.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「道徳教育の充実」は9.8ポイント減少している。一方、「国際理解教育の充実」は7.3ポイント増加となっている。(図4-4)



図 4-4-1 学校教育について力を入れるべき施策—性別・年齢別

															(%)
	調査数 (n)	子どもの学力向上	少人数学級の実現	国際理解教育の充実	道徳教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	体育、運動、部活動の充実	開かれた教育現場の充実	強化された家庭、地域との連携	学校施設、設備の充実	特別支援教育の充実	その他	わからない	無回答	
全体	736	22.6	14.1	16.0	28.3	26.9	11.1	10.2	18.8	7.9	3.8	1.2	7.7	5.8	
女性	410	21.0	15.6	13.4	26.6	31.5	9.3	9.0	19.0	8.3	4.9	0.7	7.6	6.1	
男性	308	25.3	11.7	18.5	31.2	21.1	13.6	12.3	18.2	7.5	2.6	1.9	7.8	5.2	
16～29歳	72	23.6	9.7	16.7	20.8	27.8	16.7	5.6	25.0	9.7	5.6	2.8	6.9	2.8	
30～39歳	110	30.0	14.5	19.1	18.2	25.5	15.5	10.0	15.5	16.4	4.5	0.9	4.5	2.7	
40～49歳	127	31.5	20.5	17.3	22.8	22.0	16.5	10.2	10.2	10.2	6.3	0.8	7.9	3.9	
50～59歳	119	25.2	21.0	14.3	28.6	26.9	9.2	7.6	17.6	5.9	4.2	1.7	5.9	5.0	
60～69歳	153	11.8	12.4	13.7	33.3	35.3	5.9	10.5	20.9	3.9	2.0	0.7	10.5	10.5	
70歳以上	140	18.6	5.0	13.6	40.0	23.6	7.1	15.7	24.3	4.3	2.1	1.4	8.6	7.9	

性別で見ると、女性は「いじめ、不登校対策の充実」が多く、男性よりも10.4ポイント高くなっている。男性は「道徳教育の充実」が多く、女性よりも4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「子どもの学力向上」は30～39歳、40～49歳で3割以上と多くなっている。「道徳教育の充実」はおおむね年齢が上がるほど増加傾向となり70歳以上では4割となっている。「いじめ、不登校対策の充実」は60～69歳で3割台半ばと多くなっている。(図4-4-1)

図4-4-2 学校教育について力を入れるべき施策－居住地域別

		(%)													
	調査数 (n)	子どもの学力向上	少人数学級の実現	国際理解教育の充実	道徳教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	体育、運動、部活動の充実	開かれた教育現場の充実	家庭、地域との連携の強化	学校施設、設備の充実	特別支援教育の充実	その他	わからない	無回答	
全体	736	22.6	14.1	16.0	28.3	26.9	11.1	10.2	18.8	7.9	3.8	1.2	7.7	5.8	
矢野口	128	22.7	8.6	18.0	27.3	21.9	10.9	10.2	17.2	10.9	3.9	0.8	10.9	8.6	
東長沼	104	26.9	11.5	11.5	35.6	35.6	9.6	9.6	17.3	11.5	2.9	-	7.7	2.9	
大丸	71	21.1	15.5	15.5	26.8	29.6	14.1	5.6	23.9	7.0	2.8	-	14.1	2.8	
百村	39	17.9	10.3	10.3	28.2	25.6	17.9	7.7	10.3	10.3	7.7	2.6	10.3	7.7	
坂浜	24	16.7	12.5	8.3	20.8	29.2	16.7	8.3	37.5	4.2	-	4.2	4.2	8.3	
平尾	86	20.9	4.7	15.1	31.4	31.4	4.7	10.5	20.9	4.7	1.2	2.3	8.1	9.3	
押立	43	23.3	11.6	18.6	18.6	18.6	11.6	18.6	20.9	9.3	4.7	-	11.6	2.3	
向陽台	95	26.3	22.1	13.7	28.4	31.6	9.5	12.6	16.8	7.4	5.3	2.1	2.1	3.2	
長峰	30	16.7	20.0	13.3	36.7	16.7	3.3	10.0	26.7	6.7	3.3	6.7	3.3	10.0	
若葉台	102	22.5	22.5	21.6	24.5	21.6	15.7	10.8	13.7	3.9	5.9	-	3.9	6.9	

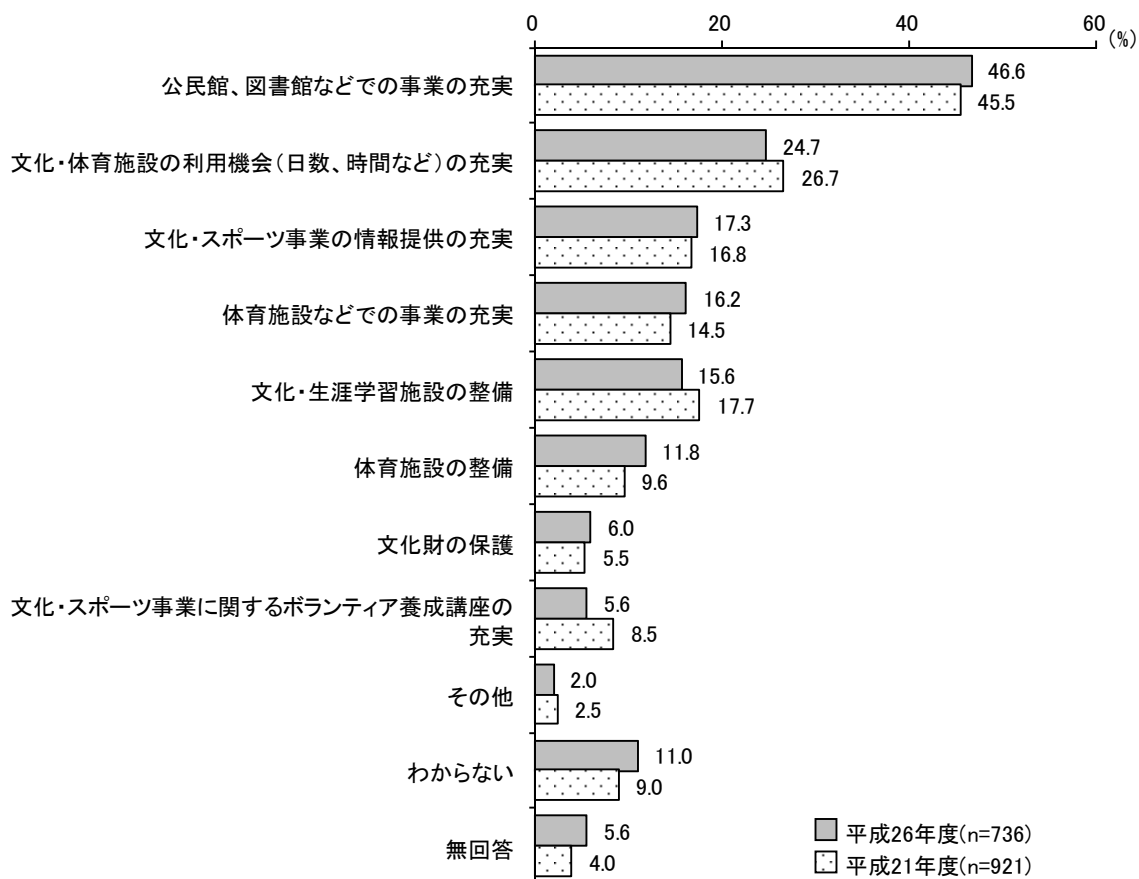
居住地域別でみると、「道徳教育の充実」は東長沼、平尾、長峰で3割以上、「いじめ、不登校対策の充実」は東長沼、平尾、向陽台で3割以上と多くなっている。「家庭、地域との連携の強化」は坂浜で4割近くと多くなっている。「子どもの学力向上」は東長沼、向陽台で3割近く、「少人数学級の実現」は向陽台、長峰、若葉台で2割以上となっている。(図4-4-2)

(5) 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス

◇「公民館、図書館などでの事業の充実」が5割近く

問14 生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。（○は2つまで）

図4-5 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス



生涯学習について力を入れるべき施策やサービスについては、「公民館、図書館などでの事業の充実」(46.6%)が最も多くなっている。次いで、「文化・体育施設の利用機会(日数、時間など)の充実」(24.7%)、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」(17.3%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、すべての項目において3ポイント未満の増減がみられるものの大きな変化はみられない。(図4-5)

図 4-5-1 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス—性別・年齢別

		(%)										
	調査数 (n)	公民館、図書館などでの事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・スポーツ事業の提供の充実	文化・体育施設の利用機会の充実	文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実	文化財の保護	文化・生涯学習施設の整備	体育施設の整備	その他	わからない	無回答
全体	736	46.6	16.2	17.3	24.7	5.6	6.0	15.6	11.8	2.0	11.0	5.6
女性	410	47.1	15.1	17.3	22.4	6.8	6.6	14.4	8.5	2.0	12.4	5.4
男性	308	45.8	17.5	17.5	26.9	3.6	5.5	17.5	15.9	2.3	9.1	5.8
16～29歳	72	44.4	18.1	19.4	20.8	1.4	6.9	5.6	20.8	-	13.9	5.6
30～39歳	110	50.0	21.8	12.7	34.5	7.3	4.5	9.1	12.7	2.7	8.2	3.6
40～49歳	127	52.0	27.6	15.0	23.6	6.3	-	15.0	13.4	2.4	7.9	3.9
50～59歳	119	41.2	11.8	17.6	28.6	2.5	11.8	19.3	12.6	3.4	7.6	5.9
60～69歳	153	43.1	16.3	20.3	22.9	5.9	7.8	16.3	9.8	0.7	10.5	7.8
70歳以上	140	47.9	4.3	18.6	16.4	7.1	5.7	22.1	6.4	2.9	18.6	6.4

性別でみると、男女とも「公民館、図書館などでの事業の充実」が多くなっている。「体育施設の整備」は男性の方が女性よりも7.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢において「公民館、図書館などでの事業の充実」が4割以上と多く、特に40～49歳では5割強となっている。「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」は30～39歳で3割台半ばと多くなっている。「体育施設などでの事業の充実」は40～49歳で3割近くとなっている。「体育施設の整備」は16～29歳で約2割となっている。（図4-5-1）

図 4-5-2 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス—居住地域別

	調査数 (n)	(%)										
		公民館、図書館などでの事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・体育施設の利用機会(日数、時間など)の充実	座の充実	文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座	文化財の保護	文化・生涯学習施設の整備	体育施設の整備	その他	わからない
全体	736	46.6	16.2	17.3	24.7	5.6	6.0	15.6	11.8	2.0	11.0	5.6
矢野口	128	46.1	17.2	18.8	27.3	4.7	6.3	19.5	8.6	-	10.2	7.8
東長沼	104	52.9	14.4	15.4	19.2	8.7	6.7	19.2	13.5	1.0	11.5	3.8
大丸	71	45.1	15.5	14.1	18.3	5.6	7.0	12.7	14.1	1.4	21.1	5.6
百村	39	30.8	2.6	23.1	23.1	10.3	7.7	15.4	10.3	2.6	12.8	10.3
坂浜	24	37.5	29.2	20.8	25.0	-	16.7	4.2	16.7	4.2	12.5	4.2
平尾	86	48.8	14.0	10.5	30.2	2.3	2.3	12.8	11.6	4.7	10.5	8.1
押立	43	41.9	18.6	16.3	20.9	7.0	9.3	16.3	11.6	2.3	14.0	2.3
向陽台	95	50.5	16.8	18.9	30.5	3.2	1.1	18.9	10.5	3.2	8.4	2.1
長峰	30	46.7	23.3	13.3	20.0	-	3.3	10.0	13.3	6.7	10.0	6.7
若葉台	102	46.1	17.6	22.5	21.6	7.8	8.8	12.7	12.7	1.0	5.9	5.9

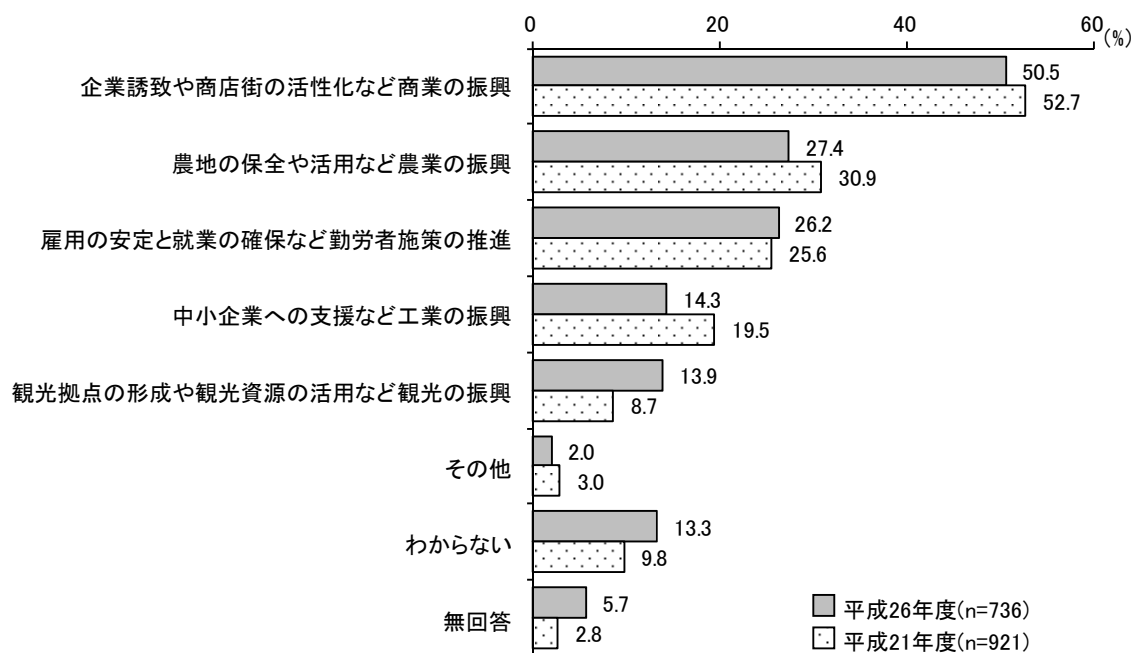
居住地域別でみると、すべての地域において「公民館、図書館などでの事業の充実」が多く、特に東長沼では5割強となっている。「体育施設などでの事業の充実」は坂浜で3割弱、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」は百村、坂浜、若葉台で2割以上となっている。「文化・体育施設の利用機会(日数、時間など)の充実」は平尾、向陽台で約3割と多くなっている。(図4-5-2)

(6) 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと

◇「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が約5割

問15 商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-6 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと



商工業・観光・農業について力を入れるべきことについては、「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」(50.5%)が最も多くなっている。次いで、「農地の保全や活用など農業の振興」(27.4%)、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」(26.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「中小企業への支援など工業の振興」は5.2ポイント減少している。一方、「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」は5.2ポイント増加している。(図4-6)

図 4-6-1 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと－性別・年齢別

		(%)							
	調査数 (n)	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	中小企業への支援など工業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	観光拠点の形成や観光振興源の活用など観光振興	農地の保全や活用など農業の振興	その他	わからない	無回答
全体	736	50.5	14.3	26.2	13.9	27.4	2.0	13.3	5.7
女性	410	48.3	10.5	24.6	10.5	28.8	1.5	15.9	6.3
男性	308	53.9	19.2	27.9	17.5	26.6	2.9	9.7	4.5
16～29歳	72	40.3	16.7	22.2	12.5	34.7	2.8	15.3	2.8
30～39歳	110	54.5	16.4	26.4	11.8	30.0	2.7	11.8	2.7
40～49歳	127	55.1	12.6	25.2	7.9	31.5	2.4	13.4	3.9
50～59歳	119	47.1	13.4	31.9	16.8	35.3	0.8	6.7	5.0
60～69歳	153	51.0	11.8	30.1	13.7	22.2	2.0	12.4	9.8
70歳以上	140	50.7	16.4	18.6	17.9	17.9	2.1	20.0	7.9

性別でみると、男女とも「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が多く、男性の方が女性よりも5.6ポイント高くなっている。次いで、女性は「農地の保全や活用など農業の振興」が多く、男性は「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」が多くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢において「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が4割以上と多く、特に30～39歳、40～49歳では5割台半ばとなっている。「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」は50～59歳、60～69歳で3割以上となっている。また、「農地の保全や活用など農業の振興」は16～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で3割以上となっている。(図4-6-1)

図4-6-2 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと－居住地域別

		(%)								
	調査数 (n)	企業誘致や商店街の活性化 など商業の振興	中小企業への支援など工 業の振興	雇用の安定と就業の確保 など勤労者施策の推進	観光拠点の形成や観光振興 源の活用など観光の振興	農地の保全や活用など農 業の振興	その他	わからない	無回答	
全 体	736	50.5	14.3	26.2	13.9	27.4	2.0	13.3	5.7	
矢 野 口	128	57.0	16.4	23.4	9.4	32.0	1.6	10.2	8.6	
東 長 沼	104	61.5	15.4	28.8	19.2	22.1	1.0	10.6	3.8	
大 丸	71	57.7	26.8	26.8	18.3	15.5	-	12.7	2.8	
百 村	39	51.3	12.8	23.1	15.4	33.3	-	7.7	7.7	
坂 浜	24	25.0	8.3	20.8	4.2	45.8	16.7	20.8	8.3	
平 尾	86	45.3	14.0	30.2	8.1	24.4	5.8	15.1	7.0	
押 立	43	39.5	9.3	25.6	18.6	25.6	-	25.6	2.3	
向 陽 台	95	49.5	11.6	26.3	17.9	27.4	2.1	12.6	2.1	
長 峰	30	36.7	6.7	30.0	13.3	20.0	3.3	16.7	10.0	
若 葉 台	102	45.1	10.8	22.5	9.8	36.3	-	13.7	7.8	

居住地域別でみると、坂浜を除く地域において「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が多くなっている。「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」は平尾、長峰で3割以上となっている。また、「農地の保全や活用など農業の振興」は坂浜で4割台半ばと他の地域と比較して多くなっている。(図4-6-2)

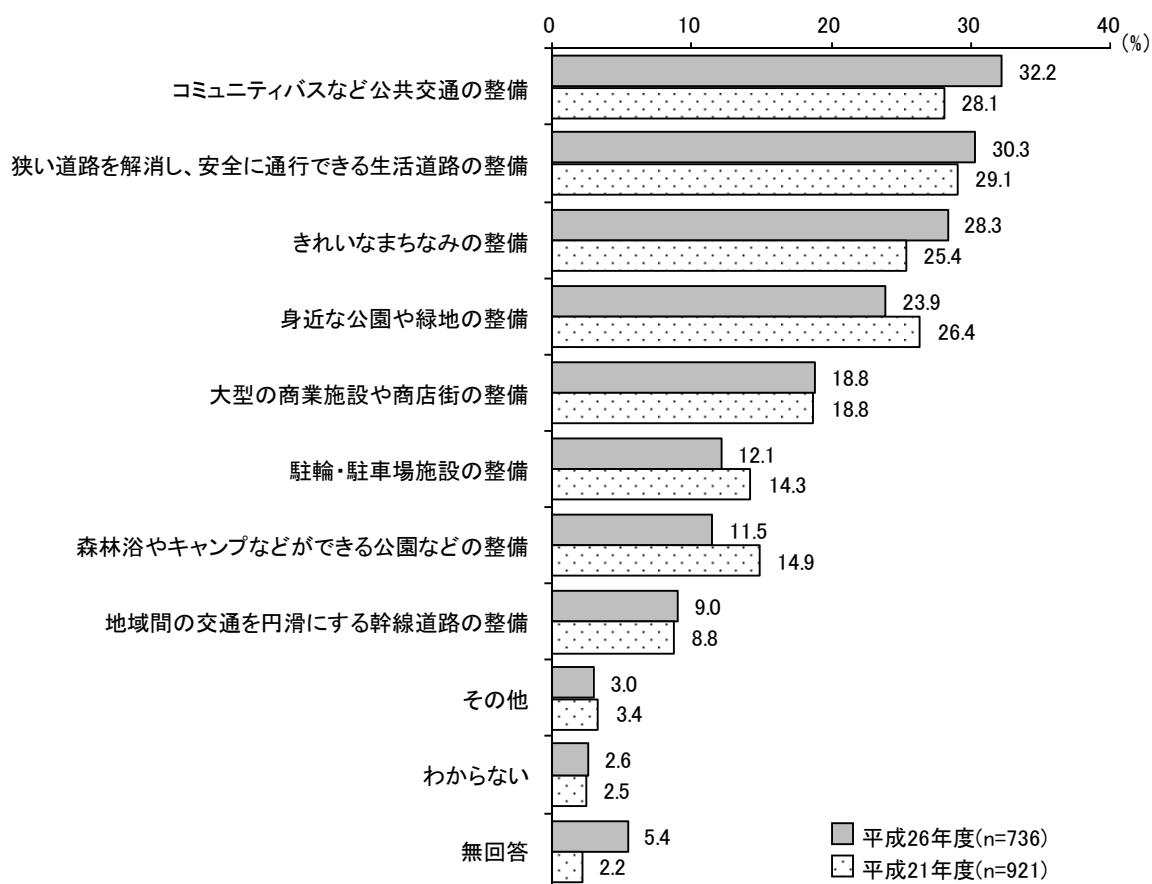


(7) 都市基盤について力を入れるべきこと

◇「コミュニティバスなど公共交通の整備」が3割強

問16 都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

図4-7 都市基盤について力を入れるべきこと



都市基盤について力を入れるべきことについては、「コミュニティバスなど公共交通の整備」(32.2%)が最も多くなっている。次いで、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」(30.3%)、「きれいなまちなみの整備」(28.3%)、「身近な公園や緑地の整備」(23.9%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「コミュニティバスなど公共交通の整備」は4.1ポイント増加している。一方、「森林浴やキャンプなどができる公園などの整備」は3.4ポイント減少している。(図4-7)

図4-7-1 都市基盤について力を入れるべきこと－性別・年齢別

		(%)												
	調査数 (n)	きれいなまちなみの整備	整備に通行できる生活道路の安全	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	身近な公園や緑地の整備	森林浴やキャンプなどができる公園などの整備	公共交通の整備	コミュニティバスなどの公	大型の商業施設や商店街の整備	駐輪・駐車場施設の整備	その他	わからない	無回答
全体	736	28.3	30.3	9.0	23.9	11.5	32.2	18.8	12.1	3.0	2.6	5.4		
女性	410	27.1	30.5	7.6	21.7	11.0	35.6	18.5	13.7	2.0	2.9	6.3		
男性	308	30.2	29.5	10.4	27.3	12.7	27.6	19.2	10.1	4.5	1.9	4.2		
16～29歳	72	26.4	25.0	2.8	26.4	22.2	30.6	18.1	12.5	4.2	5.6	2.8		
30～39歳	110	25.5	27.3	7.3	30.9	16.4	26.4	27.3	11.8	3.6	0.9	4.5		
40～49歳	127	33.1	23.6	8.7	22.0	17.3	34.6	23.6	8.7	3.9	2.4	3.9		
50～59歳	119	27.7	26.1	10.1	26.9	11.8	31.9	20.2	9.2	4.2	1.7	5.9		
60～69歳	153	26.1	38.6	9.8	24.2	5.2	30.1	15.7	13.7	1.3	1.3	7.8		
70歳以上	140	30.7	35.0	10.7	16.4	4.3	37.9	10.0	15.7	2.1	4.3	6.4		

性別でみると、女性は「コミュニティバスなど公共交通の整備」が多く、男性よりも8.0ポイント高くなっている。男性は「きれいなまちなみの整備」が多く、女性よりも3.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30～39歳を除く年齢において「コミュニティバスなど公共交通の整備」が3割以上となっている。「身近な公園や緑地の整備」は30～39歳で約3割と多くなっている。「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」は60～69歳、70歳以上で3割台半ば以上と多くなっている。

(図4-7-1)

図4-7-2 都市基盤について力を入れるべきこと－居住地域別

		(%)												
	調査数 (n)	きれいなまちなみの整備	整備に通行できる生活道路の安全	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	身近な公園や緑地の整備	森林浴やキャンプなどができる公園などの整備	公共交通の整備	コミュニティバスなどの整備	大型の商業施設や商店街の整備	駐輪・駐車場施設の整備	その他	わからない	無回答
全体	736	28.3	30.3	9.0	23.9	11.5	32.2	18.8	12.1	3.0	2.6	5.4		
矢野口	128	23.4	31.3	3.9	28.1	12.5	28.1	21.1	9.4	3.9	3.1	9.4		
東長沼	104	26.9	39.4	4.8	18.3	11.5	23.1	29.8	20.2	5.8	1.0	2.9		
大丸	71	23.9	31.0	7.0	21.1	11.3	29.6	26.8	21.1	2.8	4.2	1.4		
百村	39	17.9	25.6	5.1	35.9	12.8	25.6	20.5	10.3	-	7.7	7.7		
坂浜	24	16.7	50.0	8.3	29.2	8.3	16.7	12.5	16.7	4.2	-	12.5		
平尾	86	27.9	34.9	20.9	17.4	4.7	37.2	12.8	2.3	1.2	3.5	7.0		
押立	43	23.3	27.9	4.7	27.9	9.3	34.9	23.3	16.3	-	4.7	2.3		
向陽台	95	37.9	25.3	9.5	21.1	15.8	37.9	16.8	11.6	3.2	1.1	2.1		
長峰	30	40.0	20.0	3.3	20.0	16.7	33.3	6.7	13.3	6.7	3.3	10.0		
若葉台	102	37.3	20.6	13.7	28.4	12.7	43.1	7.8	6.9	2.0	-	5.9		

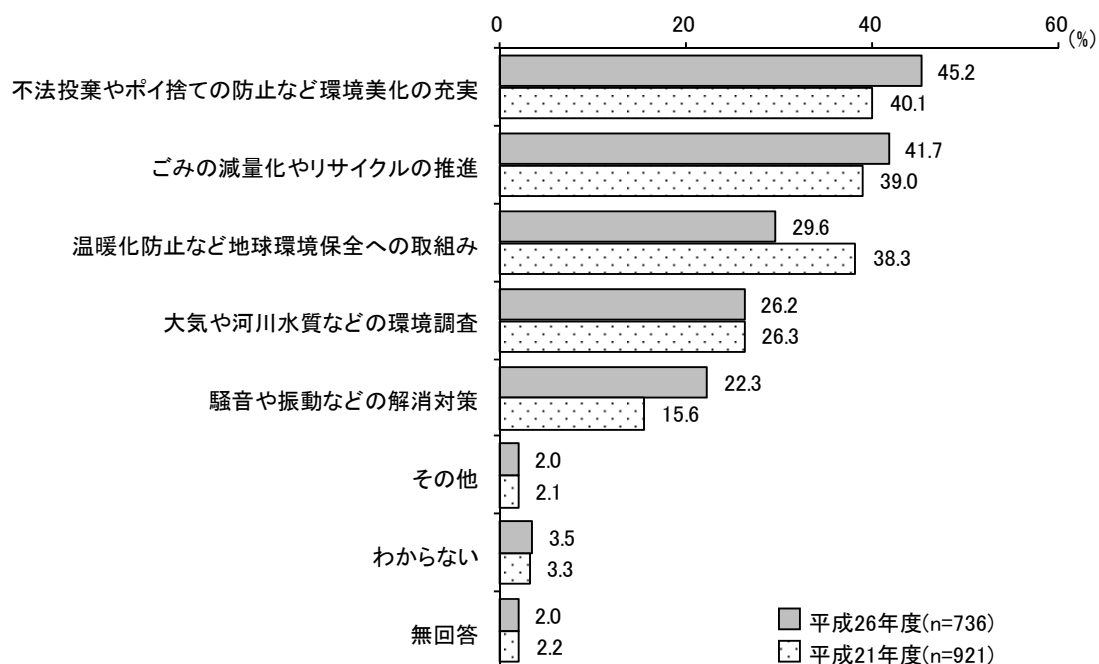
居住地域別でみると、「きれいなまちなみの整備」は長峰で4割、向陽台、若葉台で4割近くと多くなっている。「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」は坂浜で5割、「身近な公園や緑地の整備」は百村で3割台半ばとなっている。「コミュニティバスなど公共交通の整備」は若葉台で4割強、平尾、押立、向陽台、長峰で3割以上となっている。「地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備」は平尾で約2割、「駐輪・駐車場施設の整備」は東長沼、大丸で2割以上と他の地域と比較して多くなっている。(図4-7-2)

(8) 生活環境について力を入れるべきこと

◇「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」が4割台半ば

問17 生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

図4-8 生活環境について力を入れるべきこと



生活環境について力を入れるべきことについては、「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」(45.2%)が最も多くなっている。次いで、「ごみの減量化やリサイクルの推進」(41.7%)、「温暖化防止など地球環境保全への取組み」(29.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」は5.1ポイント増加している。一方、「温暖化防止など地球環境保全への取組み」は8.7ポイント減少している。(図4-8)

図 4-8-1 生活環境について力を入れるべきこと－性別・年齢別

		(%)								
	調査数 (n)	ごみの減量化やリサイクルの推進	温暖化防止など地球環境保全への取り組み	騒音や振動などの解消対策	不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実	大気や河川水質などの環境調査	その他	わからない	無回答	
全体	736	41.7	29.6	22.3	45.2	26.2	2.0	3.5	2.0	
女性	410	40.5	31.5	20.5	44.6	27.8	1.0	3.9	2.0	
男性	308	43.2	26.9	25.0	46.1	24.4	3.6	2.9	1.6	
16～29歳	72	31.9	16.7	34.7	43.1	33.3	4.2	5.6	1.4	
30～39歳	110	32.7	24.5	31.8	40.0	31.8	2.7	3.6	1.8	
40～49歳	127	40.2	26.8	25.2	39.4	27.6	2.4	7.1	-	
50～59歳	119	46.2	31.1	16.8	41.2	28.6	1.7	2.5	2.5	
60～69歳	153	47.1	37.9	15.7	52.3	24.2	1.3	-	2.0	
70歳以上	140	46.4	33.6	17.9	50.7	16.4	1.4	3.6	3.6	

性別で見ると、男女ともに「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」が多く、次いで「ごみの減量化やリサイクルの推進」が多くなっている。「温暖化防止など地球環境保全への取り組み」は女性の方が男性よりも4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」は60～69歳、70歳以上で5割以上と多くなっている。「ごみの減量化やリサイクルの推進」は40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上で4割以上と多くなっている。「騒音や振動などの解消対策」と「大気や河川水質などの環境調査」は16～29歳、30～39歳で3割以上となっている。(図 4-8-1)

図4-8-2 生活環境について力を入れるべきこと－居住地域別

		(%)								
	調査数 (n)	ごみの 削減 の推 進	保 温 全 へ の 取 組 み	策 騒 音 や 振 動 な ど の 解 消 対 策	止 不 法 投 棄 や ポ イ 捨 て の 防 止	境 大 気 や 河 川 水 質 な ど の 環 境 調 査	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全 体	736	41.7	29.6	22.3	45.2	26.2	2.0	3.5	2.0	
矢 野 口	128	37.5	22.7	27.3	47.7	28.1	3.1	5.5	1.6	
東 長 沼	104	35.6	27.9	22.1	44.2	34.6	1.9	1.0	3.8	
大 丸	71	35.2	32.4	22.5	49.3	31.0	1.4	5.6	-	
百 村	39	28.2	20.5	35.9	46.2	23.1	2.6	5.1	-	
坂 浜	24	58.3	41.7	20.8	33.3	16.7	4.2	-	4.2	
平 尾	86	47.7	34.9	18.6	43.0	16.3	2.3	1.2	3.5	
押 立	43	39.5	25.6	9.3	44.2	32.6	-	7.0	2.3	
向 陽 台	95	49.5	33.7	17.9	44.2	25.3	1.1	2.1	2.1	
長 峰	30	26.7	26.7	30.0	46.7	40.0	3.3	3.3	-	
若 葉 台	102	52.9	34.3	21.6	44.1	17.6	2.0	3.9	1.0	

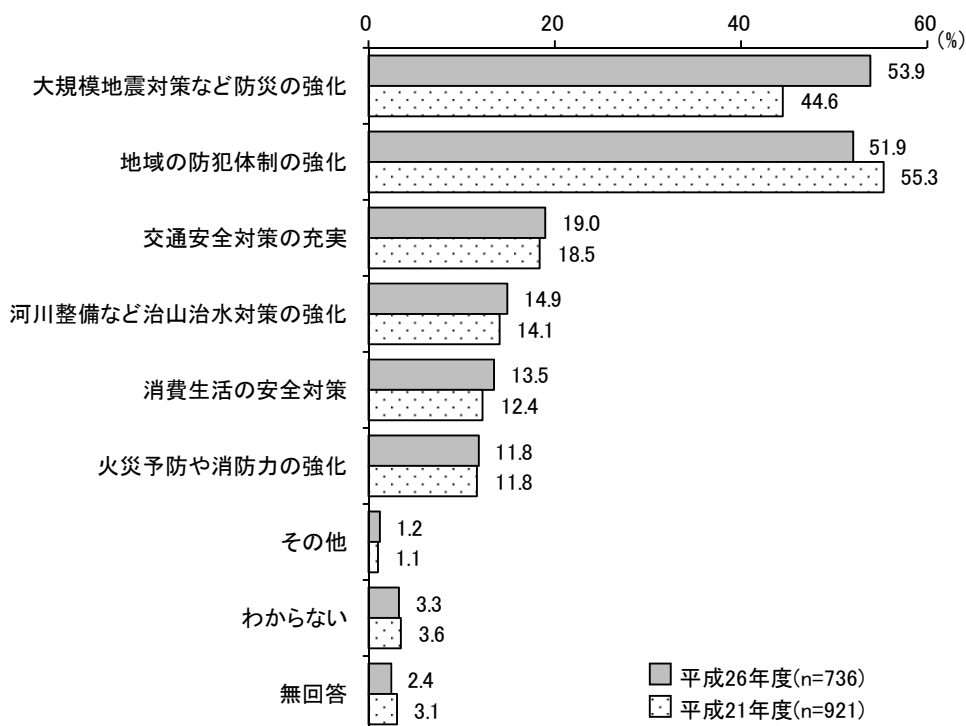
居住地域別でみると、坂浜を除く地域において「不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実」が4割以上となっている。「ごみの減量化やリサイクルの推進」は坂浜で6割近く、若葉台で5割強と多くなっている。「騒音や振動などの解消対策」は百村、長峰で3割以上となっている。また、「大気や河川水質などの環境調査」は長峰で4割と他の地域と比較して多くなっている。(図4-8-2)

(9) 防災や防犯について力を入れるべきこと

◇「大規模地震対策など防災の強化」が5割強

問18 防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-9 防災や防犯について力を入れるべきこと



防災や防犯について力を入れるべきことについては、「大規模地震対策など防災の強化」(53.9%)、「地域の防犯体制の強化」(51.9%)が多くなっている。次いで、「交通安全対策の充実」(19.0%)、「河川整備など治山治水対策の強化」(14.9%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「大規模地震対策など防災の強化」は9.3ポイント増加している。一方、「地域の防犯体制の強化」は3.4ポイント減少している。(図4-9)

図4-9-1 防災や防犯について力を入れるべきこと－性別・年齢別

		(%)								
	調査数 (n)	河川の 整備など 治水対策 の強化	大規模 地震対策 など防災 の強化	火災予防 や消防力 の強化	交通 安全対策 の充実	地域 の防犯 体制の 強化	消費 生活の 安全 対策	その他	わからない	無 回答
全 体	736	14.9	53.9	11.8	19.0	51.9	13.5	1.2	3.3	2.4
女 性	410	14.6	56.3	11.7	17.6	49.8	13.2	0.7	4.1	2.7
男 性	308	15.6	49.7	12.3	21.1	55.2	14.3	1.9	1.9	1.6
16～29歳	72	16.7	63.9	11.1	16.7	47.2	9.7	-	4.2	1.4
30～39歳	110	14.5	59.1	8.2	24.5	49.1	10.0	2.7	3.6	0.9
40～49歳	127	22.8	55.9	11.8	21.3	48.8	10.2	-	2.4	0.8
50～59歳	119	11.8	54.6	11.8	18.5	58.0	13.4	3.4	-	0.8
60～69歳	153	13.7	52.3	13.1	17.6	52.9	15.7	1.3	3.3	2.6
70歳以上	140	12.1	42.9	14.3	16.4	52.9	18.6	-	5.7	6.4

性別でみると、女性は「大規模地震対策など防災の強化」が多く、男性よりも6.6ポイント高くなっている。男性は「地域の防犯体制の強化」が多く、女性よりも5.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「大規模地震対策など防災の強化」は年齢が若いほど増加傾向となり16～29歳で6割強となっている。また、「消費生活の安全対策」は年齢が上がるほど増加傾向となり70歳以上では2割近くとなっている。「地域の防犯体制の強化」は50～59歳で6割近く、60～69歳、70歳以上で5割強と多くなっている。(図4-9-1)



図 4-9-2 防災や防犯について力を入れるべきこと－居住地域別

		(%)									
	調査数 (n)	河川整備など治山治水対策の強化	大規模地震対策など防災の強化	火災予防や消防力の強化	交通安全対策の充実	地域の防犯体制の強化	消費生活の安全対策	その他	わからない	無回答	
全 体	736	14.9	53.9	11.8	19.0	51.9	13.5	1.2	3.3	2.4	
矢 野 口	128	22.7	54.7	9.4	18.0	55.5	16.4	-	2.3	1.6	
東 長 沼	104	20.2	56.7	12.5	15.4	51.9	14.4	1.0	1.0	3.8	
大 丸	71	16.9	46.5	14.1	23.9	53.5	12.7	-	4.2	1.4	
百 村	39	15.4	64.1	7.7	12.8	46.2	15.4	-	5.1	-	
坂 浜	24	20.8	50.0	8.3	12.5	54.2	-	8.3	12.5	4.2	
平 尾	86	9.3	51.2	14.0	16.3	55.8	14.0	-	2.3	5.8	
押 立	43	14.0	48.8	14.0	27.9	41.9	18.6	-	-	4.7	
向 陽 台	95	13.7	50.5	7.4	15.8	56.8	15.8	4.2	3.2	1.1	
長 峰	30	3.3	60.0	16.7	16.7	43.3	10.0	6.7	6.7	-	
若 葉 台	102	7.8	55.9	15.7	27.5	46.1	8.8	-	3.9	1.0	

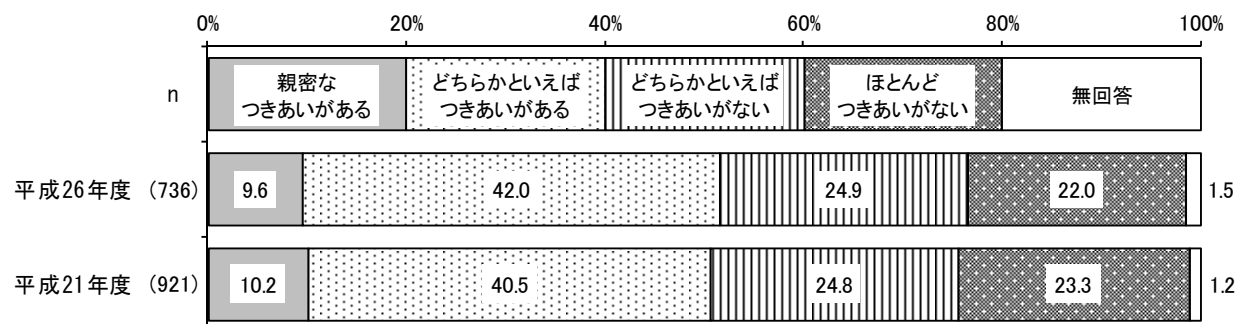
居住地域別でみると、「大規模地震対策など防災の強化」は百村、長峰で6割以上と多くなっている。「地域の防犯体制の強化」は矢野口、東長沼、大丸、坂浜、平尾、向陽台で5割以上と多くなっている。「河川整備など治山治水対策の強化」は矢野口、東長沼、坂浜で2割以上、「交通安全対策の充実」は大丸、押立、若葉台で2割以上となっている。(図 4-9-2)

(10) 近所づきあいの程度

◇「どちらかといえばつきあいがある」が4割強

問19 あなたのご家族では、ご近所とどの程度のつきあいをされていますか。(○は1つ)

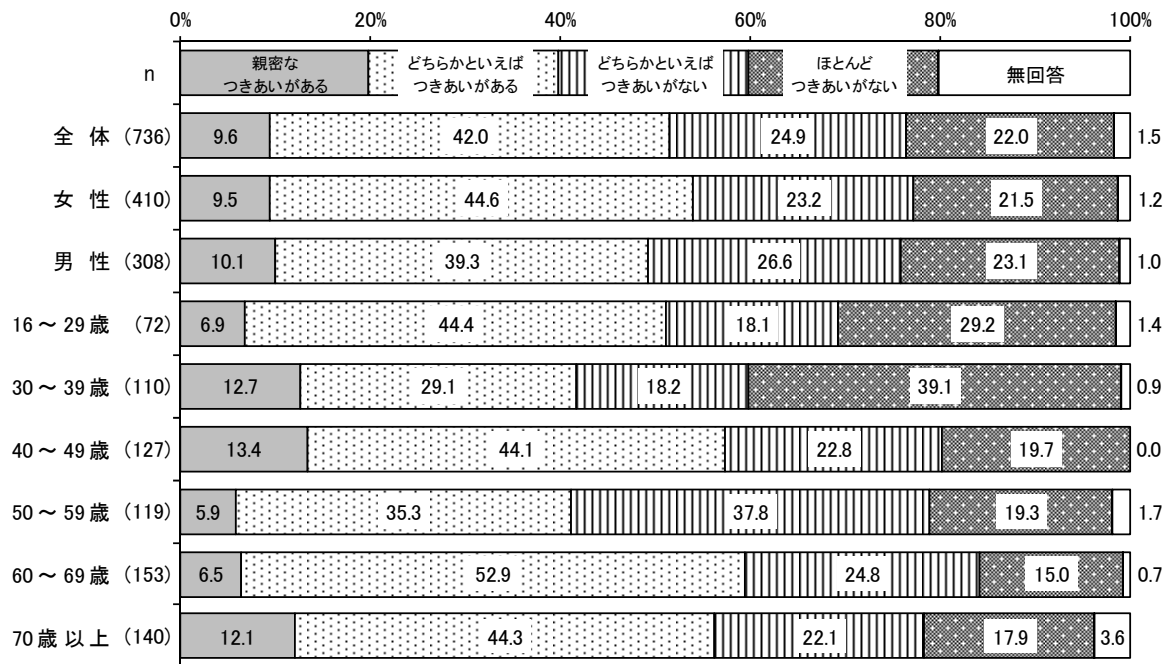
図 4-10 近所づきあいの程度



近所づきあいの程度については、「どちらかといえばつきあいがある」(42.0%)が最も多くなっている。次いで、「どちらかといえばつきあいがない」(24.9%)、「ほとんどつきあいがない」(22.0%)、「親密なつきあいがある」(9.6%)の順となっている。「親密なつきあいがある」と「どちらかといえばつきあいがある」を合わせた【つきあいがある】(51.6%)は5割強、「どちらかといえばつきあいがない」と「ほとんどつきあいがない」を合わせた【つきあいがない】(46.9%)は5割近くとなっている。

前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられない。(図 4-10)

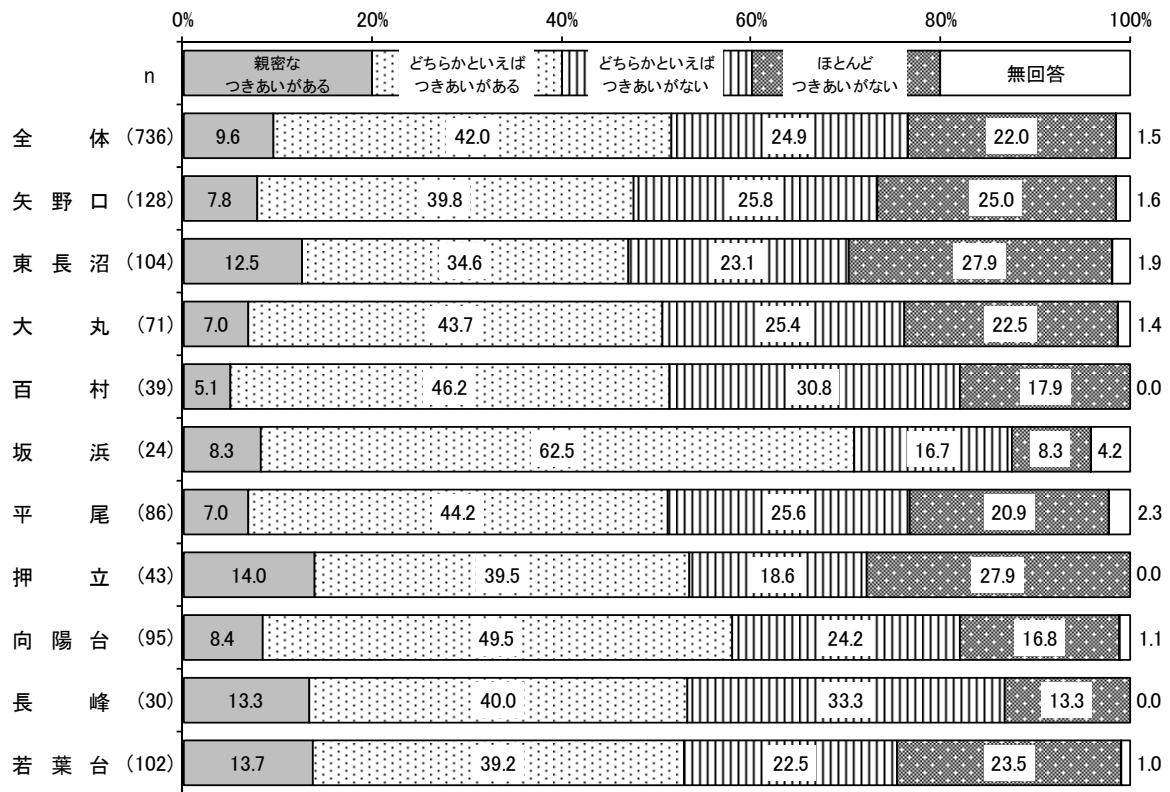
図 4-10-1 近所づきあいの程度－性別・年齢別



性別でみると、男女ともに「どちらかといえばつきあいがある」が多く、女性の方が男性よりも5.3ポイント高くなっている。女性は【つきあいがある】が5割台半ばであるが、男性は【つきあいがある】と【つきあがない】が5割弱と同じ割合となっている。

年齢別でみると、【つきあいがある】は16～29歳、40～49歳、60～69歳、70歳以上で5割以上と多く、特に60～69歳では6割弱となっている。一方、【つきあがない】は30～39歳、50～59歳で6割近くとなっている。(図 4-10-1)

図 4-10-2 近所づきあいの程度－居住地域別



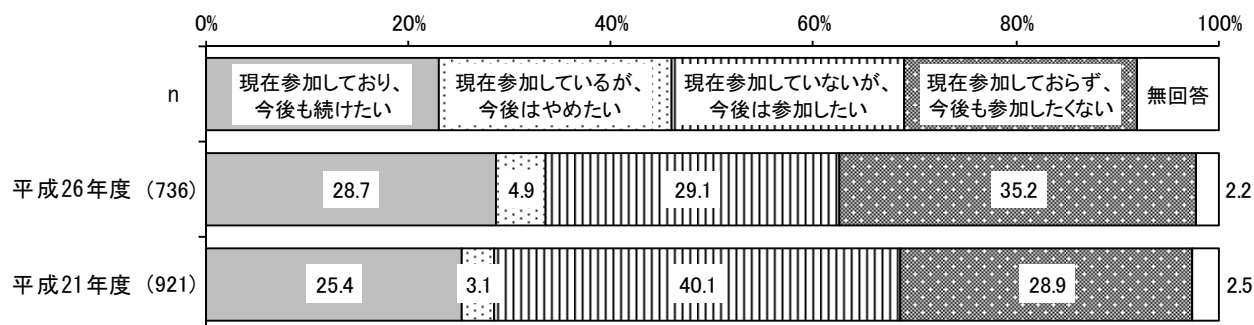
居住地域別で見ると、矢野口と東長沼を除く地域において【つきあいがある】は5割以上と多く、特に坂浜では約7割となっている。一方、【つきあいが無い】は矢野口、東長沼で5割以上と他の地域と比較して多くなっている。(図 4-10-2)

(11) 地域や組織への参加意向

◇「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が3割台半ば

問20 あなたは、地域の団体や組織（自治会、婦人会、老人クラブ、PTA、同好会など）に参加したいと考えていますか。（○は1つ）

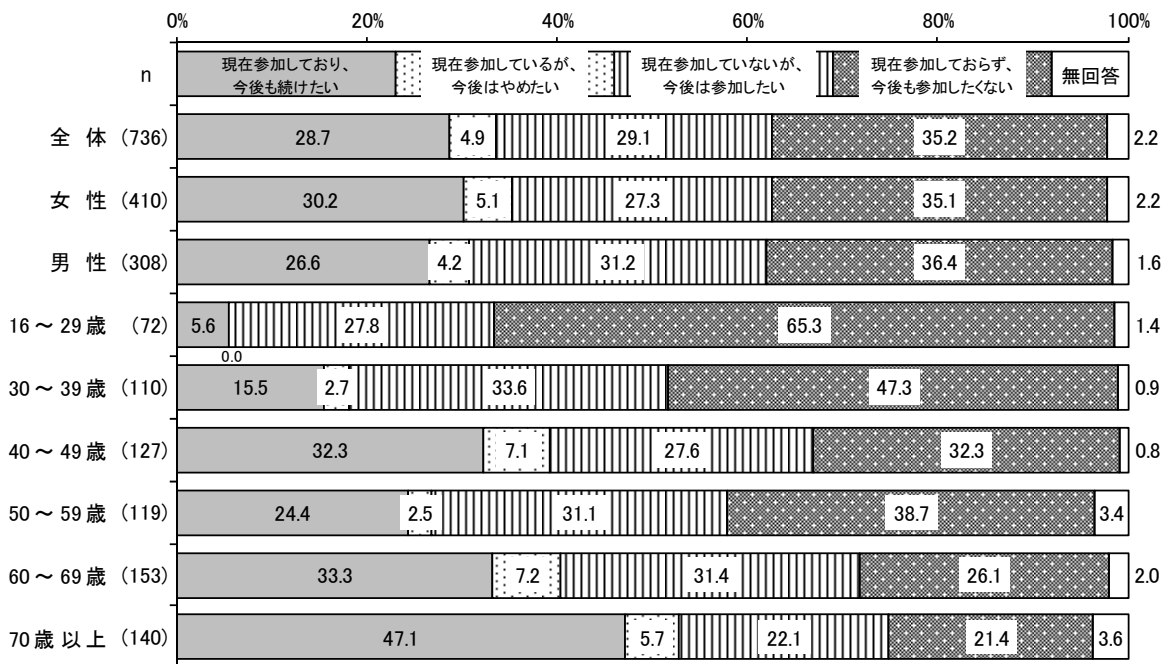
図4-11 地域や組織への参加意向



地域や組織への参加意向については、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」（35.2%）が最も多く、次いで、「現在参加していないが、今後は参加したい」（29.1%）、「現在参加しており、今後も続けたい」（28.7%）、「現在参加しているが、今後はやめたい」（4.9%）の順となっている。

前回調査と比較すると、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」は6.3ポイント増加している。一方、「現在参加していないが、今後は参加したい」は11.0ポイント減少している。（図4-11）

図 4-11-1 地域や組織への参加意向－性別・年齢別

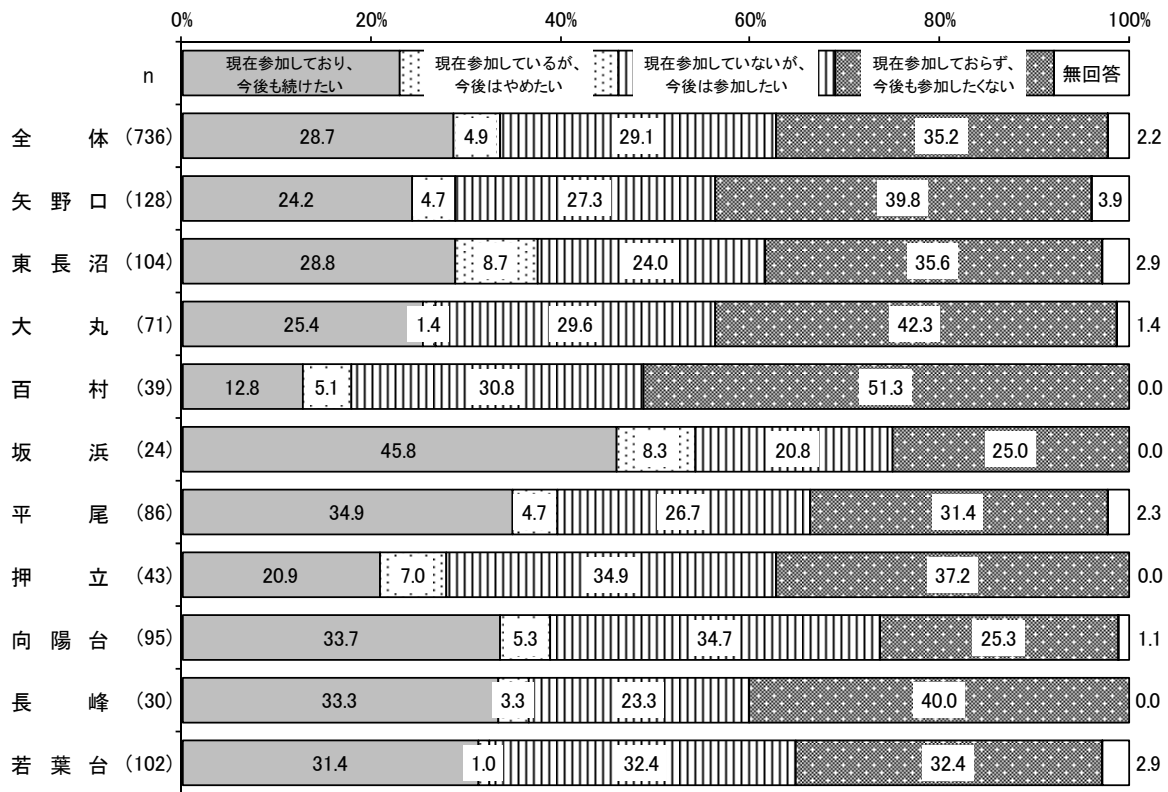


性別で見ると、男女ともに「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が多くなっている。「現在参加していないが、今後は参加したい」は男性の方が女性よりも3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「現在参加しており、今後も続けたい」は、60～69歳で3割強、70歳以上で5割近くと多くなっている。「現在参加しておらず、今後も参加したくない」は16～29歳で6割台半ば、30～39歳で5割近く、50～59歳で4割近くと多くなっている。40～49歳では「現在参加しておらず、今後も参加したくない」と「現在参加しており、今後も続けたい」が同じ割合となっている。

(図 4-11-1)

図 4-11-2 地域や組織への参加意向－居住地域別



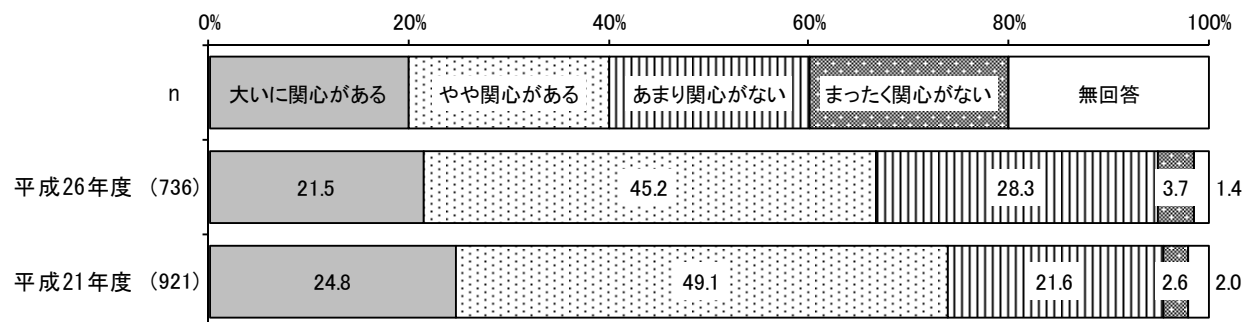
居住地域別でみると、「現在参加しており、今後も続けたい」は、坂浜で4割台半ば、平尾で3割台半ばと多くなっている。「現在参加しておらず、今後も参加したくない」は百村で5割強、大丸、長峰で4割以上と多くなっている。「現在参加していないが、今後は参加したい」は押立、向陽台で3割台半ばとなっている。若葉台では「現在参加していないが、今後は参加したい」と「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が3割強と同じ割合となっている。(図 4-11-2)

(12) 行政施策への関心度

◇【関心がある】が7割近く

問21 あなたは、稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

図4-12 行政施策への関心度

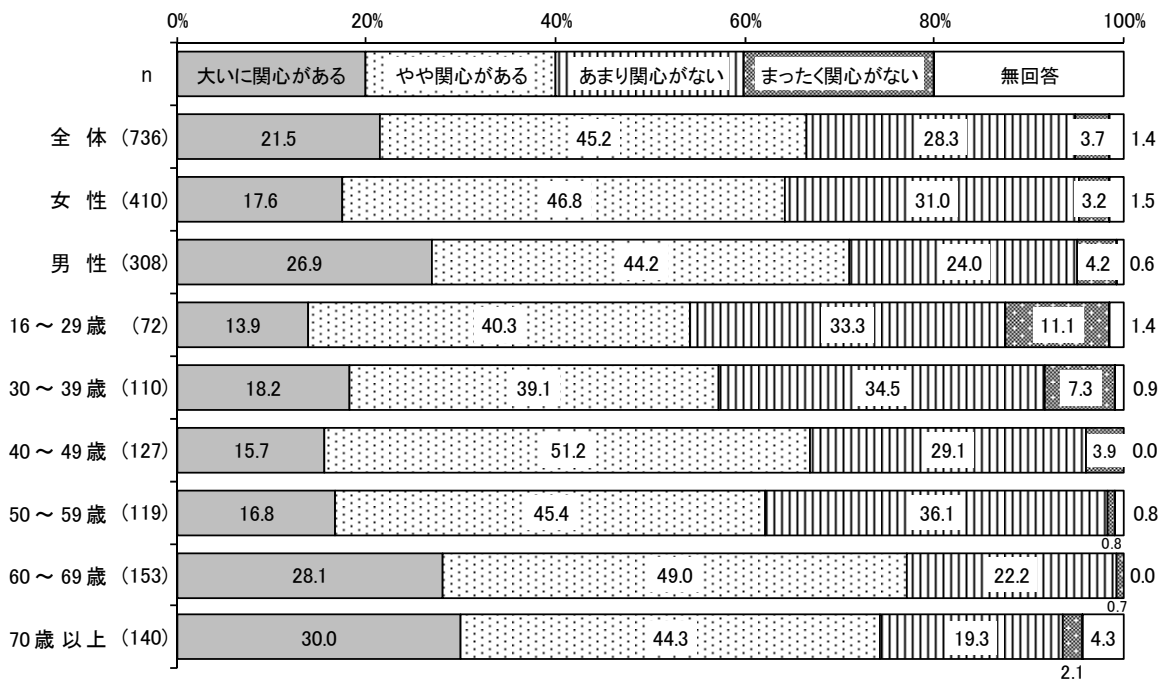


行政施策への関心度については、「やや関心がある」(45.2%)が最も多くなっている。次いで、「あまり関心がない」(28.3%)、「大いに関心がある」(21.5%)、「まったく関心がない」(3.7%)の順となっている。「大いに関心がある」と「やや関心がある」を合わせた【関心がある】(66.7%)は7割近くを占めている。一方、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた【関心がない】(32.0%)は3割強となっている。

前回調査と比較すると、【関心がある】は7.2ポイント減少している。一方、【関心がない】は7.8ポイント増加している。(図4-12)



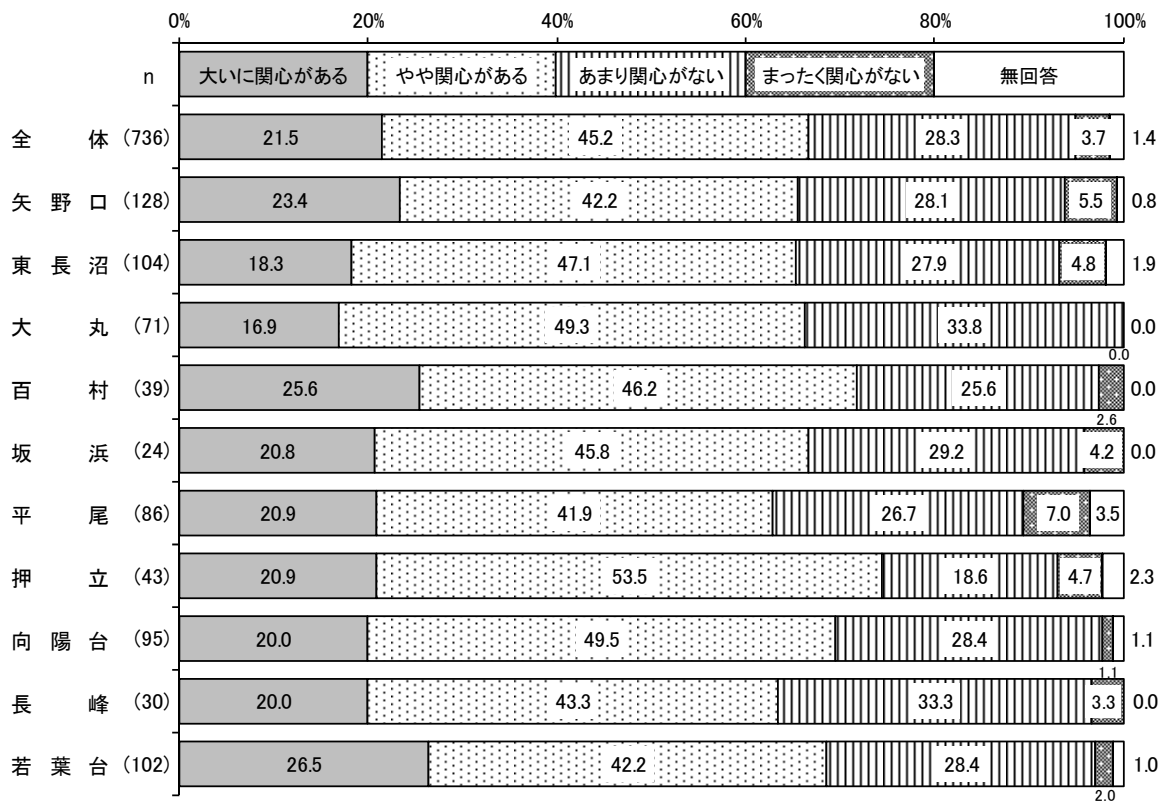
図 4-12-1 行政施策への関心度－性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに【関心がある】が多く、男性の方が女性よりも6.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢において【関心がある】が多く、特に60～69歳、70歳以上で7割以上と多くなっている。(図 4-12-1)

図 4-12-2 行政施策への関心度－居住地域別



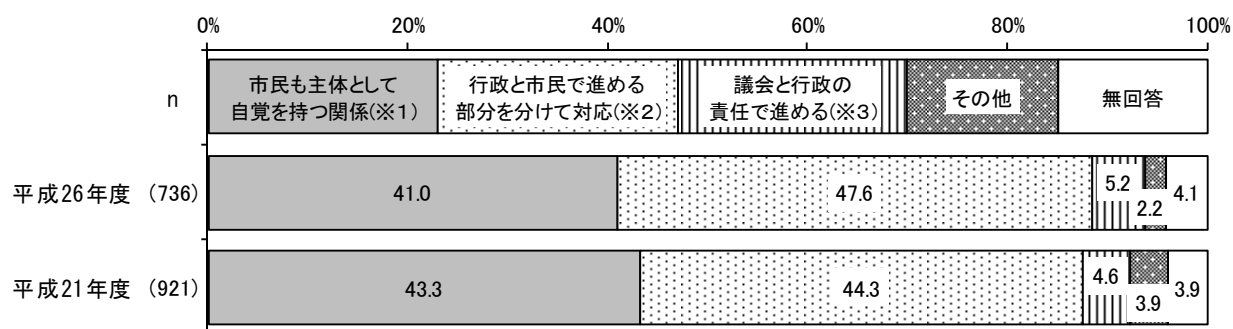
居住地域別で見ると、すべての地域において【関心がある】が6割以上と多く、特に百村、押立で7割以上となっている。(図 4-12-2)

(13) 市民と行政との協働によるまちづくり

◇「行政と市民で進める部分を分けて対応」が5割近く

問22 あなたは、市民と行政との協働（パートナーシップ）により、まちづくりを進めることについて、どのように考えていますか。（○は1つ）

図4-13 市民と行政との協働によるまちづくり

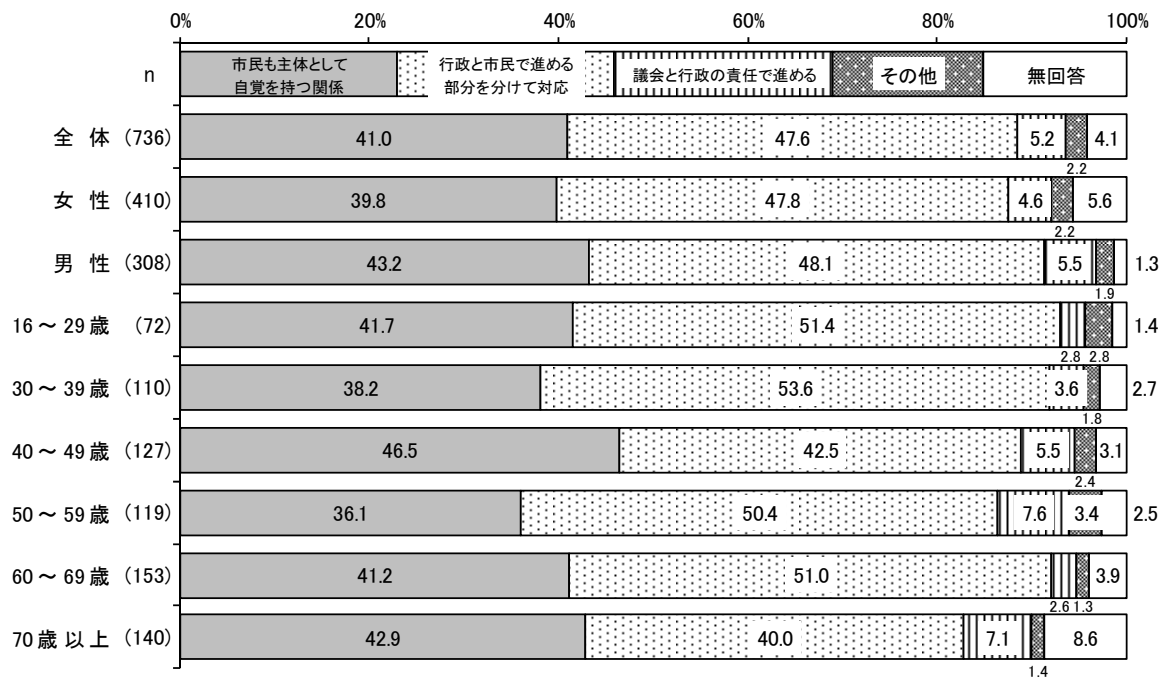


※1 市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい  
 ※2 行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい  
 ※3 議会と行政の責任で進めることが望ましい

市民と行政との協働によるまちづくりについては、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」（47.6%）が最も多くなっている。次いで、「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」（41.0%）、「議会と行政の責任で進めることが望ましい」（5.2%）の順となっている。

前回調査と比較すると、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」は3.3ポイント高くなっている。（図4-13）

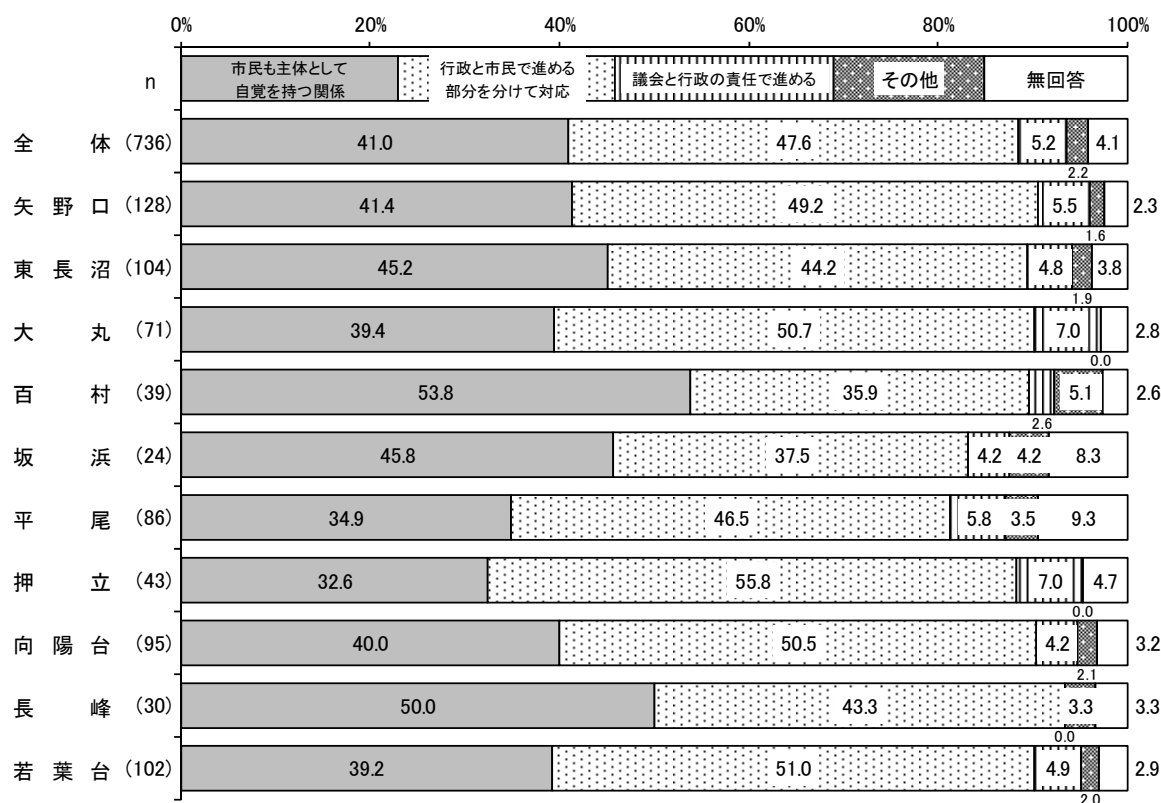
図 4-13-1 市民と行政との協働によるまちづくり－性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」が多くなっている。

年齢別で見ると、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」は16～29歳、30～39歳、50～59歳、60～69歳で5割以上と多くなっている。一方、40～49歳、70歳以上では「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が多くなっている。(図 4-13-1)

図 4-13-2 市民と行政との協働によるまちづくり—居住地域別



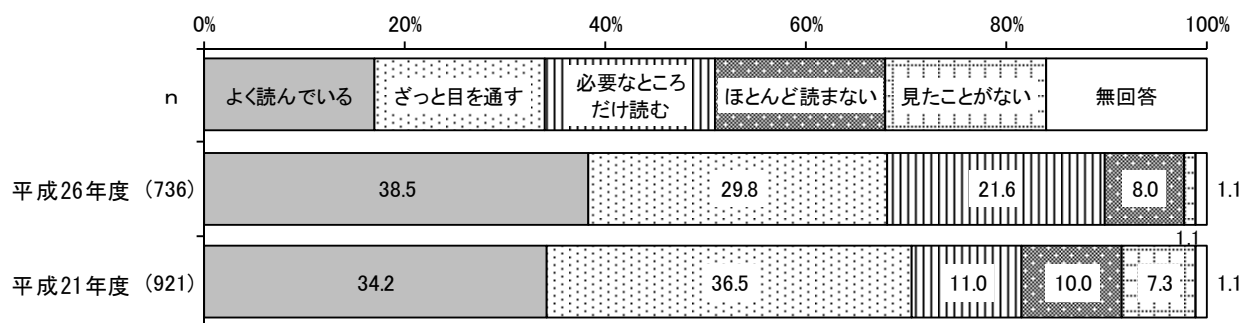
居住地域別でみると、「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」は百村、長峰で5割以上、東長沼、坂浜で4割台半ばと多くなっている。一方、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」は平尾で5割近く、矢野口で5割弱、大丸、押立、向陽台、若葉台で5割以上と多くなっている。(図 4-13-2)

(14)「広報いなぎ」の精読度

◇「よく読んでいる」が4割近く

問23 市では、「広報いなぎ」を毎月1日と15日に発行し、ポスティングにより全戸配布をしています。あなたはどの程度読んでいますか。(○は1つ)

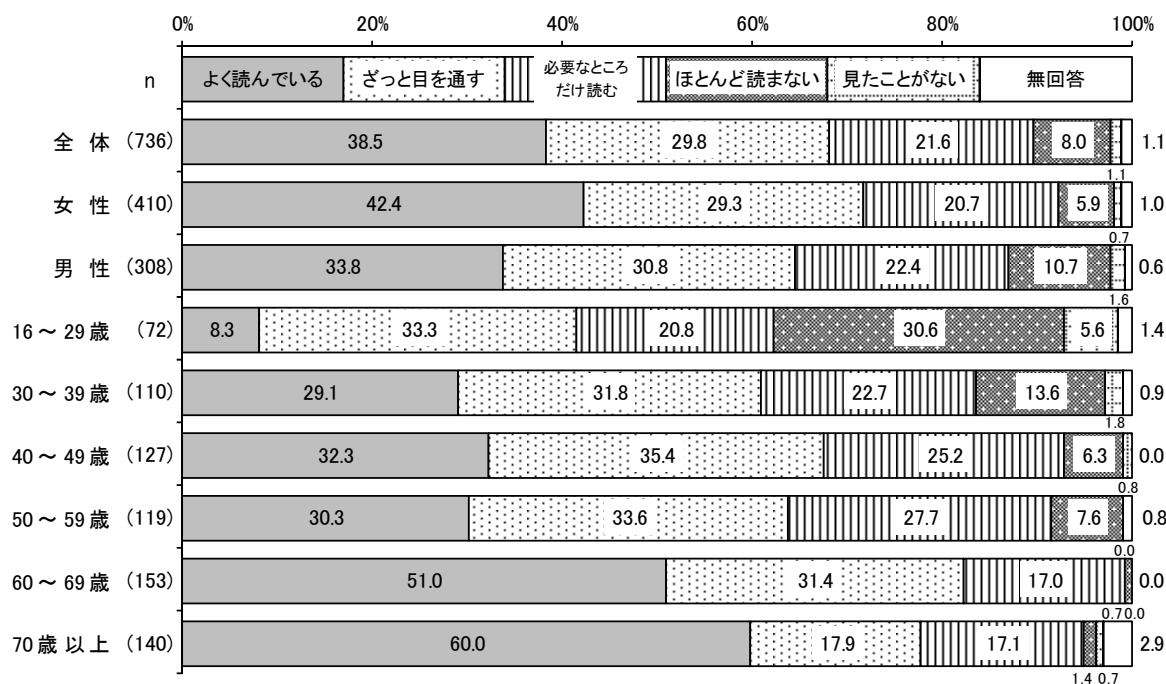
図4-14 「広報いなぎ」の精読度



広報いなぎの精読度については、「よく読んでいる」(38.5%)が最も多くなっている。次いで、「ざっと目を通す」(29.8%)、「必要なところだけ読む」(21.6%)、「ほとんど読まない」(8.0%)、「見たことがない」(1.1%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「必要なところだけ読む」は10.6ポイント、「よく読んでいる」は4.3ポイントそれぞれ増加している。一方、「ざっと目を通す」は6.7ポイント、「見たことがない」は6.2ポイントそれぞれ減少している。(図4-14)

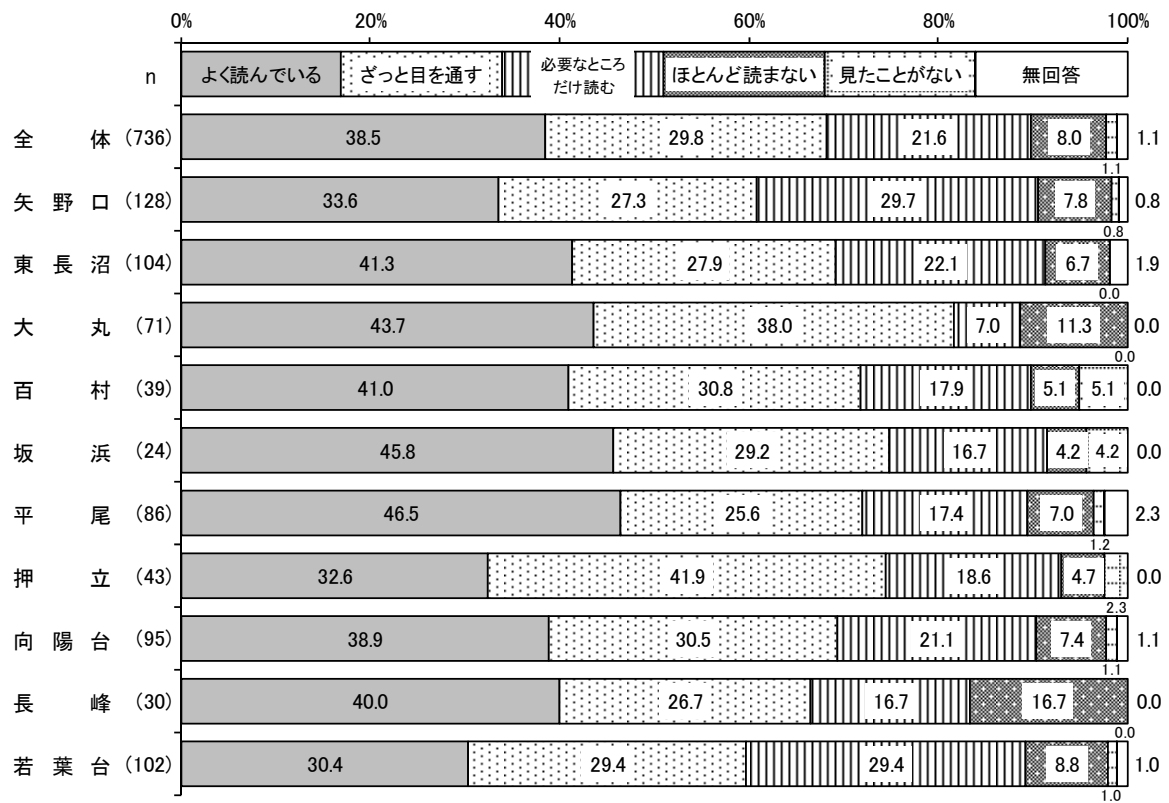
図 4-14-1 「広報いなぎ」の精読度—性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに「よく読んでいる」が多く、女性の方が男性よりも8.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「よく読んでいる」はおおむね年齢が上がるほど増加傾向となり、70歳以上では6割となっている。70歳以上を除く年齢において「ざっと目を通す」は3割以上となっている。「ほとんど読まない」は16～29歳で約3割と他の年齢と比較して多くなっている。(図 4-14-1)

図 4-14-2 「広報いなぎ」の精読度－居住地域別



居住地域別で見ると、押立を除く地域において「よく読んでいる」が多く、特に平尾では5割近くとなっている。「ざっと目を通す」は押立で4割強と多くなっている。「必要なところだけ読む」は矢野口、若葉台で3割弱となっている。(図 4-14-2)



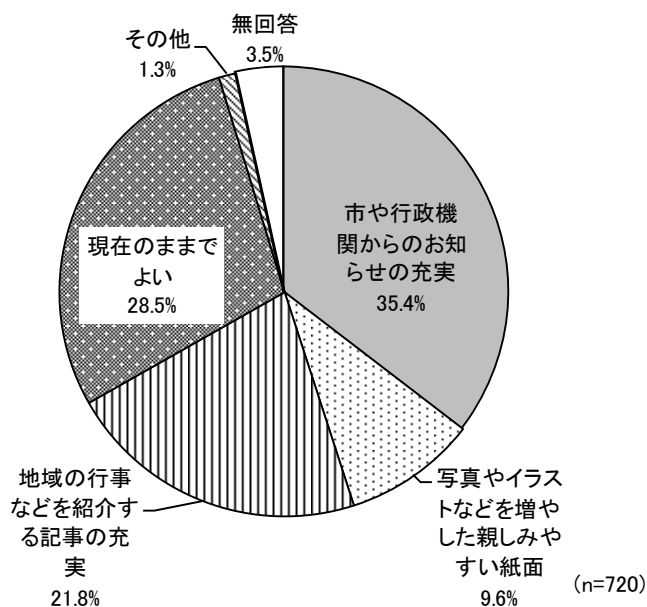
(15) 「広報いなぎ」の紙面に期待すること

◇ 「市や行政機関からのお知らせの充実」が3割台半ば

問23-1 (問23で、「1」から「4」とお答えの方に)

「広報いなぎ」の紙面内容に期待することはなんですか。(〇は1つ)

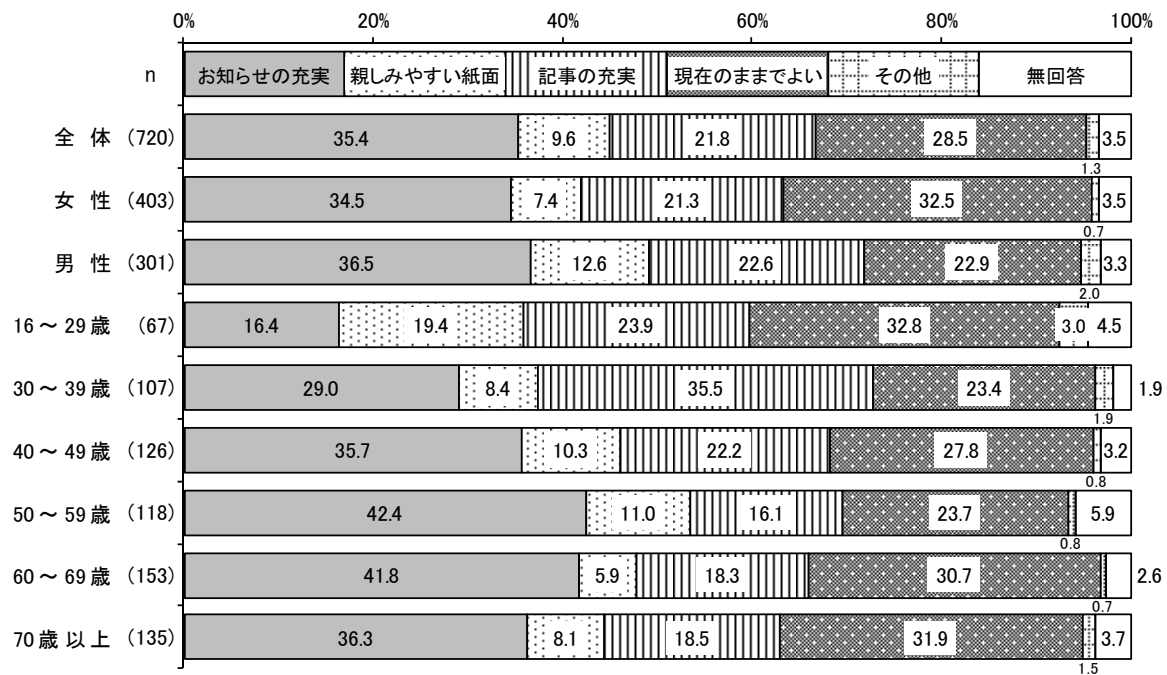
図4-15 「広報いなぎ」の紙面に期待すること



「広報いなぎ」の紙面に期待することについては、「市や行政機関からのお知らせの充実」(35.4%)が最も多くなっている。次いで、「現在のままでよい」(28.5%)、「地域の行事などを紹介する記事の充実」(21.8%)、「写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面」(9.6%)の順となっている。

(図4-15)

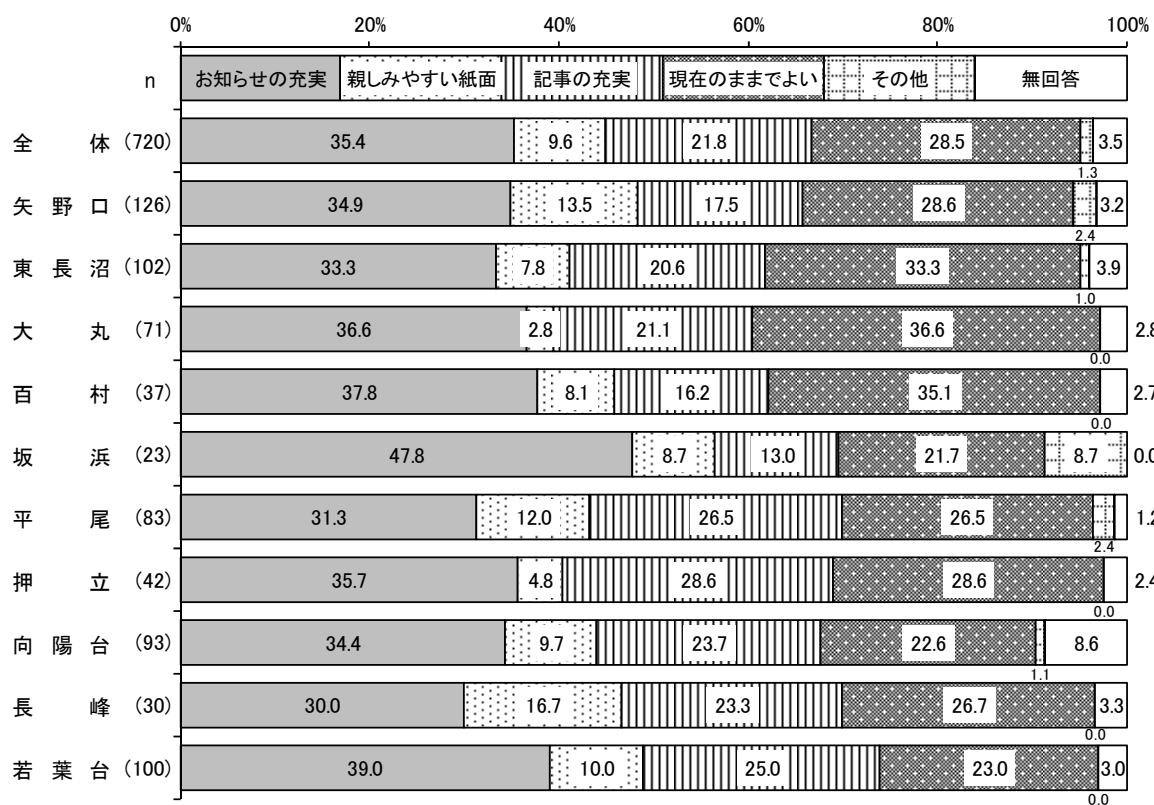
図 4-15-1 「広報いなぎ」の紙面に期待すること－性別・年齢別



性別でみると、男女ともに「市や行政機関からのお知らせの充実」が多くなっている。「現在のままでよい」は女性の方が男性よりも9.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「市や行政機関からのお知らせの充実」は50～59歳、60～69歳で4割強と多くなっている。「地域の行事などを紹介する記事の充実」は30～39歳で3割台半ばと他の年齢と比較して多くなっている。「現在のままでよい」は16～29歳、70歳以上で3割強となっている。(図 4-15-1)

図 4-15-2 「広報いなぎ」の紙面に期待すること—居住地域別



居住地域別でみると、すべての地域において「市や行政機関からのお知らせの充実」が多く、特に坂浜では5割近くとなっている。「現在のままでよい」は東長沼、大丸、百村で3割以上となっている。(図 4-15-2)

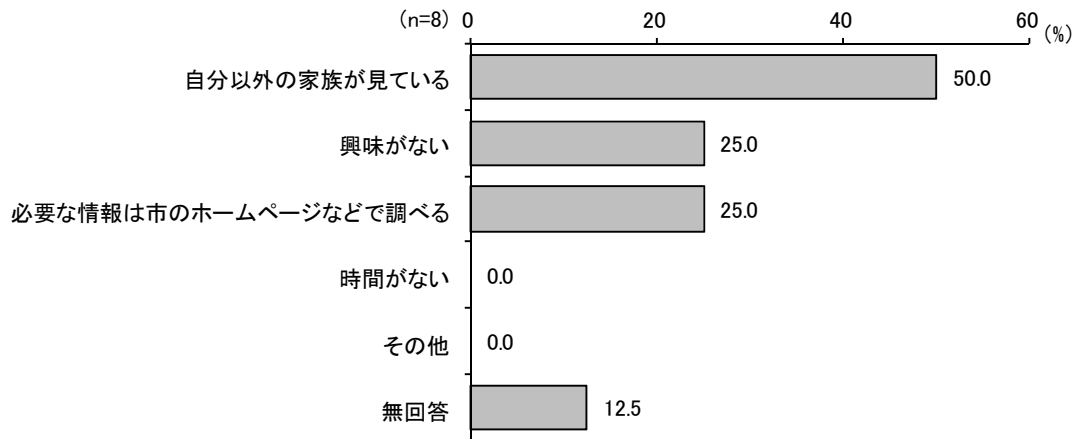
(16) 「広報いなぎ」を見ない理由

◇ 「自分以外の家族が見ている」が5割

問23-2 (問23で、「見たことがない」とお答えの方に)

「広報いなぎ」を見ない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

図4-16 「広報いなぎ」を見ない理由



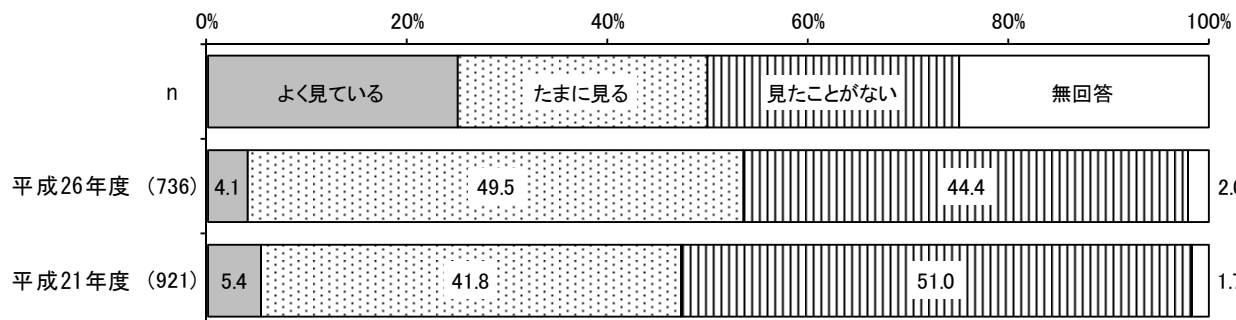
「広報いなぎ」を見ない理由については、「自分以外の家族が見ている」(50.0%)が最も多くなっている。次いで、「興味がない」(25.0%)、「必要な情報は市のホームページなどで調べる」(25.0%)の順となっている。(図4-16)

(17) 市のホームページの閲覧状況

◇ 「たまに見る」が5割弱

問24 あなたは、市の公式ホームページをご覧になったことがありますか。(○は1つ)

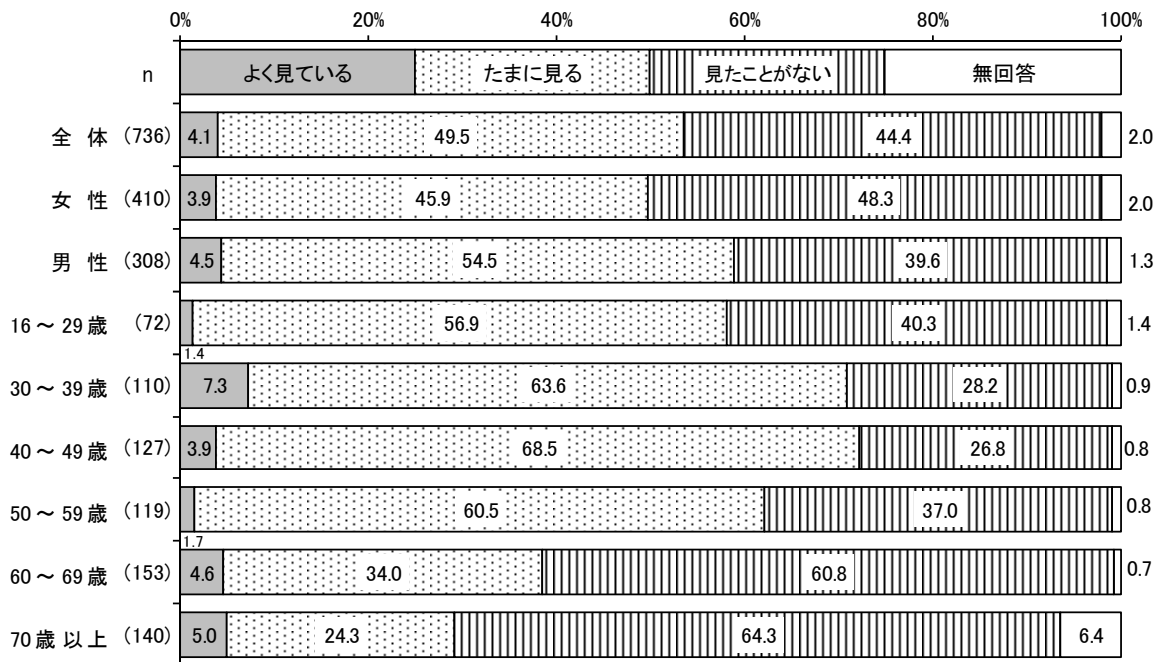
図4-17 市のホームページの閲覧状況



市のホームページの閲覧状況については、「たまに見る」(49.5%)が最も多くなっている。次いで、「見たことがない」(44.4%)、「よく見ている」(4.1%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「たまに見る」は7.7ポイント増加している。一方、「見たことがない」は6.6ポイント減少している。(図4-17)

図 4-17-1 市のホームページの閲覧状況－性別・年齢別

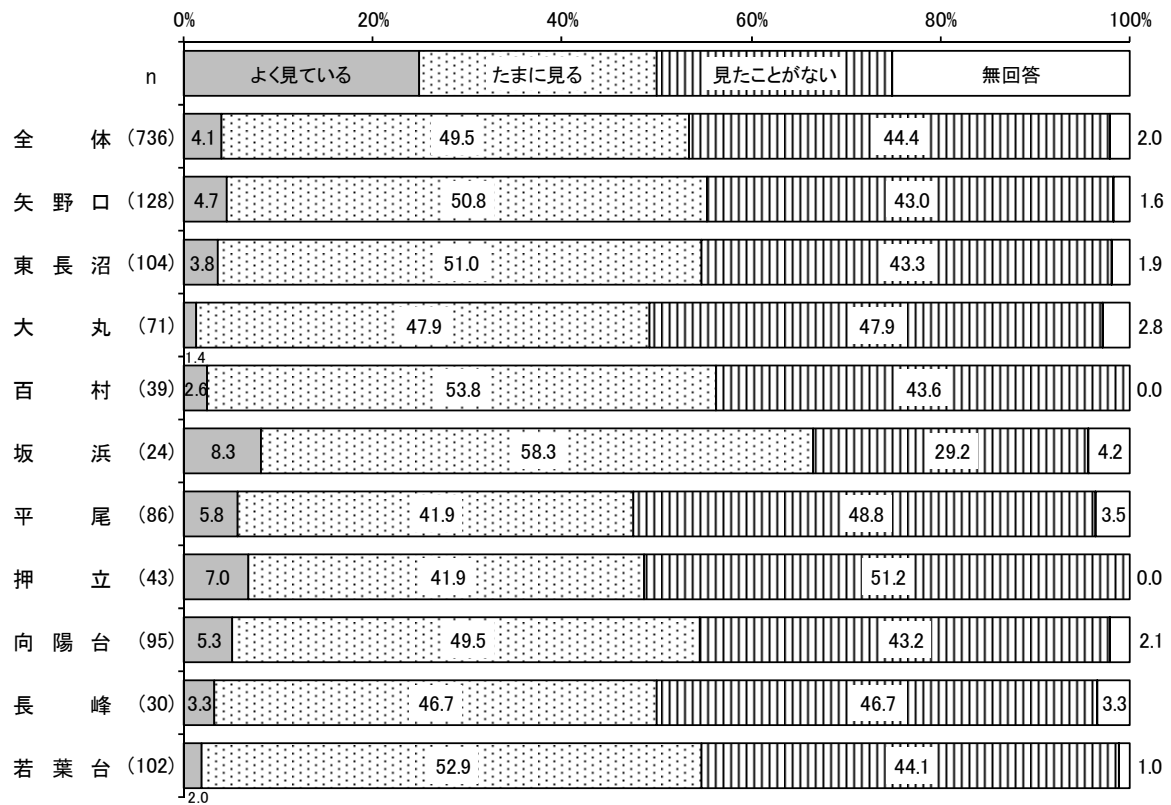


性別で見ると、女性は「見たことがない」が多く、男性よりも8.7ポイント高くなっている。男性は「たまに見る」が多く、女性よりも8.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「たまに見る」は、16～29歳で6割近く、30～39歳、40～49歳、50～59歳で6割以上と多くなっている。「見たことがない」は60～69歳、70歳以上で6割以上と多くなっている。

(図 4-17-1)

図4-17-2 市のホームページの閲覧状況－居住地域別



居住地域別でみると、「たまに見る」は、向陽台で5割弱、矢野口、東長沼、百村、坂浜、若葉台で5割以上と多くなっている。大丸と長峰では「たまに見る」と「見たことがない」が5割近くと同じ割合となっている。他に、「見たことがない」は平尾で5割近く、押立で5割強と多くなっている。

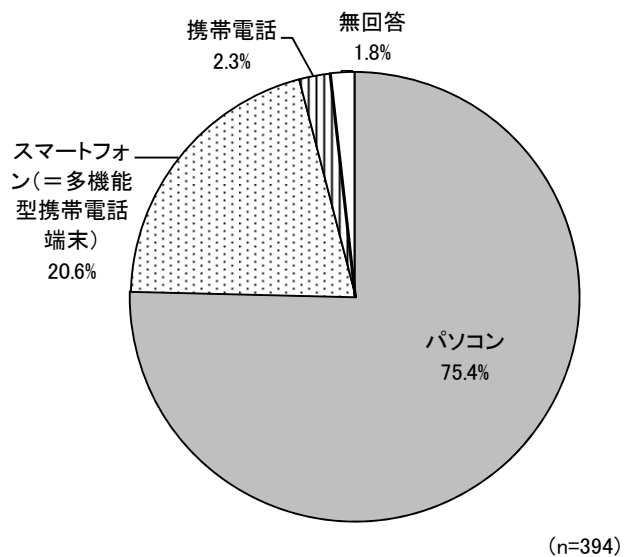
(図4-17-2)

(18) 公式ホームページをみる媒体

◇ 「パソコン」が7割台半ば

問24-1 (問24で、「よく見ている」または「たまに見る」とお答えの方に)  
公式ホームページをご覧になる際の主な媒体はなんですか。(○は1つ)

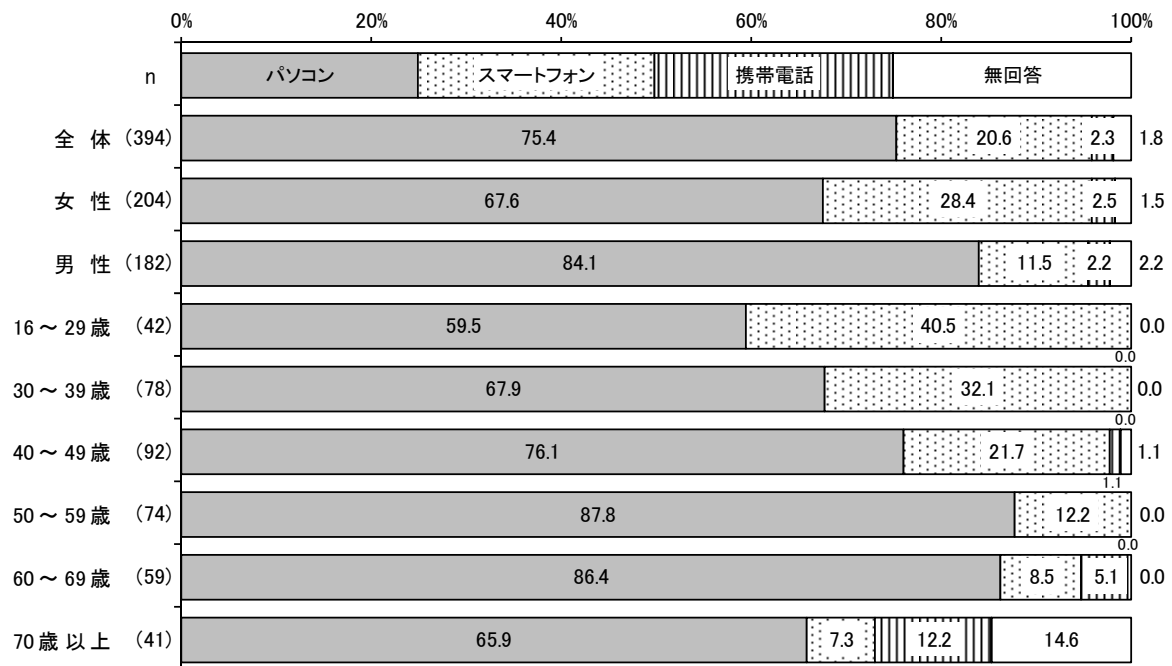
図4-18 公式ホームページをみる媒体



公式ホームページをみる媒体については、「パソコン」(75.4%)が最も多くなっている。次いで、「スマートフォン(=多機能型携帯電話端末)」(20.6%)、「携帯電話」(2.3%)の順となっている。(図4-18)



図 4-18-1 公式ホームページをみる媒体－性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに「パソコン」が多く、男性の方が女性よりも16.5ポイント高くなっている。「スマートフォン」は女性の方が男性よりも16.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢において「パソコン」が多く、特に50～59歳、60～69歳では9割近くとなっている。「スマートフォン」は16～29歳で約4割と他の年齢と比較して多くなっている。

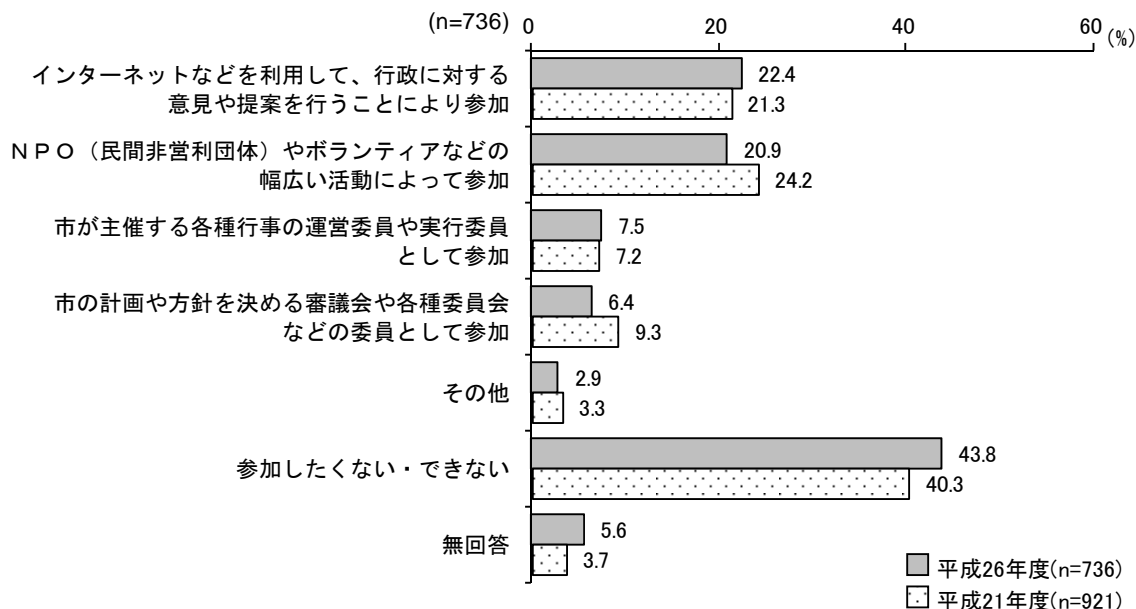
(図 4-18-1)

(19) 行政活動への参加方法

◇「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が2割強

問25 あなたは、どのようなことで市の行政活動に参加したいと思いますか。(〇は2つまで)

図4-19 行政活動への参加方法



行政活動への参加方法については、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」(22.4%)が最も多く、次いで、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」(20.9%)などの順となっている。

一方、「参加したくない・できない」(43.8%)は4割強を占めている。

前回調査と比較すると、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」は3.3ポイント減少しているが、他の項目については大きな変化はみられない。また、「参加したくない・できない」は3.5ポイント高くなっている。(図4-19)

図 4-19-1 行政活動への参加方法－性別・年齢別

(%)

	調査数 (n)	参加委員や実行委員として	市が主催する各種行事の運営	NPO やボランティアなど	インターネットなどを利用	インターネットなどを利用	市議会や各種委員会などの審	市の計画や方針を決める	その他	参加したくない・できない	無回答
全 体	736	7.5	20.9	22.4	6.4	2.9	43.8	5.6			
女 性	410	6.8	21.2	18.8	3.4	2.2	46.6	6.6			
男 性	308	8.4	19.8	27.9	10.1	3.6	40.3	3.6			
16 ～ 29 歳	72	8.3	13.9	33.3	5.6	1.4	37.5	2.8			
30 ～ 39 歳	110	6.4	25.5	30.0	3.6	2.7	42.7	2.7			
40 ～ 49 歳	127	4.7	22.8	30.7	7.1	1.6	38.6	3.9			
50 ～ 59 歳	119	7.6	16.8	27.7	5.9	1.7	45.4	2.5			
60 ～ 69 歳	153	11.8	21.6	17.6	7.2	3.9	42.5	5.2			
70 歳 以上	140	6.4	20.7	5.0	7.1	4.3	52.9	12.9			

性別で見ると、男女ともに「参加したくない・できない」が4割以上と多く、女性の方が男性よりも6.3ポイント高くなっている。次いで、女性は「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」が多くなっている。男性は「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が多く、女性よりも9.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢において「参加したくない・できない」が多く、特に70歳以上では5割強となっている。「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」はおおむね年齢が若いほど増加傾向となり、16～29歳では3割強となっている。（図 4-19-1）

図 4-19-2 行政活動への参加方法－居住地域別

(%)

	調査数 (n)	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO やボランティアなど幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市議会や各種委員会などの審議として参加	市の計画や方針を決める委員や各種委員会など	その他	参加したくない・できない	無回答
全体	736	7.5	20.9	22.4	6.4	2.9	43.8	5.6	
矢野口	128	10.2	21.9	24.2	9.4	-	38.3	5.5	
東長沼	104	8.7	16.3	20.2	3.8	4.8	47.1	6.7	
大丸	71	7.0	18.3	15.5	5.6	2.8	49.3	7.0	
百村	39	7.7	33.3	20.5	7.7	2.6	35.9	5.1	
坂浜	24	12.5	12.5	20.8	4.2	4.2	62.5	-	
平尾	86	8.1	17.4	15.1	11.6	3.5	46.5	8.1	
押立	43	4.7	16.3	23.3	2.3	2.3	48.8	9.3	
向陽台	95	8.4	29.5	26.3	4.2	1.1	38.9	4.2	
長峰	30	6.7	16.7	30.0	3.3	3.3	40.0	10.0	
若葉台	102	2.9	19.6	29.4	4.9	4.9	43.1	1.0	

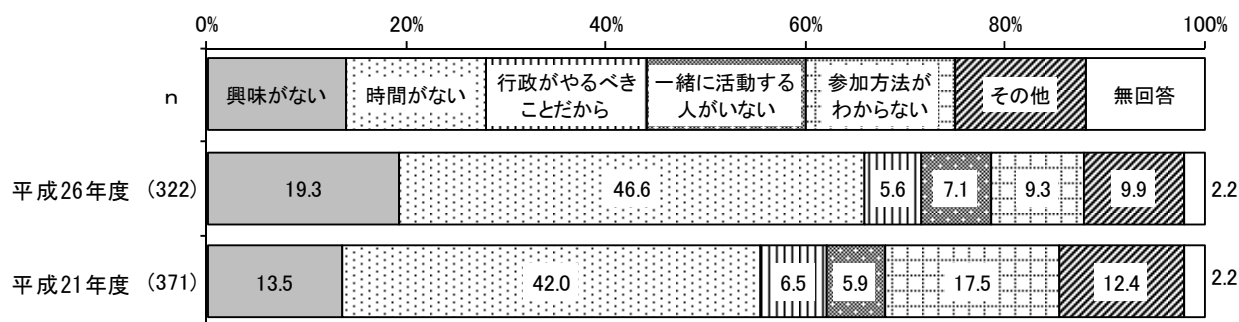
居住地域別で見ると、すべての地域において「参加したくない・できない」が多く、特に坂浜では6割強となっている。「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」は百村で3割強と多くなっている。また、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」は長峰で3割となっている。（図 4-19-2）

(20) 参加したくない・できない理由

◇「時間がない」が5割近く

問25-1 (問25で、「参加したくない・できない」とお答えの方に)  
参加したくない・できないと思った理由はなんですか。(〇は1つ)

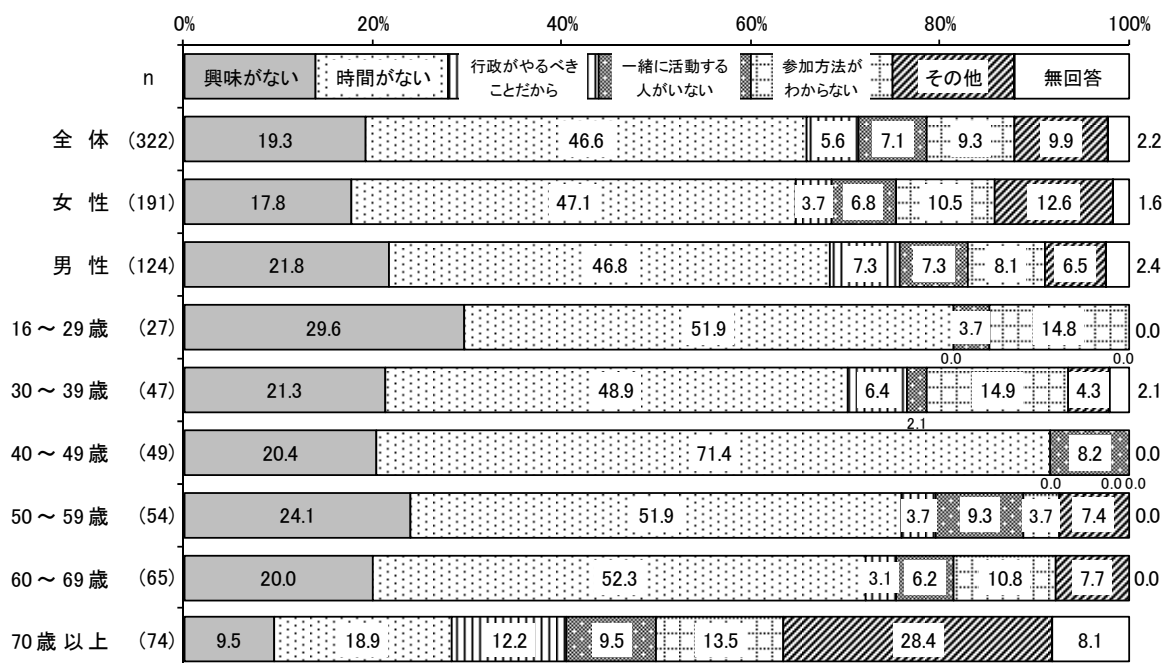
図4-20 参加したくない・できない理由



参加したくない・できない理由については、「時間がない」(46.6%)が最も多くなっている。次いで、「興味がない」(19.3%)、「参加方法がわからない」(9.3%)、「一緒に活動する人がいない」(7.1%)、「行政がやるべきことだから」(5.6%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「興味がない」は5.8ポイント、「時間がない」は4.6ポイントそれぞれ増加している。一方、「参加方法がわからない」は8.2ポイント減少している。(図4-20)

図 4-20-1 参加したくない・できない理由—性別・年齢別



性別で見ると、男女ともに「時間がない」が多くなっている。「興味がない」は男性の方が女性よりも4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70歳以上を除く年齢において「時間がない」が多く、特に40～49歳では7割強となっている。他に、「興味がない」は16～29歳で3割弱と他の年齢と比較して多くなっている。

(図 4-20-1)

## 5. 自由記入

男女平等や男女共同参画に関して日ごろ感じていることや、稲城市の男女平等施策について望むこと、市政に対するご意見、ご提案、ご感想などありましたら、ご自由にお書きください。

市政に対する意見等の回答件数は85件であった。その中から、抜粋した意見・提案・感想を掲載した。内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

### <健康・医療・福祉について>

- ・低所得者に対する保障を、家族単位でなく個人単位でどうにかよくしてほしい。(女性 20代)
- ・不妊治療の助成金を出して欲しい。東京都だけでなく市でも出している所があるのに稲城市は遅れていると思う。(女性 30代)
- ・市民病院だけでなく、地域医療充実のためにも駅近くなどにクリニックゾーンなどを設けてほしいです。子宮頸がん検診の年齢対象を広げたり、年に一度は受けられるようにするなど、各種健診はもっと充実させて欲しいです。(女性 30代)
- ・介護サービスの充実を望みます。(女性 30代)
- ・子どもの医療費負担に所得制限があるのは、大いに不満です。高い税金を払っているのに、更に負担させるのですか。所得制限をなくして、全員3割負担でなければ不公平です。近隣市は、所得制限をなくしているところもあります。(男性 40代)
- ・女性の健診を受けようと思い、申込みをしたら落選してしまいました。40才を過ぎて何かと身体の事は心配なので、健診できる人数を増やしてほしいです。(女性 40代)
- ・正社員になれない若者が多く給料が安定していないので、結婚年齢が遅くなる。これでは少子高齢化になってもおかしくはない。高齢になったとき、介護などサービスが安心して受けられるよう充実してほしい。保育園もきちんと完備してほしい。(女性 50代)
- ・公立保育園の充実を。(男性 60代)
- ・介護を必要とする方がこれから多くなってきます。市立病院があつて助かっていますが、地域の方々々と協力しあい暮しやすいまちを望みます。(女性 60代)
- ・高齢者が市や都の住宅で暮らせるようにしてほしい。市営や都営の安い住宅に何十年も入り生活している家族や、家賃が安いので沢山貯金してぜいたくに暮らしている方が多々いる。経営的に困っている精神障害者や年金の少ない方などに、市の方でもっと目を向けてほしい。何十年も都営に入っていること自体がおかしいので、時々検討すべきと思う。(女性 70代)

### <教育・文化について>

- ・稲城第二小学校が閉校したり、他の小学校と一緒になったりしないのか疑問に思います。東京都で、若葉台はマンモス校と呼ばれているのに、稲城第二小学校は一学年10~20人というのでは片寄り過ぎていると思います。人数が少ないのに学童クラブを別棟に建てる計画があると聞いたのですが、税金の無駄使いだと思います。坂浜の教育環境をもう少し考えてほしいと思います。(女性 20代)
- ・図書館の本を充実させたり、大学図書館や他の市立図書館の本を借りられるような仕組みを作してほしいです。(男性 30代)
- ・平尾地区にもプールやスポーツ施設をつくってほしい。(男性 30代)

- ・図書館（特に中央図書館）の設備充実が素晴らしい。大人も子どもも生涯学習の重要性を市が認識されている証拠。（女性 30代）
- ・結婚で稲城市に転居して、一番驚いたことはヤンキーの多さです。教育水準を上げてほしいのが一番の希望です。（女性 30代）
- ・今はネットで情報が得られるので、間違った情報で育ってきたと思う子ども達が多いと感じます。間違った情報に負けない土台のしっかりした教育システムを作って下さい。（女性 30代）
- ・学校等での保護者の係の負担をなくしてほしい。ごく一部の保護者の負担が大きいため、PTAの廃止を希望する。青少年の地区委員は毎年やる人がおらず、地区委員決めが大変である。青少年の必要性にも疑問を感じる。（男性 40代）

### ＜商工業・観光・農業について＞

- ・南山を切り崩して都市開発をするのは勝手ですが、元からある他の地域にも商業施設等を作るなど、もっと目の前の事を私達市民のために計画していただけないでしょうか。南多摩駅の周辺には何もありません。鉄道も高架化になったのだからスーパーや飲食店など活気ある一つの街にしたいです。（女性 20代）
- ・現在住んでいる矢野口周辺は、人口密度の割に周辺にスーパーが少ないので、週末になるとスーパーが大変混雑する。また家電量販店が近くになく不便で、飲食店も少ない。よって大型商業施設が矢野口地区にあればニーズはあると思いますので、ご検討をお願いします。（男性 30代）
- ・大型スーパーが少なくいつも混んでいるため不満です。増やしたら地域活性化すると思う。住む人口の方が多くなり、反比例している。（女性 30代）
- ・若葉台付近の大型店の出店をもう少し考えてほしい。道路が渋滞して迷惑です。（女性 50代）
- ・中央図書館、総合体育館等の主要な設備が市の西側によりすぎている。矢野口方面に大型の家電専門店を誘致してほしい。（男性 70代）

### ＜都市基盤整備・生活環境・防災や防犯について＞

- ・稲城市は坂道が多いので、電気自転車購入費補助があれば買いやすいと感じます。（男性 30代）
- ・小田急バスが高く遅い。稲城駅～新百合ヶ丘駅区間のルート分断などサイクルを改善して欲しい。街灯を全体的に増やして欲しい。（男性 30代）
- ・駅周辺は当然だが公共の場での歩きタバコはとても危険だし、ポイ捨ても多い。子どもを持つ親として許し難い行為です。早急に禁止もしくは喫煙所を設ける等対策をお願いします。（男性 30代）
- ・緑が多くて住みやすい環境ですが、手入れがしっかりされていないので、木が生い茂っていると周りの目が届かないため、防犯の面でもしっかりしてほしい。（女性 30代）
- ・押立付近の多摩川沿いを整備してほしい。利用している人は多いのに雑草が多くて夜見通しが悪い。矢野口方面はきれいなのに押立寄り残念。ホームレスも住んでいたようだし怖い。（女性 30代）
- ・JRの駅がせっかく新しくなったのに、ホームに柵が設置されなかったことが非常に残念でした。市は意見できなかったのでしょうか。（男性 40代）
- ・燃えないゴミ回収の日が月2回では少ないので、週1回にしたいです。（女性 40代）
- ・長峰の土地利用で、住宅街にガス配管工事会社を作るのは安全上問題があると思います。幹線道路沿いなら理解出来ますが、広くない道路をトラックが出入りするのには反対です。（女性 40代）
- ・若葉台地区に在住していますが、どんどん緑が失われています。キジ、白サギ、カモもいなくなりました。空いている土地がもったいないのわかりますが、家電量販店が3つも必要ですか。ポイ



捨てゴミも増えました。主婦が住みやすい街2位に稲城市が選ばれたそうですが、住みにくくなりつつある若葉台は寂しいです。これ以上緑をなくさないでほしいです。(女性 40代)

- ・稲城中央公園総合グラウンド及び学校周辺の歩道のアスファルトの補修をしてほしいです。路面が荒れて転倒の危険性があります。また防犯面から、街路灯の増設や街路灯まわりの植物の伐採を望みます。(男性 50代)
- ・平尾の歩道が悪いので、これから老人が増える事も考えて整備をしてもらいたい。(女性 50代)
- ・稲城市はすぐに消防がかけつける事ができるからと単体で消防をもっているが、子どもが東京消防庁の行事に参加した時、稲城市民は東京消防庁の中に入っていないので参加できないと言われた。都民税も稲城市民税も支払いをしているのに、稲城市民は2重払いでは。わがままを言わず東京消防庁の仲間入りをしてほしい。(女性 50代)
- ・これ以上宅地開発をしないでほしい。緑豊かな稲城がなくなってしまう。稲城に移り住んだ頃にはキジ、カッコウ、ジュウイチ、アオバズクツミ、アカゲラがいたのに、今では鳴き声を聴くことができなくなってきた。ヒバリやセッカの姿もほとんど見られなくなって残念です。(女性 50代)
- ・緑の大変美しい市です。公園などにもゴミは無く市民の意識も高く、大好きな街です。品のある街づくりをお願いしたいです。(女性 60代)
- ・他にもあると思うが、矢野口から親水公園への歩道の凸凹はひどすぎる(男性 70代)
- ・稲城について最近特に緑が失われていくのを感じます。昔の原っぱなどの空地がなくなり、駐車場のあとはマンションばかりです。マンションだらけの街だけは、やめてほしいです。(男性 70代)
- ・バスの左回りの存続につき、小田急線栗平駅への本数を増やして乗り継ぎがよいようにしてほしい。(女性 70代)
- ・矢野口の自転車置場はいつもいっぱいなので、もっと自転車置場を作ってほしい。(女性 70代)
- ・稲城市は、人口も増加し、交通量も増え、商業施設も多くなり、活気があふれた町になったように思います。樹木も育ち、緑豊かな町並みになった事も嬉しく思っています。(女性 70代)

### ＜市民参加・市政運営について＞

- ・稲城市は、このような意識調査で市政に対し意見をすることが少ないと感じます。今後も定期的に意識調査を実施して頂きたくよろしくお願いします。(男性 30代)
- ・広報紙は希望者だけ紙で配布し、その他はWeb上での閲覧で十分だと思います。時代はペーパーレスの方向ですし、資源節約にもなります。(女性 40代)
- ・地域ボランティアサークルの活動を通して、65才以上のいわゆる高齢者と呼ばれる方々は、まだまだ雇用の機会があってもよいのではないかと感じるようになりました。一方で、特定の仕事や子育てなどしていない20~50代の方が、地域の中でできることをしていくというような「在り方」なども広く自然に受け入れられ、またそのような仲間の方が少しずつ増えていくといいのではと感じています。(女性 40代)
- ・気軽に参加出来る催物等、地域単位で企画してほしい。(男性 70代)
- ・市の行政に関しては、いつも“広報いなぎ”を見て、職員の皆様のご苦勞に感謝しています。今後とも稲城市民のためにきめ細やかな目に見える町づくりにご尽力下さいますようお願いいたします。(女性 70代)



## 第4章 調査票



# 市民意識調査・男女共同参画に関する実態調査 ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃から市政にご理解・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、この度本市では、市民の皆さまの、日頃の市政に対する満足度やご意見・ご要望を把握し、今後の市政の基礎資料とするため**市民意識調査**を実施いたします。また、「第四次男女共同参画計画」を策定してさらなる男女共同参画施策の推進を図っていくために**男女共同参画に関する実態調査**を合わせて実施いたします。

この調査の対象者は、市内にお住まいの満 16 歳以上の方々に、住民基本台帳から無作為に 2,000 名を選ばせていただきました。2 種類の調査を同時に実施するため、幅広い年齢の方を対象に調査をお願いしております。該当しない設問もあるかと思いますが、ご了承ください。調査は無記名で行い、調査結果につきましては統計的な処理をいたします。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、稲城市のよりよい発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 26 年 7 月

稲城市長 高橋 勝浩

## 【ご記入にあたってのお願い】

1. あて名のご本人がご記入ください。この調査票に直接ご記入ください。
2. 生活状況などをご回答する設問については、平成 26 年 7 月 1 日現在でお答えください。
3. お答えは、あらかじめ設けてある選択肢の中から、あてはまる番号や記号に○印をつけてください。
4. 回答の○の数は、(○は1つ) (○は2つまで) (○はいくつでも) などのように指定していますので、それに合わせてください。
5. ご自分の答えが選択肢の中にない場合などは、「その他」を選び、( ) 内に具体的な内容をご記入ください。
6. 設問によっては一部の方だけにお答えいただく場合がありますので、**(~とお答えの方に)** に従ってお答えください。

- ◎ ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**7月31日(木)まで**にご投函ください。切手を貼る必要はありません。

## 《お問い合わせ》

- 1～10 ページに関して： 稲城市役所 総務部 秘書広報課  
電話：042-378-2111 (内線 522)
- 11～19 ページに関して： 稲城市役所 市民部 市民協働課  
電話：042-378-2111 (内線 273)
- (月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時00分)

## あなた自身のことについて

F 1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

- |      |      |
|------|------|
| 1 女性 | 2 男性 |
|------|------|

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。平成26年7月1日現在でお答えください。(○は1つ)

- |          |          |          |         |
|----------|----------|----------|---------|
| 1 16～19歳 | 3 30～39歳 | 5 50～59歳 | 7 70歳以上 |
| 2 20～29歳 | 4 40～49歳 | 6 60～69歳 |         |

F 3 あなたのお住まいはどこですか。(○は1つ)

- |       |      |      |       |        |
|-------|------|------|-------|--------|
| 1 矢野口 | 3 大丸 | 5 坂浜 | 7 押立  | 9 長峰   |
| 2 東長沼 | 4 百村 | 6 平尾 | 8 向陽台 | 10 若葉台 |

F 4 あなたは市内に何年間お住まいですか。(○は1つ)

- |           |             |           |
|-----------|-------------|-----------|
| 1 1年未満    | 3 5年～10年未満  | 5 20年以上   |
| 2 1年～5年未満 | 4 10年～20年未満 | 6 よくわからない |

F 5 あなたの現在の世帯の構成はどれですか。(○は1つ)

- |         |                |
|---------|----------------|
| 1 一人暮らし | 4 3世代世帯またはそれ以上 |
| 2 夫婦のみ  | 5 その他 ( )      |
| 3 2世代世帯 |                |

F 6 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1 農・林・漁業(家族従業者も含む)    | 6 学生          |
| 2 自営業(商店経営など)         | 7 家事専業(主婦・主夫) |
| 3 自由業(開業医、弁護士、司法書士など) | 8 無職          |
| 4 常勤の勤め(会社員、公務員など)    | 9 その他 ( )     |
| 5 パート、アルバイト、派遣など      |               |

(F 6で、「1」から「5」とお答えの方に)

F 6-1 あなたの職場は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- |        |        |
|--------|--------|
| 1 稲城市内 | 2 稲城市外 |
|--------|--------|

※以下の設問は、男女共同参画に関する実態調査で必要なため、伺います。

F7 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

- 1 している
- 2 していないがパートナーと暮らしている(事実婚)
- 3 していた(離婚・離別・死別など)
- 4 していない(未婚)

(F7で「1」または「2」とお答えの方に)

F7-1 あなたの世帯は、次のどれですか。(○は1つ)

- 1 共働き(ともにフルタイム)
- 2 共働き(どちらか、またはともにパートタイム)
- 3 夫(男性パートナー)だけ仕事を持っている
- 4 妻(女性パートナー)だけ仕事を持っている
- 5 夫婦とも無職
- 6 その他( )

F8 お子さんがいる方に伺います。お子さんは次のどれにあたりますか。

(同居しているかどうかは問いません。複数いる場合にはあてはまるものすべてに○)

- |           |       |              |
|-----------|-------|--------------|
| 1 0~3歳    | 3 小学生 | 5 義務教育終了後の年齢 |
| 2 4歳~未就学児 | 4 中学生 | 6 20歳以上      |

前半は、稲城市の暮らしやすさや今後の施策について、市民の皆さんがどのようなお考えをお持ちかをお聞きします。率直なご意見をお聞かせください。

## 稲城市の住みやすさについて

問1 あなたは、稲城市を住みやすいところだと思いますか。(○は1つ)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 住みやすい         | 3 どちらかといえば住みにくい |
| 2 どちらかといえば住みやすい | 4 住みにくい         |

問2 あなたは、これからもずっと稲城市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- |             |               |         |
|-------------|---------------|---------|
| 1 ずっと住み続けたい | 3 近いうちに転出する予定 | 5 わからない |
| 2 当分は住み続けたい | 4 転出したい       |         |

(問2で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分は住み続けたい」とお答えの方に)

問2-1 住み続けたい理由は何ですか。(○は2つまで)

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 自然環境が良い(緑や用水・農地など) | 7 医療・福祉が充実している  |
| 2 道路や街並みなど生活環境が整っている | 8 地域の人間関係が良い    |
| 3 通勤や通学に便利           | 9 まちに魅力やにぎわいがある |
| 4 働く場所がある            | 10 その他( )       |
| 5 教育・文化環境が良い         | 11 とくに理由はない     |
| 6 買物など生活が便利          |                 |

(問2で「3 近いうちに転出する予定」または「4 転出したい」とお答えの方に)

問2-2 転出したい理由は何ですか。(○は2つまで)

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 自然環境が悪い             | 7 医療・福祉が充実していない |
| 2 道路や街並みなど生活環境が整っていない | 8 地域の人間関係が悪い    |
| 3 通勤や通学に不便            | 9 まちに魅力やにぎわいがない |
| 4 働く場所がない             | 10 その他( )       |
| 5 教育・文化環境が悪い          | 11 とくに理由はない     |
| 6 買物など生活が不便           |                 |



## 稲城市での暮らしやすさの満足度について

問3 あなたは、保健・医療・福祉の施策やサービスに関する次の項目について満足していますか。 ア)～キ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	満足している	やや満足している	やや不満足である	不満である	わからない
ア) 乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス	1	2	3	4	5
イ) 成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス	1	2	3	4	5
ウ) 病院や診療所など医療サービス	1	2	3	4	5
エ) 休日急患診療や救急医療など医療体制	1	2	3	4	5
オ) 在宅介護支援など高齢者福祉	1	2	3	4	5
カ) 保育園や学童保育など子育て支援	1	2	3	4	5
キ) 障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉	1	2	3	4	5

問4 あなたは、教育・文化の施策やサービスに関する次の項目について満足していますか。 ア)～カ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	満足している	やや満足している	やや不満足である	不満である	わからない
ア) 幼稚園、小学校、中学校など学校教育	1	2	3	4	5
イ) 公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業	1	2	3	4	5
ウ) 市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業	1	2	3	4	5
エ) 体育施設などでのスポーツ・レクリエーション事業	1	2	3	4	5
オ) 非行防止活動など青少年健全育成事業	1	2	3	4	5
カ) 公共のスポーツ施設の状況	1	2	3	4	5

問5 あなたは、商工業・観光・農林業の施策に関する次の項目について満足していますか。ア)～キ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	満足している	満足している やや	不満である やや	不満である	わからない
ア) 日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5
イ) 市内の商店の数や商品の質や量	1	2	3	4	5
ウ) 駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気	1	2	3	4	5
エ) 消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供	1	2	3	4	5
オ) 地元における雇用の安定と確保	1	2	3	4	5
カ) 観光資源の活用やPR活動	1	2	3	4	5
キ) 農地の保全と活用	1	2	3	4	5

問6 あなたは、都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する次の項目について満足していますか。ア)～タ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	満足している	満足している やや	不満である やや	不満である	わからない
ア) 日常の交通の便利さ	1	2	3	4	5
イ) 駅周辺の利便性・快適性	1	2	3	4	5
ウ) 鉄道・バスの運行本数などの利便性	1	2	3	4	5
エ) 身近な生活道路の整備	1	2	3	4	5
オ) 幹線道路の整備	1	2	3	4	5
カ) 道路交通の安全性	1	2	3	4	5
キ) 安全で安心して暮らすための防犯対策	1	2	3	4	5
ク) 夜道を歩く時の安全・安心	1	2	3	4	5
ケ) 自然の豊かさ	1	2	3	4	5
コ) 公園・緑地の整備状況	1	2	3	4	5
サ) まちなみのゆとりやまちの美観	1	2	3	4	5
シ) ごみの収集状況	1	2	3	4	5
ス) ごみの減量化・リサイクルなどの取組み	1	2	3	4	5
セ) 不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策	1	2	3	4	5
ソ) 地震、風水害など自然災害に対する防災対策	1	2	3	4	5
タ) 消防や救急体制	1	2	3	4	5

問7 あなたは、市政運営に関する次の項目について満足していますか。ア)～エ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
ア) 男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制	1	2	3	4	5
イ) 広報いなぎやホームページなど行政情報の提供	1	2	3	4	5
ウ) 「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み	1	2	3	4	5
エ) 市役所職員の窓口などでの態度・対応	1	2	3	4	5

## 稲城市のまちづくりの方向について

問8 市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。(○は2つまで)

1 水と緑の豊かな田園都市	5 健康・福祉に力を入れた都市
2 道路や公園など生活環境が充実した都市	6 地域のふれあいのある都市
3 教育・文化に力を入れた都市	7 職場と住居が近接した活力ある都市
4 商業のさかんなにぎわいのある都市	8 その他 ( )

問9 稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。(○は2つまで)

1 だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり
2 人と文化を育むふれあいのあるまちづくり
3 だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり
4 環境にやさしく活力あふれるまちづくり
5 水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり
6 市民とともに歩むまちづくり
7 その他 ( )
8 わからない

## 今後の施策等について

### 【健康・医療・福祉について】

問10 健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 健康づくりや疾病予防など保健活動の充実 | 6 ひとり親家庭に対する福祉の充実   |
| 2 救急医療も含めた医療サービスの充実   | 7 ボランティア育成など地域福祉の充実 |
| 3 介護など高齢者福祉の充実        | 8 生活困窮家庭に対する援護の充実   |
| 4 障害者に対する福祉の充実        | 9 その他 ( )           |
| 5 子育て支援など児童福祉の充実      | 10 わからない            |

問11 高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 介護保険で受けられる在宅サービスの多様化 | 6 地域で高齢者を支える体制づくりの充実 |
| 2 介護老人福祉施設などの整備・充実     | 7 地域包括支援センターなどの機能強化  |
| 3 寝たきり予防など介護予防活動の充実    | 8 子どもや若い世代との交流の促進    |
| 4 介護する家庭への支援活動の充実      | 9 その他 ( )            |
| 5 生きがいづくりや社会参加活動の充実    | 10 わからない             |

問12 子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。  
(○は2つまで)

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 1 子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実      |  |
| 2 学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実 |  |
| 3 子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実      |  |
| 4 保育所の整備など保育サービスの充実             |  |
| 5 子どもを遊ばせる場所や機会の提供              |  |
| 6 子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化        |  |
| 7 その他 ( )                       |  |
| 8 わからない                         |  |

### 【教育・文化について】

問13 学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(○は2つまで)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 子どもの学力向上     | 7 開かれた教育現場の充実  |
| 2 少人数学級の実現     | 8 家庭、地域との連携の強化 |
| 3 国際理解教育の充実    | 9 学校施設、設備の充実   |
| 4 道徳教育の充実      | 10 特別支援教育の充実   |
| 5 いじめ、不登校対策の充実 | 11 その他 ( )     |
| 6 体育、運動、部活動の充実 | 12 わからない       |

問14 生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。（〇は2つまで）

- 1 公民館、図書館などでの事業の充実
- 2 体育施設などでの事業の充実
- 3 文化・スポーツ事業の情報提供の充実
- 4 文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実
- 5 文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実
- 6 文化財の保護
- 7 文化・生涯学習施設の整備
- 8 体育施設の整備
- 9 その他（ )
- 10 わからない

**【商工業・観光・農業について】**

問15 商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（〇は2つまで）

- 1 企業誘致や商店街の活性化など商業の振興
- 2 中小企業への支援など工業の振興
- 3 雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進
- 4 観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興
- 5 農地の保全や活用など農業の振興
- 6 その他（ )
- 7 わからない

**【都市基盤整備・生活環境・防災や防犯について】**

問16 都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（〇は2つまで）

- 1 きれいなまちなみの整備
- 2 狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備
- 3 地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備
- 4 身近な公園や緑地の整備
- 5 森林浴やキャンプなどができる公園などの整備
- 6 コミュニティバスなど公共交通の整備
- 7 大型の商業施設や商店街の整備
- 8 駐輪・駐車場施設の整備
- 9 その他（ )
- 10 わからない

問17 生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| 1 ごみの減量化やリサイクルの推進       | 5 大気や河川水質などの環境調査 |
| 2 温暖化防止など地球環境保全への取組み    | 6 その他 ( )        |
| 3 騒音や振動などの解消対策          | 7 わからない          |
| 4 不法投棄やポイ捨ての防止など環境美化の充実 |                  |

問18 防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(〇は2つまで)

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1 河川整備など治水対策の強化  | 5 地域の防犯体制の強化 |
| 2 大規模地震対策など防災の強化 | 6 消費生活の安全対策  |
| 3 火災予防や消防力の強化    | 7 その他 ( )    |
| 4 交通安全対策の充実      | 8 わからない      |

### 【市民参加・市政運営について】

問19 あなたのご家族では、ご近所とどの程度のつきあいをされていますか。(〇は1つ)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 親密なつきあいがある      | 3 どちらかといえばつきあいが無い |
| 2 どちらかといえばつきあいがある | 4 ほとんどつきあいが無い     |

問20 あなたは、地域の団体や組織(自治会、婦人会、老人クラブ、PTA、同好会など)に参加したいと考えていますか。(〇は1つ)

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1 現在参加しており、今後も続けたい  | 3 現在参加していないが、今後は参加したい  |
| 2 現在参加しているが、今後はやめたい | 4 現在参加しておらず、今後も参加したくない |

問21 あなたは、稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 大いに関心がある | 3 あまり関心がない  |
| 2 やや関心がある  | 4 まったく関心がない |

問22 あなたは、市民と行政との協働(パートナーシップ)により、まちづくりを進めることについて、どのように考えていますか。(〇は1つ)

- |   |
|---|
| 1 市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい |
| 2 行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい          |
| 3 議会と行政の責任で進めることが望ましい                         |
| 4 その他 ( )                                     |

問23 市では、「広報いなぎ」を毎月1日と15日に発行し、ポスティングにより全戸配布をしています  
が、あなたはどの程度読んでいますか。(○は1つ)

- |            |              |           |
|------------|--------------|-----------|
| 1 よく読んでいます | 3 必要なところだけ読む | 5 見たことがない |
| 2 ざっと目を通す  | 4 ほとんど読まない   |           |

(問23で「1」から「4」とお答えの方に)

問23-1 「広報いなぎ」の紙面内容に期待することはありますか。(○は1つ)

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| 1 市や行政機関からのお知らせの充実       | 4 現在のままでよい |
| 2 写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面 | 5 その他 ( )  |
| 3 地域の行事などを紹介する記事の充実      |            |

(問23で「5 見たことがない」とお答えの方に)

問23-2 「広報いなぎ」を見ない理由はありますか。(○はいくつでも)

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 1 時間がない        | 4 必要な情報は市のホームページなどで調べる |
| 2 興味がない        | 5 その他 ( )              |
| 3 自分以外の家族が見ている |                        |

問24 あなたは、市の公式ホームページをご覧になったことがありますか。(○は1つ)

- |          |         |           |
|----------|---------|-----------|
| 1 よく見ている | 2 たまに見る | 3 見たことがない |
|----------|---------|-----------|

(問24で「1 よく見ている」または「2 たまに見る」とお答えの方に)

問24-1 公式ホームページをご覧になる際の主な媒体はありますか。(○は1つ)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 1 パソコン                  | 3 携帯電話 |
| 2 スマートフォン (=多機能型携帯電話端末) |        |

問25 あなたは、どのようなことで市の行政活動に参加したいと思いますか。(○は2つまで)

- |  |
|--|
| 1 市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加            |
| 2 NPO (民間非営利団体) やボランティアなどの幅広い活動によって参加  |
| 3 インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加 |
| 4 市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加       |
| 5 その他 ( )                              |
| 6 参加したくない・できない                         |

(問25で「6 参加したくない・できない」とお答えの方に)

問25-1 参加したくない・できないと思った理由はありますか。(○は1つ)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 興味がない        | 4 一緒に活動する人がいない |
| 2 時間がない        | 5 参加方法がわからない   |
| 3 行政がやるべきことだから | 6 その他 ( )      |

ここからは、男女共同参画社会の実現に向けて、市民の皆さんがどのようなお考えをお持ちかをお聞きします。「男女平等推進いなぎプラン」の進捗状況を検証し、今後の課題を把握する基礎資料となりますので、率直なご意見をお聞かせください。

## 男女平等意識について

問26 あなたは現在、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。ア)～ケ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない・判断できない
ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ) 職場	1	2	3	4	5	6
ウ) 教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）	1	2	3	4	5	6
エ) 社会活動（地域活動・ボランティア・PTAなど）	1	2	3	4	5	6
オ) 余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）	1	2	3	4	5	6
カ) 政治（の場）	1	2	3	4	5	6
キ) 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
ク) 社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
ケ) 全体として	1	2	3	4	5	6

問27 あなたが学校における「男女平等」を推進する上で、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(○は3つまで)

- 1 出席簿や座席などを男女で分ける習慣をなくすこと
- 2 学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと
- 3 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること
- 4 男女平等・男女共同参画の研修を通じて教師自身の意識を変えていくこと
- 5 学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと
- 6 校長・副校長などに女性を積極的に登用すること
- 7 PTAなどを通じ、男女平等・男女共同参画への理解と協力を深めること
- 8 その他（ )
- 9 とくにない
- 10 わからない



## 働くことについて

問28 現在、仕事をしている方に伺います。あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女差があると思いますか。それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1 募集、採用時に差がある       | 8 女性には結婚退職や出産退職の習慣がある |
| 2 賃金、昇給に差がある        | 9 住宅資金の貸付に差がある        |
| 3 昇進、昇格に差がある        | 10 定年に格差がある           |
| 4 女性の仕事は補助的業務や雑務が多い | 11 時間外労働に差がある         |
| 5 教育訓練や研修の機会に差がある   | 12 その他 ( )            |
| 6 女性を幹部職員に登用しない     | 13 とくに男女の差はない         |
| 7 能力が正当に評価されない      | 14 わからない              |

問29 現在、パート、アルバイト、派遣などで働いている方に伺います。あなたが現在の働き方を選んだのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- |                            |
|----------------------------|
| 1 自分の都合の良い日や時間に働きたい        |
| 2 自宅の近くで働ける                |
| 3 勤務時間・勤務日数が短い             |
| 4 仕事が比較的簡単である              |
| 5 非課税限度額(年間103万円以下)で働きたかった |
| 6 正社員としては適当な仕事が見つからなかった    |
| 7 正社員に比べ、辞めたい時に辞めやすい       |
| 8 残業がない                    |
| 9 その他 ( )                  |

問30 男女ともに働きやすい社会をつくるためには、どのようなことが重要だと考えていますか。(〇は3つまで)

- |   |
|---|
| 1 労働時間の短縮やフレックス制(一定の定められた時間帯の中で、始業時刻と終業時刻の決定を個々の労働者に委ねる制度)を導入する |
| 2 既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備する                                     |
| 3 仕事内容の男女の格差をなくす  |
| 4 家事・育児・介護を配偶者や家族で協力して分担する                                      |
| 5 保育施設や保育サービスを充実する  |
| 6 ホームヘルパー制度など、介護支援サービスを充実する                                     |
| 7 母性保護規定、育児休業、介護休業、再雇用制度などの制度を充実する                              |
| 8 パート、アルバイト、派遣などの労働条件を充実する                                      |
| 9 ライフスタイルや働き方に関係なく、社会保障(年金など)や税制を公平にする                          |
| 10 その他 ( )  |

問31 働く男女が生活も仕事も両立できるよう支援するため「改正育児・介護休業法」が施行されています。「育児・介護休業制度」は男女ともに取得できる制度です。あなたはこの制度を知っていますか。また利用したことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

育児休業・介護休業それぞれについてお答えください。↓	知っており、利用したことがある	知っているが利用したことはない	はじめて聞いた	(「2」「3」とお答えの方に) 利用意向はありますか。 (○は1つ)				(「エ」とお答えの方に) 利用できない理由は何ですか。 (○は1つ)				
				利用するつもりである	利用するつもりはない	利用する必要性がない	利用したいが利用できない	自分の仕事が多忙になる	職場で利用しにくい雰囲気がある	業務評価に影響する	経済的に生活が成り立たなくなる	その他( )
	育児休業	1	2	3	ア	イ	ウ	エ	a	b	c	d
介護休業	1	2	3	ア	イ	ウ	エ	a	b	c	d	e

## 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問32 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）」の優先度について伺います。(○はそれぞれ1つ)

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
ア) 実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
イ) 理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

## 結婚・家庭生活について

問33 次のような考え方について、あなたの意見にいちばん近いものはどれですか。ア)～ク)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
ア) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
イ) 女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである	1	2	3	4	5
ウ) 男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい	1	2	3	4	5
エ) 女性は経済的に自立する必要はない	1	2	3	4	5
オ) 結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
カ) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
キ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
ク) 妻は当然夫の墓に入るものだ	1	2	3	4	5

問34 あなたの家庭では、以下の家事について、女性と男性のどちらがより多くかかわっていますか。ア)～キ)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	女性(妻、母親、祖母、娘など)	男性(夫、父親、祖父、息子など)	女性・男性がほぼ同じように担っている	家庭に一方の性しかない(単身者など)	その他(ヘルパーなど)	育児や介護の対象がない
ア) 食事の準備	1	2	3	4	5	X
イ) 食事の後片付け	1	2	3	4	5	
ウ) 部屋の掃除	1	2	3	4	5	
エ) 洗濯	1	2	3	4	5	
オ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	
カ) 子どもの世話や教育	1	2	3	4	5	6
キ) 高齢者・病人の介護	1	2	3	4	5	6

問35 現在、夫婦は同じ名字（姓）を名乗るよう、法律で義務づけられています。あなたは、夫婦の名字についてどのように考えていますか。（○は1つ）

- 1 夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない
- 2 結婚前の名字（姓）を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい
- 3 結婚前の名字（姓）を名乗れるように法律を改めた方がよい
- 4 その他（ ）

## 男女間の暴力（DV）や人権について

問36 テレビ・映画・新聞・雑誌・インターネット・コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えていますか。（○はいくつでも）

- 1 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれる
- 2 女性のイメージや男性のイメージについてかたよった表現をしている
- 3 性・暴力表現を望まない人や子どもの目にも触れてしまう
- 4 児童に対する暴力や性犯罪を助長する
- 5 女性に対する暴力や性犯罪を助長する
- 6 女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている
- 7 その他（ ）
- 8 とくに問題はない

問37 あなたの職場や学校などにセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）はありますか。次のようなことを自分自身が受けていたり、見たり聞いたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

- 1 性的な話をされたり、性的な経験について尋ねられた
- 2 容姿や服装、年齢、身体的特徴について話題にされた
- 3 結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問されたり、話題にされた
- 4 「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などと言われた
- 5 「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされた
- 6 週刊誌などのヌード写真をみせられた
- 7 不必要に身体をさわられた
- 8 宴会などでお酌やデュエットを強要されたり、席を指定された
- 9 執拗に交際を求められた
- 10 立場や地位を利用して、性的な関係を迫られた
- 11 理不尽な誘いを断ったら、パワーハラスメント（社会的立場を利用した嫌がらせ）を受けた
- 12 その他（ ）
- 13 1～12のような行為は、受けたことも見たり聞いたりしたこともない

問38 現在、配偶者やパートナーがいる方、または過去にいた方に伺います。あなたは、次のような行為を配偶者やパートナーから受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

- 1 人前で馬鹿にされたり、人格を否定するようなことを言われた
- 2 行動を監視されたり、制限された
- 3 交友関係や電話、メールなどをチェックされた
- 4 大切にしているものを、わざと壊されたり捨てられた
- 5 生活費を渡してくれなかったり、自由になるお金を制限された
- 6 理由もわからず無視され続けた
- 7 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた
- 8 意に反した性的な行為を強要された
- 9 避妊に協力してくれない
- 10 殴るふりをするなどして脅された
- 11 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつけられるなどの暴行を受けた
- 12 首を絞める・刃物を持ち出すなど、命に危険を感じるくらいの暴行を受けた
- 13 別れた配偶者などから、嫌がらせや、つきまとい、執拗なメールなどのストーカー行為を受けた
- 14 1～13のような行為は、受けたことがない

(問38で「1」から「13」とお答えの方に)

問38-1 あなたは誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 1 家族・親族       | 6 役所の相談窓口(「女性の悩み相談」など) |
| 2 友人・知人       | 7 配偶者暴力相談支援センター        |
| 3 同じような経験をした人 | 8 医師、カウンセラーなど          |
| 4 家庭裁判所、弁護士   | 9 その他( )               |
| 5 警察          | 10 誰にも相談しなかった          |

(問38-1で「10 誰にも相談しなかった」とお答えの方に)

問38-1-1 誰にも相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 どこ(誰)に相談してよいかわからなかった
- 2 相談する人がいなかった
- 3 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 4 相談しても無駄だと思った
- 5 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思った
- 6 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
- 7 他人を巻き込みたくなかった
- 8 子どもに危害が及ぶと思った
- 9 自分にも悪いところがあると思った
- 10 相談するほどのことではないと思った
- 11 その他( )

## 社会参加・地域参加について

問39 あなたは次のようなグループやサークル、団体などの活動に参加したことがありますか。  
(○はいくつでも)

- 1 自治会や町内会、商店会などの地域活動
- 2 保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動
- 3 子ども会や青少年スポーツチームなどの活動や世話
- 4 趣味やスポーツなどの活動
- 5 地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
- 6 環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動
- 7 高齢者や障害のある人の介護などのボランティア活動
- 8 その他 ( )
- 9 参加していない

(問39で「1」から「8」とお答えの方に)

問39-1 あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。(○はいくつでも)

- 1 団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある
- 2 女性が役職に就きたがらない
- 3 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
- 4 女性の参加が少ない
- 5 男性の参加が少ない
- 6 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある
- 7 男性が女性を対等なパートナーとして見ていない
- 8 女性の意見が聞き入れられない
- 9 その他 ( )
- 10 とくにない



## 男女共同参画の推進について

問40 以下の言葉で、あなたが見たり聞いたりしたことがあるもの、知っているものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

- 1 男女共同参画社会
- 2 男女共同参画社会基本法
- 3 女子差別撤廃条約
- 4 男女雇用機会均等法
- 5 DV 防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）
- 6 ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
- 7 ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
- 8 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 9 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 10 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
- 11 見たり聞いたりしたものはない

問41 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思うことは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 女性が自身の経済力を向上させること
- 2 男性が家事・育児・介護に積極的に関わること
- 3 「女だから」「男だから」という偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること
- 4 子どもの時から男女平等教育を行うこと
- 5 男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること
- 6 各自治体で男女平等に関する条例を制定すること
- 7 企業・官庁などで、女性管理職が多く登用されること
- 8 働きやすくなるように保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実すること
- 9 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進めること
- 10 その他（ )
- 11 わからない







## 市民意識調査 結果報告書

平成26年12月

発行 稲城市

編集 稲城市総務部秘書広報課

稲城市東長沼2 1 1 1番地

042-378-2111 (代)